

平成26年度

# 事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

# 目次

## I 組織と業務

1 名称及び所在地	-----	1
2 管轄区域	-----	1
3 職員及び業務	-----	1
4 業務分掌表	-----	1

## II 事業実績

1 農作物有害動植物発生予察事業		
1) 調査の種類及び方法		
(1) 指定病害虫	-----	3
(2) 指定外病害虫	-----	3
(3) 巡回調査ほ場数	-----	4
2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成26年産）		
(1) 早期水稲	-----	5
(2) 普通期水稲	-----	5
(3) カンショ	-----	5
(4) 大豆	-----	5
(5) ジャガイモ	-----	5
(6) かんきつ類（露地栽培）	-----	5
(7) 茶	-----	6
(8) 冬春きゅうり	-----	6
(9) 冬春ピーマン	-----	6
(10) 冬春トマト	-----	6
(11) いちご	-----	6
(12) 秋冬だいこん	-----	7
3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1) 水稲、かんきつ病害の初発日		
ア 水稲	-----	8
イ かんきつ	-----	8
(2) 予察灯におけるウンカ類の初飛来日	-----	8
4) 予察灯（白色60W）における水稲害虫の誘殺状況		
(1) 延岡	-----	9
(2) 佐土原	-----	10
(3) 国富	-----	11
(4) 都城	-----	12
5) コブノメイガの発消長	-----	13

6) フェロモントラップによる誘殺状況		
(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 5
(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 7
(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 9
(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	2 1
(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 3
7) 果樹カメムシ類の誘殺状況		
(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 5
(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 9
8) 農作物有害動植物の発生及び防除状況		
(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 3
(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 9
9) 情報（警報、注意報、特殊報、防除情報）		
(1) 発表情報一覧	-----	4 6
(2) 情報の内容	-----	4 7
2 病害虫発生予察情報高度化事業		
ニカメイガの発生消長の変化に伴う防除時期の検討	-----	7 3
茶園におけるチャトゲコナジラミの発生消長調査	-----	7 5
3 特殊病害虫侵入警戒調査事業		
1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	7 6
2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 7
3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	8 0
4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	8 0
5) ウメ輪紋ウイルス発生調査	-----	8 0
6) キウイフルーツかいよう病Psa3系統の緊急全国調査	-----	8 1
4 発生予察調査実施基準の新規手法策定事業		
トマト葉かび病およびすすかび病における調査基準(案)の実証	-----	8 2
キュウリのアザミウマ類における発生調査基準(案)の実証	-----	8 5
5 その他の調査、検定等		
1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	8 7
2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	8 9
3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	9 0
<b>III その他</b>		
1 病害虫防除員の設置状況	-----	9 1
2 巡回調査ほ場の分布図	-----	9 2
3 気象表	-----	9 3

# I 組織と業務

## 1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

※ 平成 23 年 4 月に総合農業試験場病虫害防除・肥料検査課として統合されたが、病虫害防除・肥料検査センターとしての名称は存続する。

## 2 管轄区域

県内全域 (9 市 1 4 町 3 村)

## 3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 寺 本 敏	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること
主 幹 倉 富 文 代	2 病虫害の適正防除指導に関すること
主 査 森 下 勝	3 病虫害の診断及び検定に関すること
〃 久 野 公 子	4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること
主任技師 斎 藤 伸 弘	5 農薬指導取締に関すること
技 師 若 杉 潤 也	6 農薬安全使用指導に関すること
非常勤職員 福 川 利 玄	7 その他植物防疫に関すること
野 中 耕 次	8 肥料の分析及び取締に関すること
(兼務職員)	
土壌環境部	
特研兼副部長 有 簾 隆 男	
主任研究員 小 窪 正 人	
主任研究員 杉 田 浩 一	
専門技師 今 村 幸 久	

## 4 業務分掌表 (病虫害防除関係のみ記載)

主担当	副担当	分 掌 事 務
寺 本	倉 富	1 センターの総括に関すること
倉 富	森 下	1 植物防疫関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成総括に関すること 3 農薬取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	久 野	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野菜(きゅうり、ピーマンなど)、花きの病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 情報ネットワーク保守・管理に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> <li>6 マイナー作物の農薬登録促進の総括に関すること</li> </ol>
久 野	斎 藤	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野菜(トマト、イチゴなど)の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 発生予察の手法検討委託事業に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> </ol>
斎 藤	若 杉	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 普通作物等の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 特殊病害虫侵入警戒調査対策事業に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> <li>6 薬品等の保管管理に関すること</li> </ol>
若 杉	森 下	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 果樹、茶の病害虫発生予察に関すること</li> <li>2 宮崎方式 ICM 普及ばく進事業に関すること</li> <li>3 重要病害虫緊急防除事業に関すること</li> <li>4 病害虫診断対策に関すること</li> <li>5 農薬取締に関すること</li> </ol>

## Ⅱ 事 業 実 績

### 1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

#### 1) 調査の種類及び方法

##### (1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ
	サツマイモ	ハスモンヨトウ
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ダイズ	吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、カメムシ類、ミカンハダニ
	チャ	炭疽病、カンザワハダニ、ハマキムシ類
野菜	キュウリ	うどんこ病、灰色かび病、べと病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	トマト	疫病、灰色かび病、アブラムシ類
	ダイコン	アブラムシ類、コナガ
	イチゴ	灰色かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ

##### (2) 指定外病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、稲こうじ病、黄萎病、黄化萎縮病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、内穎褐変病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ、フタオビコヤガ
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズズメ、ドウガネブイブイ、ナカジロシタバ
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ、ヨトウガ
	ダイズ	さび病、紫斑病、立枯性病害、葉焼病、腐敗豆、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、クキモグリバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、マメコガネ、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシガ、ミツモンキンウワバ

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
果樹等作物	カンキツ	青かび病、黄斑病、日やけ炭疽病、にせ黄斑病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、クサギカメムシ、コアオハナムグリ、チャノキイロアザミウマ、ツノロウムシ、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、ヤノネカイガラムシ
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ
野菜	キュウリ	疫病、褐斑病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、アザミウマ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、アザミウマ類、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、菌核病、斑点病、葉かび病、モザイク病、輪紋病、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、ハモグリバエ類、すすかび病
	ダイコン	萎黄病、白さび病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ
	イチゴ	萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、輪斑病、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	12	6			10	4		32
普通期水稲	4		10	8		10	8	40
ダイズ	2		6					8
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	4		4		2			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	12	2	2			3		19
冬春ピーマン	4	3			6			13
冬春トマト	3				6	2		11
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	4	4			13
計	59	20	33	14	38	27	12	203

## 2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成26年産）

### (1) 早期水稻

葉いもちの初発生が5月30日と平年より遅かった。6月以降は本病の発生に好適な条件が続いたが、栽培期間をとおして発生量は少なく、穂いもちについては平年に比べて少発生であった。

紋枯病は穂ばらみ以降発生がみられ、概ね平年並～やや少の発生で推移した。

スクミリンゴガイの本田での越冬量は概ね平年並で、5月中旬の分けつ期においても概ね平年並の発生であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイネ科雑草での生息密度は平年並で、7月中旬の本田での発生面積も概ね平年並の発生であった（防除情報第2号（H26.6.13））。

### (2) 普通期水稻

葉いもちの発生は6月中旬までは発生未確認であったが、6月以降は本病の発生に好適な条件が続いたため、7月中旬以降は概ね平年並の発生で推移した。出穂後の穂いもちについては平年並の発生であった。

紋枯病は8月までは雨が平年よりも少なかったため、湿度が上がらず、発病に好適条件ではなかったため、栽培期間をとおして概ね平年並～少の発生であった。

セジロウンカは初飛来が6月6日と平年よりもやや早かったが、主要飛来が確認されたのは7月第3半旬と平年よりも遅かったことから、栽培期間をとおして概ね平年並～やや少の発生であった。

トビロウンカは初飛来が7月3日と平年より遅く、主要飛来が確認されたのは7月第3半旬であった。その後、世代交代を繰り返すことで発生量は大きく増加し、平年に比べてやや多～多で推移したが、最も増加する第3世代の発生が収穫時期と重なったこともあり、早刈りの対策がなされ、坪枯れなどの被害は警報を発令した前年度よりも少なかった（防除情報第4号（H26.7.25）、病害虫予察注意報第1号（H26.8.15）、病害虫予察注意報第2号（H26.9.17））。

コブノメイガは初飛来が6月23日で平年よりも早かったが、断続的に飛来が確認されたのは7月下旬以降であった。このため、世代交代が例年ほど進まず、栽培期間を通して平年に比べてやや少～少の発生であった。

斑点米カメムシ類は平年に比べて概ねやや少の発生であった。

### (3) カンショ

イモキバガ、ハスモンヨトウ、ナカジロシタバの発生は概ね平年並の発生であったが、ほ場間差は大きかった。

### (4) 大豆

べと病は子実肥大期に増加し、平年に比べやや多の発生であった。葉焼病は確認されなかった。

ハスモンヨトウと吸汁性カメムシは平年並の発生であった。

### (5) ジャガイモ

疫病の発生は栽培期間をとおして平年並～やや少と少なかった。アブラムシ類については概ねやや多の発生であった。

### (6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病、黒点病の葉での初発生は平年よりやや早かった。かいよう病の葉での初発生

は平年よりやや遅かった。果実での初発生はそうか病、かいよう病いずれも平年よりやや早かった。

ミカンハダニの発生量は7月まで平年並～やや少であったが、8月以降は発生量が急増し、11月は多発生となった。

果樹カメムシ類は、フェロモントラップでの誘殺数は4月から平年並～やや少で推移した。予察灯での誘殺数は一部地域で平年より多～やや多であった。果樹園での飛来は8月中旬から確認されはじめ、一部の園では果実への被害が確認された。

#### (7) 茶

炭疽病、輪斑病は、年間を通して平年並で推移した。山間部では、9月以降もち病の発生が平年よりやや多であった。

チャノココクモンハマキ、チャハマキの発生は一年を通して平年並であった。チャノホソガの発生は一部地域ではやや多であった。カンザワハダニ、クワシロカイガラムシは、平年並の発生であった。

#### (8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成25年9月～26年6月）

べと病は年内の発生は少なかったものの年明け以降増加し、平年に比べてやや多の発生であった。灰色かび病は平年並、褐斑病は少、うどんこ病はやや少の発生であった。黄化えそ病は、年内は発生ほ場が多く、その後新規発生ほ場は減少したが、栽培期間を通して発生が確認され、調査を開始した平成22年以降最も多い発生であった。

ミナミキイロアザミウマは年内から発生しており、発生面積率は高く推移したものの、発生程度は年内は高く、防除等の徹底により年明け以降は比較的強く抑えられていた。しかし、春先になって気温の上昇に伴い発生程度も高くなり、年間を通してはやや多の発生であった。コナジラミ類も栽培当初は多く確認されたもののその後減少し、春先になり再び増加したが、全体としては平年並みの発生であった。ハスモンヨトウは定植直後に発生が見られたものの、その後は確認されず、全体として少の発生であった。

#### (9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成25年9月～26年6月）

モザイク病の発生は栽培期間を通して見られなかった。斑点病は平年並の発生であったが、年明け以降発生面積が多くなった。うどんこ病は栽培期間中発生が続き、ほ場間差は大きかったが、全体として平年に比べてやや多の発生であった。灰色かび病は栽培期間を通して発生はみられなかった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から見られ、期間を通じて発生が確認され、概ねやや多の発生であった。ヒラズハナアザミウマは11月以降確認されるようになり、概ね多の発生であった。

#### (10) 冬春トマト（栽培期間：平成25年9月～26年3月）

灰色かび病は1月から全県下で発生が確認され、2月の曇雨天の影響でやや多の発生となった。

タバココナジラミ類は定植直後から発生がみられたが、栽培期間を通して平年並の発生で、黄化葉巻病については、年内に発生がみられたものの、その後は確認されなかった。

#### (11) いちご（栽培期間：平成25年9月～26年3月）

うどんこ病は栽培初期からみられたが、果実での発生は少なく、平年並～やや少で推移した。灰色かび病は2月の曇雨天の影響から、2月以降の発生は平年よりやや多となった。炭疽病は栽培初期から発生がみられ、年内は平年並で推移し、春先からはやや多の発生で

あった。

ハダニ類は定植直後は平年並の発生であったが、その後は栽培期間を通して多～やや多の発生で推移した。ハスモンヨトウは平年並み～やや少の発生であった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：平成25年9月～25年12月）

秋冬だいこんでは萎黄病、べと病は平年並、軟腐病はやや多の発生であった。

コナガとキスジノミハムシは平年並、ダイコンサルハムシとアブラムシはやや多の発生であった。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5.30	5.20	5.25	7.8	7.8	7.16
穂いもち	—	7.13	7.9	9.9	9.11	9.9
紋枯病	7.9	7.3	6.25	8.12	7.31	7.30
白葉枯病	—	—	—	—	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4.25	5.6	5.8	5.26	6.17	7.11
黒点病	5.22	5.27	6.12	7.8	7.9	7.8
かいよう病	6.2	5.10	6.10	6.2	7.2	7.11

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		6.22	6.14	5.29	6.27	6.7	6.23	6.21	6.26	6.26	6.6	6.11	6.27
トビイロウンカ		7.10	7.15	6.18	9.10	7.22	8.25	7.3	7.14	7.5	7.14	7.17	6.27
ヒメトビウンカ		8.3	7.1	6.22	—	7.12	—	8.2	7.7	10.6	7.22	6.25	7.26
ツマグロヨコバイ		5.27	5.22	5.21	6.13	5.18	5.28	5.21	5.19	5.18	5.29	5.21	6.27
コブノメイガ		—	7.17	6.17	—	7.4	—	—	7.29	7.3	7.5	7.3	6.13

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況

(1) 延岡

月	半月	ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
		本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	4.3	0	1.0	0	0.0	0	0.5
	6	47	42.3	0	0.4	0	0.0	0	0.0
	計		47	48.1	0	1.4	0	0.0	0
6	1	44	15.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	14	95.5	0	1.1	0	0.0	0	0.0
	3	7	30.3	0	0.9	0	0.0	0	0.1
	4	5	27.7	0	7.8	0	1.2	0	0.7
	5	4	5.5	1	14.4	0	0.2	0	0.5
	6	1	2.4	4	1.8	0	0.2	0	0.2
	計		75	176.6	5	26.0	0	1.6	0
7	1	0	1.1	0	28.9	0	1.1	0	0.1
	2	1	2.5	0	21.7	2	0.3	0	0.4
	3	0	7.9	0	16.0	11	1.1	0	0.7
	4	5	34.6	0	11.7	0	0.2	0	0.4
	5	3	46.2	0	26.7	0	0.8	0	0.1
	6	4	69.2	0	4.4	0	0.0	0	0.8
	計		13	156.7	0	109.4	13	3.5	0
8	1	5	16.5	1	3.8	0	0.6	1	0.3
	2	3	22.1	17	2.2	0	0.5	0	0.5
	3	1	37.5	0	5.3	0	1.2	0	0.8
	4	3	62.3	3	51.9	0	1.5	0	2.3
	5	12	51.5	0	12.7	0	3.2	0	1.1
	6	4	21.5	7	18.6	6	13.0	3	1.0
	計		28	211.4	28	93.2	6	19.7	4
9	1	6	21.3	6	13.9	2	3.5	1	2.0
	2	1	26.6	5	7.1	12	25.2	0	1.6
	3	1	15.6	8	5.4	55	10.3	0	0.7
	4	0	15.1	0	16.2	62	4.3	0	0.7
	5	1	20.1	6	2.0	0	8.7	0	0.3
	6	2	8.0	0	4.4	41	15.0	0	2.4
	計		11	106.7	25	49.0	172	67.0	1
10	1	0	3.3	3	1.8	16	42.9	0	3.5
	2	0	6.7	1	0.7	8	51.2	0	1.3
	3	0	1.8	1	1.2	17	15.3	0	0.3
	4	0	0.2	0	0.2	1	2.7	0	0.1
	5	0	0.0	0	0.4	22	2.4	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	17	5.5	0	0.1
	計		0	12.0	5	4.3	81	120.0	0

## (2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.2	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	1.9	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	6	1	39.1	0	2.0	0	0.0	0	0.2
	計		1	41.9	0	3.5	0	0.0	0
6	1	0	3.1	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	0	45.2	0	0.6	0	0.0	0	0.2
	3	1	16.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
	4	0	26.8	0	4.5	0	0.0	0	0.4
	5	1	58.2	0	5.8	0	0.3	0	0.0
	6	0	44.6	1	5.5	0	0.2	0	0.1
	計		2	193.9	1	16.5	0	0.5	0
7	1	1	31.9	3	38.8	0	0.9	0	0.4
	2	4	36.0	0	22.7	0	0.4	0	0.2
	3	1	67.7	1	4.0	0	0.4	0	0.3
	4	5	141.4	0	1.8	0	0.2	0	0.2
	5	4	235.8	0	23.4	0	0.9	0	0.0
	6	43	227.5	1	9.1	0	0.0	0	0.5
	計		58	740.3	5	99.8	0	2.8	0
8	1	4	203.7	0	3.3	0	0.2	0	0.3
	2	1	34.0	0	1.6	0	0.0	0	0.2
	3	33	67.8	1	61.8	0	0.3	0	0.3
	4	15	67.6	0	20.0	0	0.2	0	0.1
	5	10	24.4	0	51.5	0	1.1	0	0.4
	6	5	175.6	5	11.2	0	2.0	0	0.4
	計		68	536.1	6	149.5	0	3.8	0
9	1	6	122.3	3	4.8	0	1.3	0	0.1
	2	1	47.4	0	4.8	1	9.4	0	0.2
	3	0	30.8	1	9.8	1	2.1	0	0.0
	4	2	11.7	1	2.0	4	2.4	0	0.0
	5	0	10.5	1	3.0	1	1.9	0	0.6
	6	0	2.5	2	1.3	1	1.8	0	0.4
	計		9	225.2	8	25.7	8	18.9	0
10	1	0	12.6	0	1.9	1	47.7	0	0.2
	2	0	13.4	0	1.6	0	75.5	0	0.1
	3	0	11.7	0	1.7	0	70.8	0	0.0
	4	0	5.5	0	0.4	0	10.8	0	0.0
	5	0	1.4	0	0.6	0	8.2	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.0	0	0.9	0	0.0
	計		0	44.7	0	6.2	1	213.9	0

## (3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	2.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	9	10.1	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	32	50.9	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		41	64.3	0	0.2	0	0.0	0
6	1	55	38.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	60	93.4	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	25	39.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
	4	44	29.0	0	5.3	0	0.5	0	0.0
	5	32	19.5	2	25.8	0	0.1	0	0.4
	6	3	4.4	4	3.4	0	0.2	0	0.3
	計		219	223.5	6	34.6	0	0.8	0
7	1	1	5.9	2	80.7	2	1.9	0	0.4
	2	0	9.8	0	91.6	0	0.5	0	0.3
	3	1	15.6	1	16.6	10	0.2	0	0.5
	4	7	24.6	0	3.4	0	0.1	0	0.0
	5	16	57.7	0	6.5	0	0.2	0	0.5
	6	7	89.8	1	6.2	2	0.1	0	0.3
	計		32	217.8	4	204.3	14	2.7	0
8	1	11	107.6	2	1.8	0	0.4	2	3.8
	2	6	127.8	1	1.5	1	0.1	0	0.8
	3	17	162.1	4	4.2	3	0.8	0	0.5
	4	23	113.4	0	22.1	0	1.1	0	0.6
	5	12	58.3	3	5.7	0	8.2	1	1.0
	6	23	40.6	72	5.2	2	10.1	7	1.5
	計		92	609.8	82	40.5	6	20.7	10
9	1	4	16.9	58	2.4	15	3.6	1	0.4
	2	3	19.2	4	3.5	4	9.1	0	0.9
	3	1	4.8	2	6.4	22	9.7	0	0.5
	4	4	9.1	1	1.0	7	2.0	0	0.1
	5	0	8.9	4	1.3	6	2.5	1	0.0
	6	0	3.7	3	0.5	7	3.7	1	0.6
	計		12	94.3	72	16.6	61	30.7	3
10	1	0	11.7	2	0.6	0	6.6	0	1.0
	2	0	3.9	0	0.4	1	2.7	0	0.3
	3	0	2.2	0	1.1	2	19.8	0	5.3
	4	0	0.5	0	0.1	3	2.0	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.4	28	4.8	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.1	22	0.4	0	0.0
	計		0	18.4	2	2.8	56	36.3	0

## (4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半月	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.2	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
	6	3	7.6	0	0.7	0	0.0	0	0.0
	計		0	7.8	0	0.7	0	0.1	0
6	1	9	3.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	13	18.5	1	0.9	0	0.0	0	0.0
	3	5	16.4	0	7.6	0	0.3	0	0.1
	4	0	9.3	0	24.9	0	0.1	0	0.6
	5	0	7.7	1	94.8	0	8.2	0	0.5
	6	0	10.2	3	61.8	0	1.8	0	1.1
	計		27	65.3	5	190.0	0	10.4	0
7	1	2	4.6	1	699.5	0	10.5	0	1.4
	2	1	19.1	0	619.4	0	3.6	0	1.3
	3	0	28.3	8	55.0	6	1.4	0	0.6
	4	9	64.7	0	13.0	0	0.6	0	0.2
	5	40	152.5	4	26.3	0	1.2	1	0.8
	6	21	165.7	1	40.8	0	3.2	0	2.2
	計		73	434.9	14	1454.0	6	20.5	1
8	1	27	119.5	16	67.8	0	2.1	0	1.9
	2	16	160.4	22	7.3	0	0.5	1	0.5
	3	18	160.1	5	7.1	1	1.8	0	0.4
	4	5	85.3	1	45.1	1	1.0	0	0.9
	5	32	80.6	2	14.4	0	6.5	1	0.5
	6	32	49.0	56	13.0	3	23.4	0	0.6
	計		130	692.0	102	134.6	5	35.3	2
9	1	10	45.6	45	7.4	11	11.3	0	1.3
	2	24	22.1	5	3.4	12	48.7	0	1.1
	3	2	17.9	17	2.4	13	28.6	0	1.0
	4	3	16.3	6	7.3	47	3.7	0	6.6
	5	1	14.3	41	1.3	44	14.2	1	1.1
	6	13	11.9	6	2.5	11	37.7	0	0.2
	計		53	128.1	120	24.3	138	144.2	1
10	1	5	9.9	6	1.9	34	649.2	0	1.1
	2	0	6.1	0	3.2	4	284.7	0	1.0
	3	0	4.8	0	0.9	1	38.4	0	0.2
	4	0	0.7	0	0.8	1	5.6	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.3	132	16.8	0	0.0
	6	0	0.3	0	0.0	187	12.5	0	0.0
	計		5	21.9	6	7.1	359	1007.2	0

5) コブノメイガの発生消長

(1) ライトトラップ(光源：20W補虫用蛍光灯)

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	2	0	0
4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	1	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	4	1	0
6	0	0	0	0	0	0	2	0	1
7	0	0	0	0	0	0	3	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	6	0	0
10	0	0	0	0	0	0	1	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	12	0	1
11	0	0	0	0	0	0	2	1	0
12	0	0	0	0	0	0	4	1	0
13	0	0	0	0	0	0	2	2	0
14	0	0	0	0	0	0	2	0	0
15	0	0	0	0	0	0	2	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	12	4	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	2
19	0	0	0	0	0	0	0	0	4
20	0	0	0	1	0	0	-	0	0
半旬計	0	0	0	1	0	0	0	0	6
21	0	0	0	0	0	0	/	/	2
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	1	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	0	0	/	/	0
25	1	0	0	0	0	0	/	/	1
半旬計	2	0	0	0	0	0	/	/	3
26	0	0	0	0	0	0	/	/	0
27	0	0	0	0	0	0	/	/	0
28	1	0	0	0	0	0	/	/	0
29	0	0	0	0	0	0	/	/	0
30	0	0	0	0	0	0	/	/	0
31	/	/	/	0	0	0	/	/	0
半旬計	1	0	0	0	0	0	/	/	0
月計	3	0	0	1	0	0	28	5	10

5) コブノメイガの発生消長  
 (2) フェロモントラップ

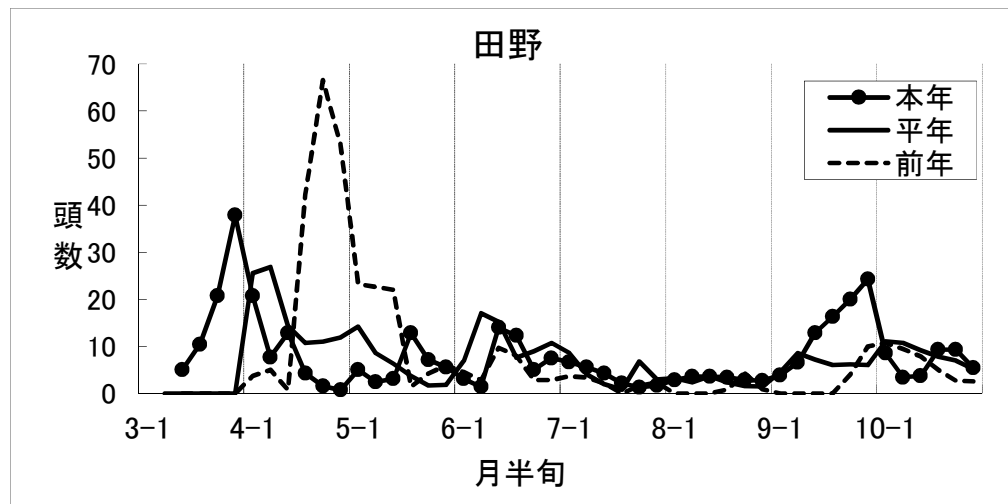
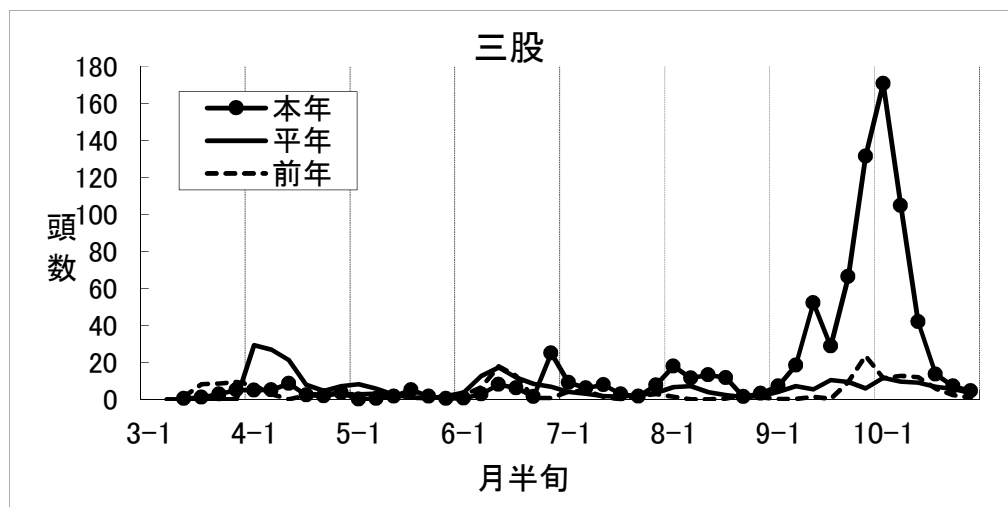
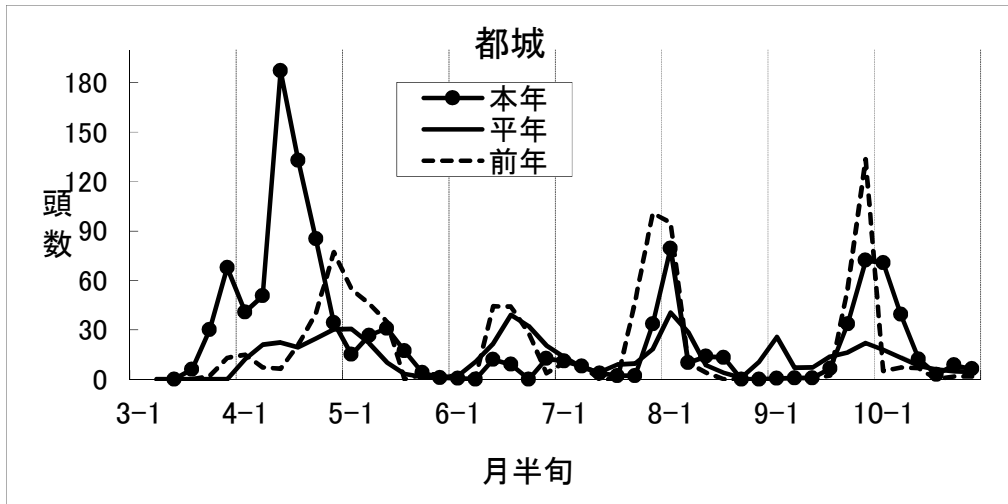
	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	2	0	1	-
2	0	0	0	0	0	0	0	3	-
3	0	0	0	0	0	0	0	0	-
4	0	0	0	0	0	0	5	1	17
5	0	0	0	0	0	1	8	1	4
半旬計	0	0	0	0	0	3	13	6	21
6	0	0	0	0	0	0	2	1	1
7	0	0	0	0	0	0	8	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	4	0
9	0	0	0	0	0	0	13	3	0
10	0	0	0	0	0	0	2	4	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	25	12	1
11	0	0	0	0	0	-	4	1	0
12	0	0	0	0	0	-	6	5	0
13	0	0	0	0	0	2	5	4	0
14	0	0	0	0	0	0	6	0	3
15	0	0	0	0	0	1	5	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	3	26	10	3
16	0	0	0	0	0	0	1	0	1
17	0	0	0	0	0	3	1	0	0
18	0	0	0	0	2	0	2	2	0
19	0	0	0	0	0	0	2	1	1
20	0	0	0	0	1	2	-	2	3
半旬計	0	0	0	0	3	5	6	5	5
21	0	0	0	0	0	0	/	/	0
22	0	0	0	0	0	0	/	/	0
23	0	0	0	0	0	0	/	/	0
24	0	0	0	0	1	6	/	/	0
25	0	0	0	0	0	-	/	/	0
半旬計	0	0	0	0	1	6	/	/	0
26	0	0	0	0	0	-	/	/	0
27	0	0	2	0	0	10	/	/	-
28	0	0	0	0	0	-	/	/	3
29	0	0	0	0	1	7	/	/	
30	0	0	0	0	1	7	/	/	
31	/	/	/	0	2	6	/	/	
半旬計	0	0	2	0	4	30	/	/	3
月計	0	0	2	0	8	47	28	33	33

6) フェロモントラップによる誘殺状況

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0			0			1		
	3	0		0	0		1	5		0
	4	6		0	1		8	10		0
	5	30		2	3		9	21		0
	6	68		13	5		9	38		0
4	1	41	12	15	5	29	8	21	26	4
	2	51	21	7	5	27	3	8	27	5
	3	187	22	6	9	21	0	13	14	1
	4	133	19	21	2	8	2	4	11	42
	5	85	25	40	2	5	3	2	11	67
	6	34	30	77	4	7	3	1	12	53
5	1	15	31	55	0	8	3	5	14	23
	2	27	22	46	0	6	3	2	9	23
	3	31	10	35	2	2	3	3	6	22
	4	17	3	0	5	1	1	13	4	1
	5	4	2	3	2	1	1	7	2	4
	6	1	1	3	0	2	1	6	2	6
6	1	1	2	1	1	4	2	3	7	5
	2	0	11	1	3	12	6	1	17	3
	3	12	22	44	8	17	18	14	15	10
	4	9	39	44	6	12	13	12	8	8
	5	0	32	28	1	8	1	5	9	3
	6	13	20	4	25	7	1	8	11	3
7	1	11	13	10	9	4	4	7	9	4
	2	8	7	9	6	3	5	6	4	3
	3	4	4	0	8	2	1	4	2	2
	4	2	9	0	3	2	0	2	1	0
	5	2	10	47	2	2	2	1	7	2
	6	33	18	101	8	4	3	2	3	2
8	1	79	40	95	18	7	1	3	3	0
	2	10	28	10	11	7	0	4	2	0
	3	14	8	4	13	4	0	4	4	0
	4	13	4	0	12	2	0	3	2	1
	5	0	1	0	1	1	2	3	2	4
	6	0	10	0	3	2	1	3	1	1
9	1	0	26	0	7	4	0	4	5	0
	2	1	7	1	18	7	0	7	9	0
	3	1	7	0	52	5	1	13	7	0
	4	6	14	2	29	11	0	16	6	0
	5	34	16	55	66	9	9	20	6	4
	6	72	22	134	131	6	24	24	6	10
10	1	71	18	5	171	12	11	9	11	11
	2	39	13	7	105	10	13	3	11	9
	3	12	8	7	42	9	12	4	9	8
	4	3	6	0	14	7	6	9	8	5
	5	9	5	2	7	6	2	9	7	3
	6	6	4	2	5	3	1	5	5	3

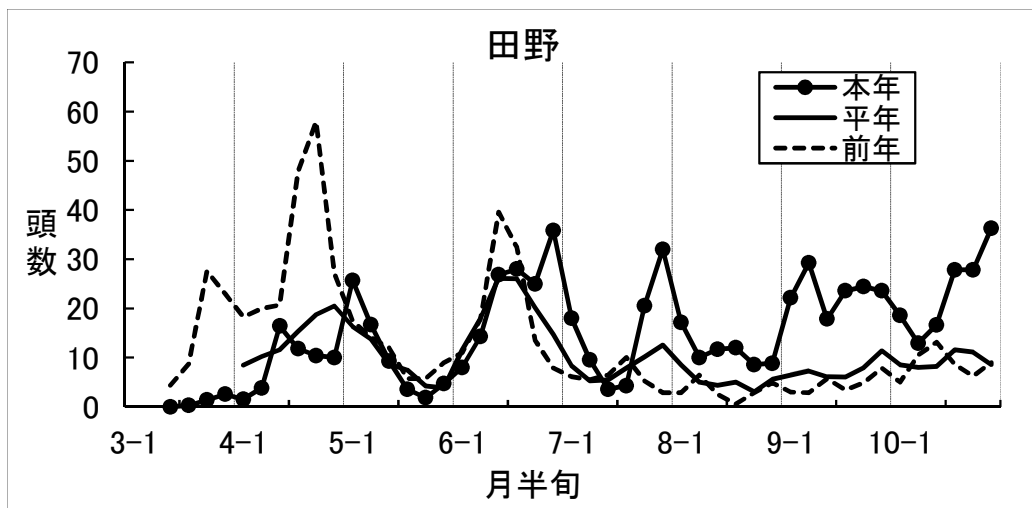
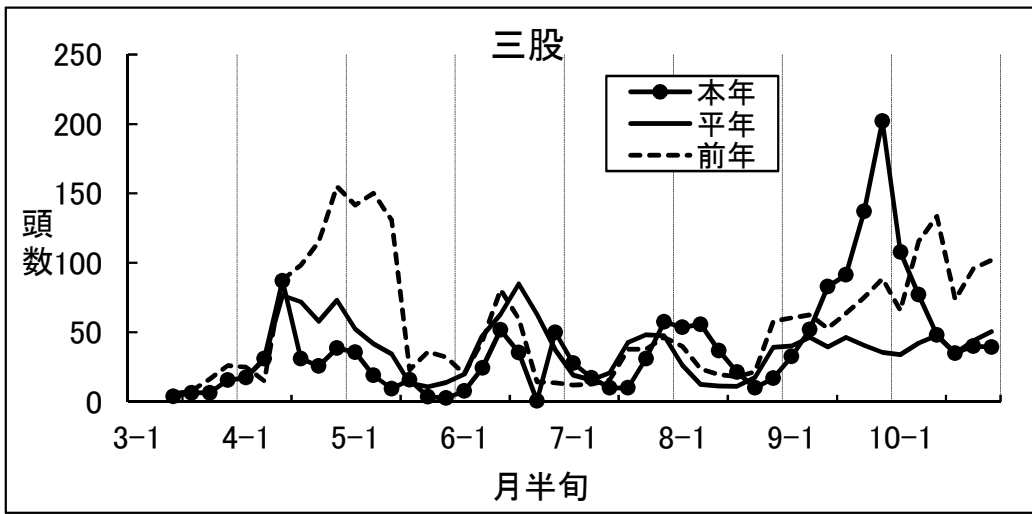
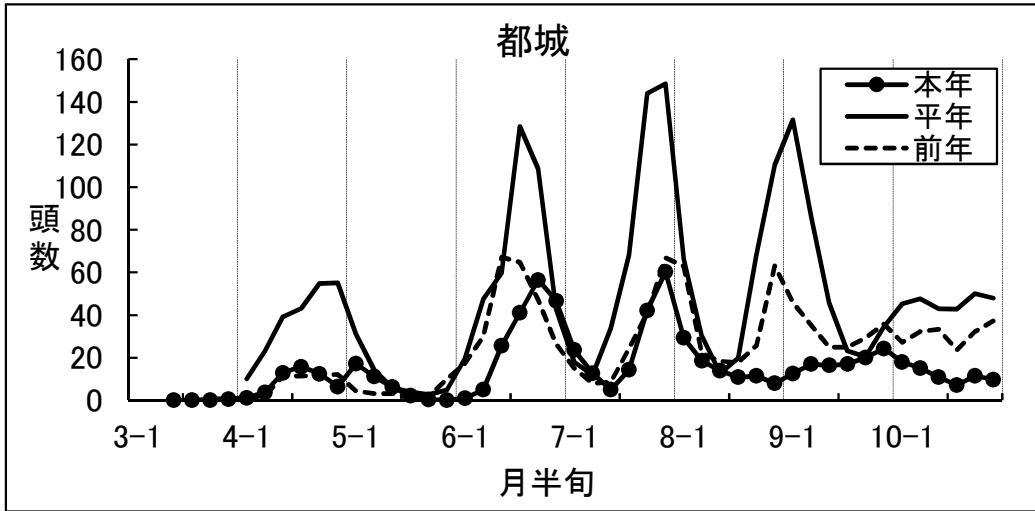
平成26年フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)



## (2) チャノココクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0			0			0		
	3	0		0	4		6	0		4
	4	0		0	6		8	0		9
	5	0		1	6		16	1		28
	6	1		1	16		26	3		23
4	1	1	10	1	17	18	25	2	8	18
	2	4	23	2	31	30	15	4	10	20
	3	13	39	11	87	76	88	16	12	21
	4	16	43	11	31	72	98	12	15	48
	5	12	55	12	26	58	115	10	19	58
	6	6	55	12	39	73	155	10	21	27
5	1	17	31	4	36	52	142	26	16	17
	2	11	14	3	19	42	150	17	14	14
	3	6	6	3	9	34	131	9	9	12
	4	2	4	1	16	13	23	4	7	6
	5	0	3	2	4	11	36	2	4	6
	6	0	5	10	3	14	32	5	4	9
6	1	1	20	17	8	20	20	8	12	11
	2	5	47	30	24	47	44	14	18	18
	3	26	60	67	52	63	81	27	26	40
	4	41	128	65	35	85	60	28	26	32
	5	56	109	47	1	63	14	25	20	14
	6	47	43	26	50	37	14	36	15	8
7	1	24	18	15	28	19	12	18	8	6
	2	13	12	8	17	16	13	10	5	6
	3	5	34	9	10	21	16	4	5	6
	4	14	68	24	10	43	38	4	8	10
	5	42	144	41	31	48	38	21	10	5
	6	60	148	67	57	48	46	32	13	3
8	1	29	66	63	54	26	40	17	9	3
	2	19	30	22	56	12	24	10	5	6
	3	14	13	18	37	11	20	12	4	3
	4	11	20	18	21	11	18	12	5	1
	5	11	68	26	10	17	21	9	3	3
	6	8	110	63	17	39	58	9	6	5
9	1	13	132	46	33	40	60	22	6	3
	2	17	86	35	52	46	63	29	7	3
	3	16	46	25	83	39	53	18	6	6
	4	17	23	25	91	46	64	24	6	3
	5	20	20	29	137	41	75	24	8	5
	6	24	34	36	202	35	89	24	11	8
10	1	18	45	27	108	34	66	19	9	5
	2	15	48	32	77	42	115	13	8	11
	3	11	43	33	48	48	134	17	8	13
	4	7	43	24	35	35	74	28	12	9
	5	11	50	32	40	44	96	28	11	6
	6	10	48	37	39	51	102	36	9	9

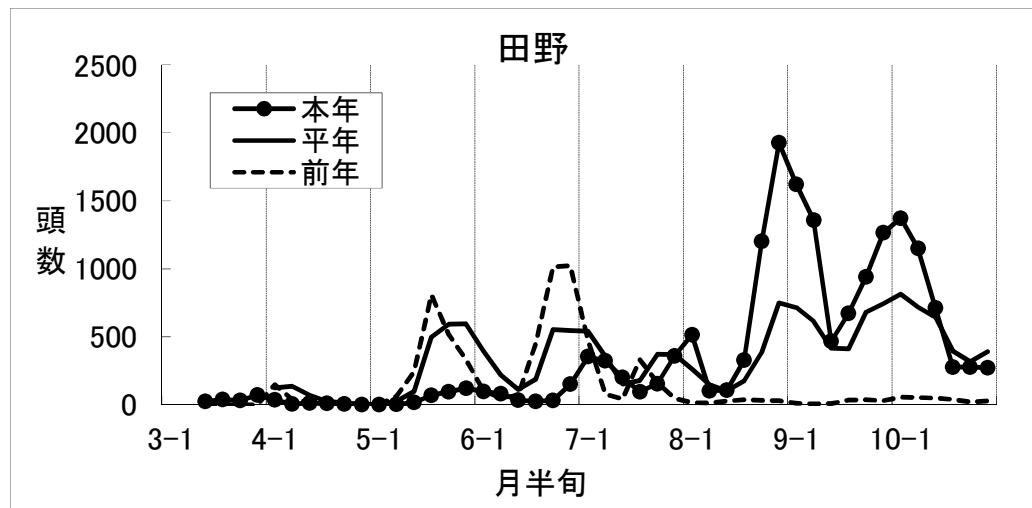
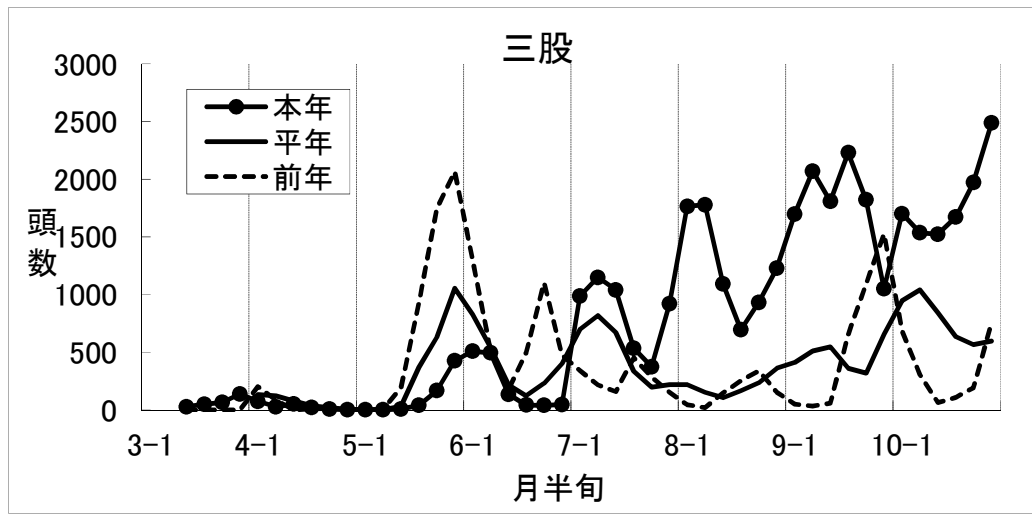
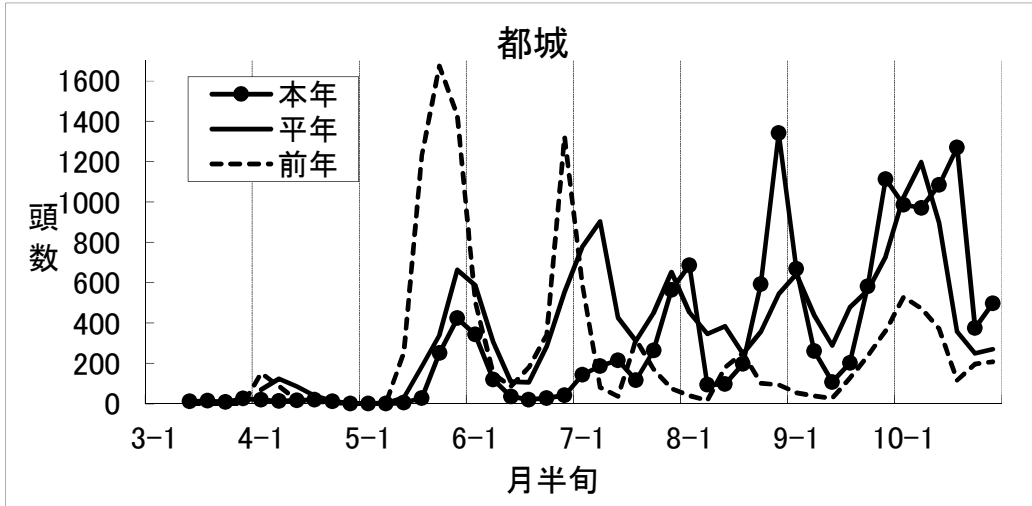
平成26年フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



## (3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	5			1			2		
	3	12		0	28		0	24	237	0
	4	15		0	50		0	37	115	0
	5	9		0	65		0	31	61	0
	6	26		0	138		0	70	45	0
4	1	20	71	152	75	134	203	34	122	146
	2	13	124	89	27	124	87	5	136	38
	3	18	86	19	51	79	0	11	68	18
	4	20	41	12	20	38	8	8	25	9
	5	13	13	6	8	21	10	5	12	3
	6	1	3	1	2	5	1	1	3	1
5	1	1	1	1	1	2	1	0	1	0
	2	1	3	5	1	3	5	2	25	62
	3	6	31	253	8	32	191	16	98	244
	4	28	185	1,231	39	370	927	68	498	809
	5	251	340	1,675	168	630	1,745	95	591	515
	6	424	664	1,429	427	1,055	2,066	120	594	333
6	1	344	588	507	509	828	1,297	95	395	100
	2	121	307	150	496	538	514	80	217	50
	3	37	110	87	135	217	178	32	112	70
	4	21	107	179	43	123	497	24	187	450
	5	29	287	341	39	232	1,101	31	552	1,013
	6	43	555	1,325	47	404	474	150	545	1,022
7	1	144	776	597	986	700	343	352	540	471
	2	188	903	81	1,149	820	216	322	357	79
	3	215	427	37	1,040	671	158	201	151	41
	4	117	312	319	536	335	454	94	178	330
	5	264	450	172	375	197	283	153	370	162
	6	565	654	76	919	219	154	359	368	46
8	1	687	452	41	1,764	219	44	514	263	14
	2	95	347	16	1,779	154	21	102	148	12
	3	98	385	180	1,093	107	146	106	101	27
	4	198	248	252	695	168	252	327	174	36
	5	593	357	103	932	236	340	1,200	385	31
	6	1,341	545	94	1,229	362	154	1,926	750	28
9	1	669	644	55	1,699	410	51	1,621	713	11
	2	261	438	39	2,070	512	35	1,356	614	4
	3	108	289	27	1,807	548	60	466	415	7
	4	203	479	127	2,230	360	655	670	411	33
	5	582	562	236	1,821	320	1,093	939	680	35
	6	1,114	731	363	1,050	658	1,528	1,264	743	28
10	1	986	1,026	529	1,701	947	686	1,371	813	55
	2	972	1,198	473	1,536	1,041	305	1,149	716	52
	3	1,085	898	373	1,524	845	63	711	642	47
	4	1,270	358	117	1,671	636	109	276	393	37
	5	376	250	197	1,971	568	192	276	315	19
	6	498	271	209	2,489	597	751	271	388	27

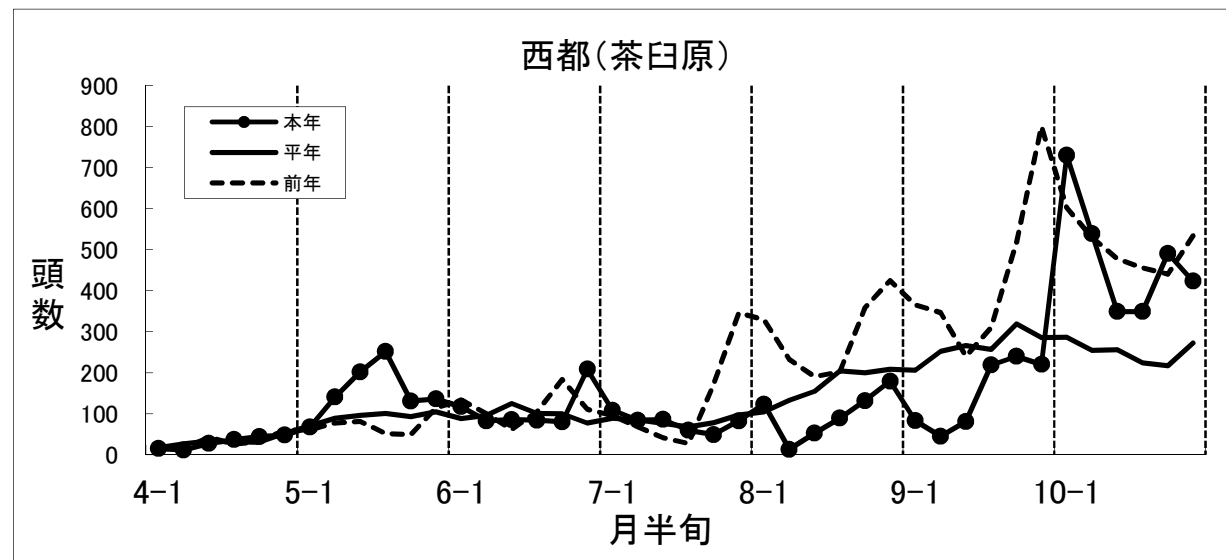
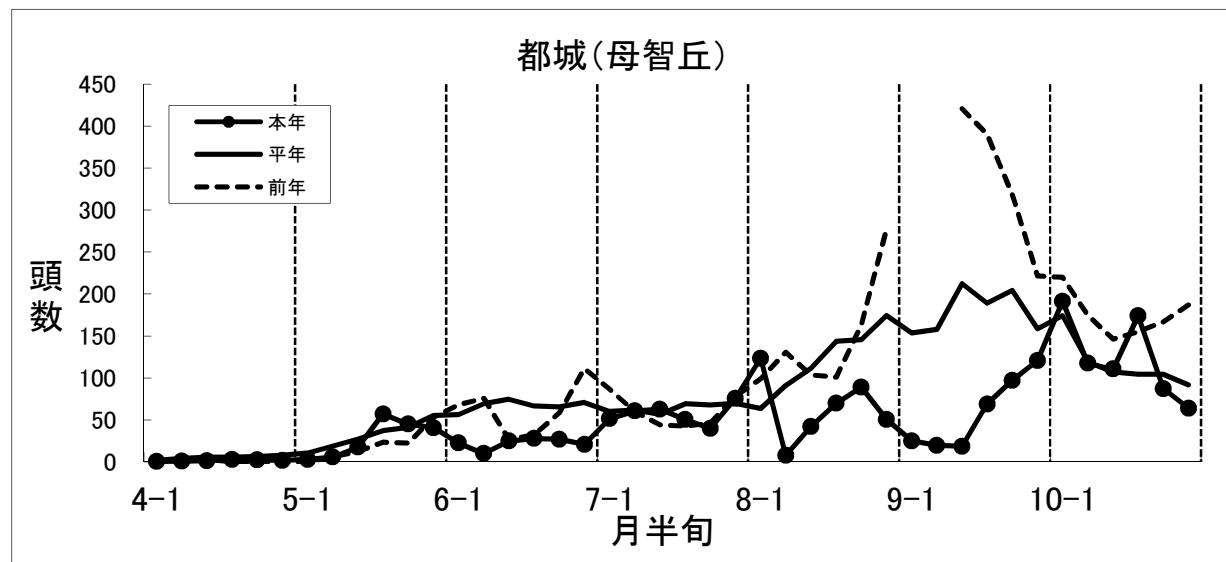
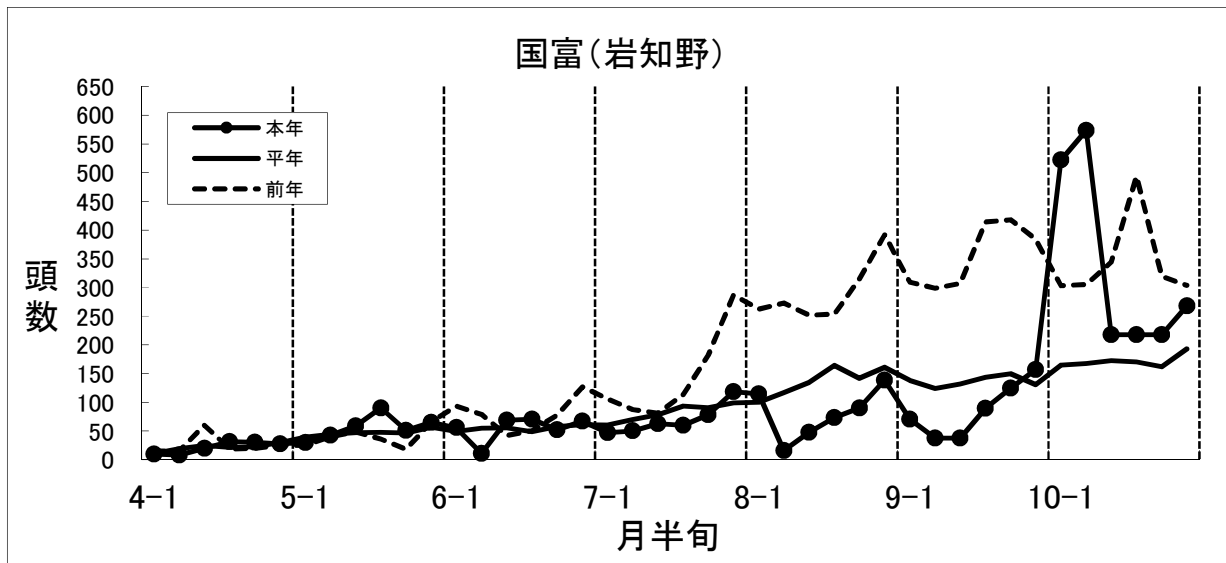
平成26年フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)



## (4) ハスモンヨトウ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	国富 (岩知野)			都城 (母智丘)			西都 (茶臼原)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	10	10.9	15	1	2.1	1	15	17.3	18
	2	9	19.3	16	1	4.2	0	11	26.3	15
	3	20	25.0	60	1	5.6	3	27	33.1	43
	4	32	21.8	19	3	5.9	1	37	31.2	26
	5	31	22.8	20	2	6.5	0	44	30.2	32
	6	28	30.3	26	2	7.8	0	48	51.2	59
5	1	30	39.4	25	3	10.7	0	67	70.4	61
	2	43	44.4	41	6	19.2	6	140	88.5	77
	3	59	47.4	48	18	27.5	13	202	96.0	81
	4	90	47.7	36	57	37.4	24	251	100.9	51
	5	51	47.0	18	45	41.2	22	131	92.8	49
	6	65	56.9	66	41	55.1	53	136	104.2	114
6	1	56	49.7	94	23	56.4	68	117	87.7	133
	2	11	55.2	79	10	69.2	76	82	95.8	100
	3	69	55.5	42	25	74.5	27	86	124.4	61
	4	71	49.3	51	28	66.5	32	84	100.3	104
	5	52	58.1	78	27	65.6	59	80	99.3	183
	6	68	61.1	127	21	70.8	111	208	76.9	111
7	1	47	61.0	106	52	60.3	87	108	88.9	95
	2	50	70.4	88	61	61.9	60	84	84.9	68
	3	63	78.7	81	63	57.0	44	86	76.5	41
	4	60	93.7	114	51	69.3	43	59	67.4	27
	5	78	90.7	182	40	68.0	46	49	77.7	171
	6	119	99.0	287	76	69.8	79	82	96.3	345
8	1	115	100.2	262	124	63.7	99	123	104.0	329
	2	16	116.9	273	8	91.3	131	13	132.5	232
	3	48	134.7	252	42	111.6	104	52	154.3	191
	4	73	164.2	253	70	143.7	101	89	204.3	202
	5	90	142.0	315	89	145.6	163	131	199.7	359
	6	139	161.2	392	51	174.6	278	179	208.5	425
9	1	71	138.2	309	25	153.8	0	83	206.1	365
	2	38	124.3	299	20	158.0	0	45	252.1	346
	3	38	131.9	307	19	212.4	421	81	266.2	239
	4	90	143.6	414	69	189.3	390	218	256.9	311
	5	125	150.1	418	97	204.3	318	240	319.0	517
	6	157	130.8	384	121	158.7	221	220	285.5	801
10	1	522	165.1	303	191	174.2	220	730	286.4	601
	2	573	167.6	305	118	119.5	175	539	254.4	530
	3	218	172.7	344	111	107.2	146	349	255.8	477
	4	218	170.7	494	174	104.4	155	349	223.5	456
	5	218	162.2	319	87	104.6	167	491	217.1	440
	6	268	193.1	304	64	92.0	187	423	272.4	534

平成26年度フェロモントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ)

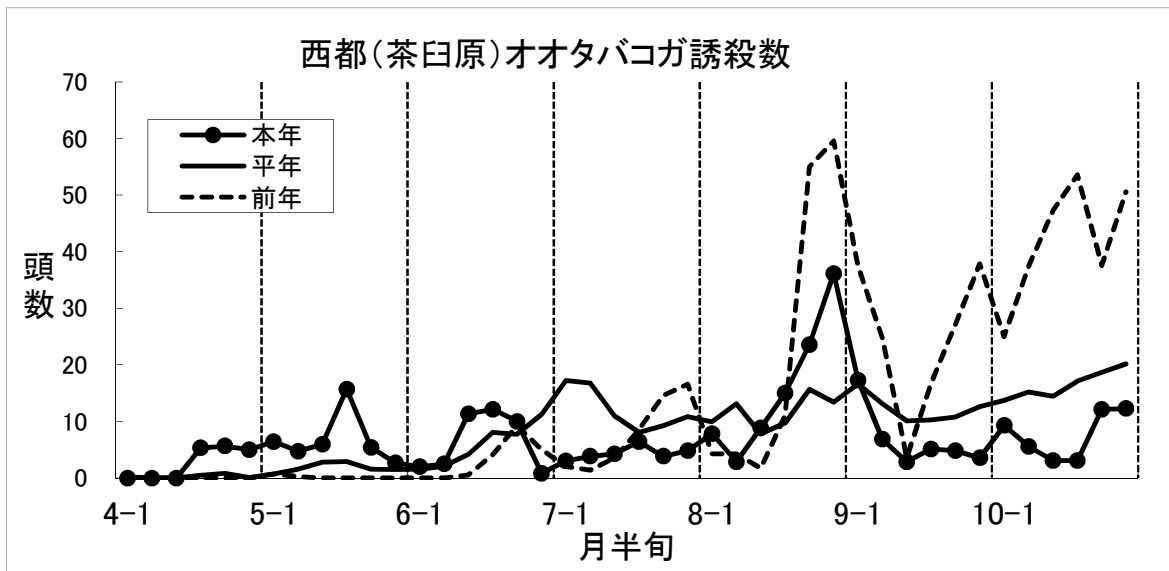
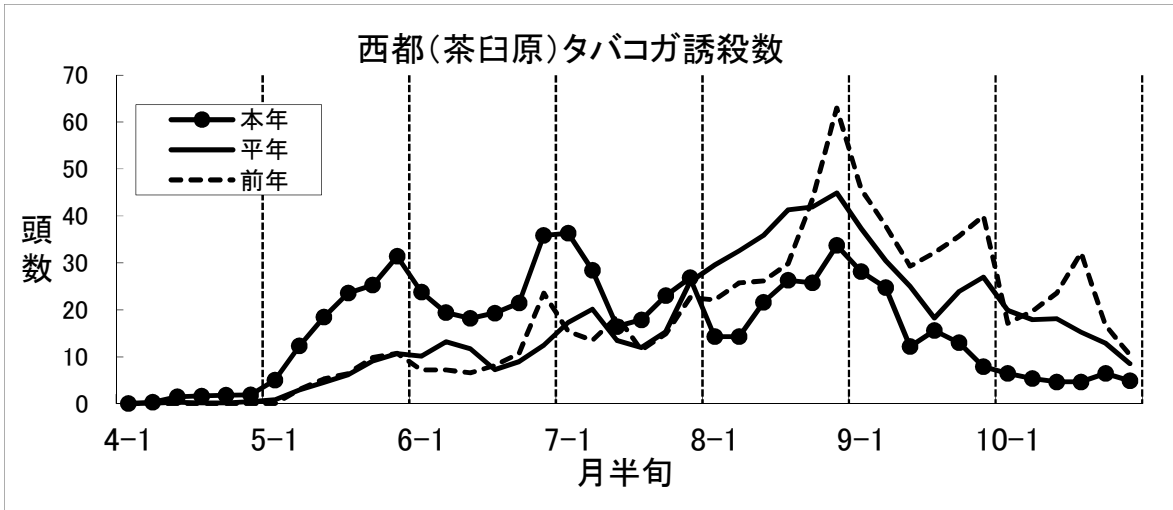


## (5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.1	0	0	0.2	0
	2	0	0.1	0	0	0.0	0
	3	1	0.3	0	0	0.1	0
	4	2	0.1	0	5	0.5	0
	5	2	0.1	0	6	0.8	0
	6	2	0.4	0	5	0.1	0
5	1	5	0.8	0	6	0.7	1
	2	12	3.0	3	5	1.6	0
	3	18	4.5	5	6	2.8	0
	4	24	6.1	6	16	2.9	0
	5	25	9.1	10	5	1.5	0
	6	31	10.6	11	3	1.5	0
6	1	24	10.1	7	2	1.5	0
	2	19	13.2	7	3	2.1	0
	3	18	11.7	7	11	4.2	1
	4	19	7.2	8	12	8.1	4
	5	21	9.0	11	10	7.7	9
	6	36	12.5	24	1	11.3	5
7	1	36	17.3	15	3	17.3	2
	2	28	20.1	13	4	16.8	1
	3	16	13.4	19	4	11.0	4
	4	18	12.0	11	6	8.1	9
	5	23	15.3	15	4	9.3	15
	6	27	25.9	23	5	10.8	17
8	1	14	29.6	22	8	10.0	4
	2	14	32.6	26	3	13.1	4
	3	22	35.9	26	9	7.8	2
	4	26	41.3	30	15	9.7	11
	5	26	41.9	44	24	15.7	55
	6	34	44.9	63	36	13.4	60
9	1	28	37.3	46	17	16.6	37
	2	25	30.5	38	7	13.1	25
	3	12	25.0	29	3	10.1	4
	4	16	18.2	32	5	10.3	17
	5	13	23.9	36	5	10.8	27
	6	8	27.0	40	4	12.6	38
10	1	6	19.9	17	9	13.8	25
	2	5	17.9	20	6	15.2	37
	3	5	18.1	24	3	14.5	47
	4	5	15.2	32	3	17.2	54
	5	6	12.9	17	12	18.6	38
	6	5	8.5	10	12	20.2	51

※ フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成26年度フェロモントラップ誘殺数(タバコガ・オオタバコガ)



7)果樹カメムシ類の誘殺状況

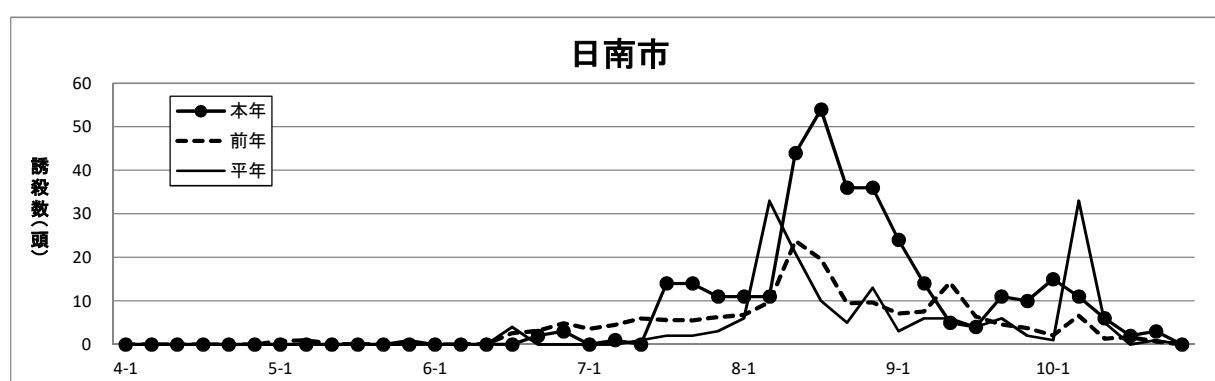
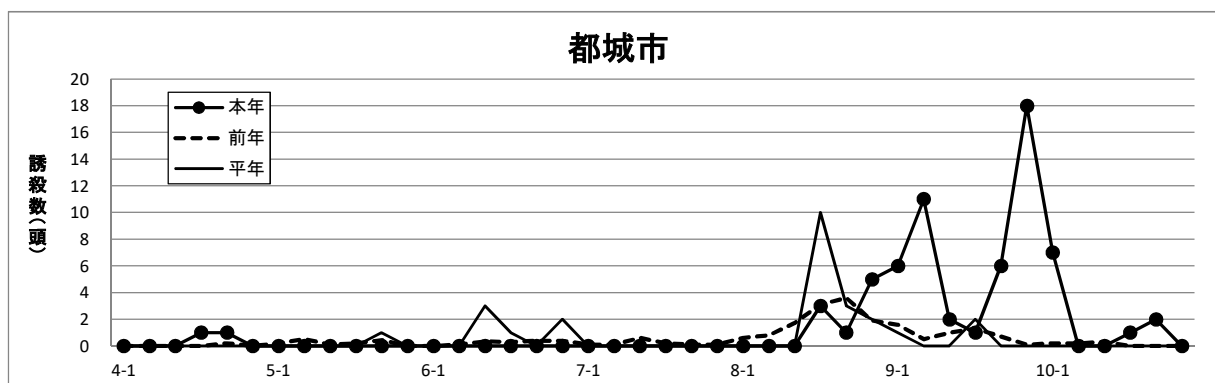
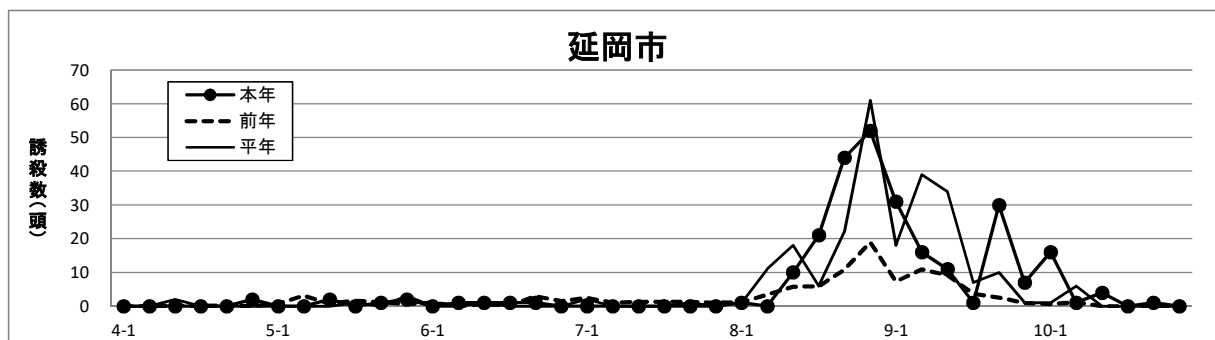
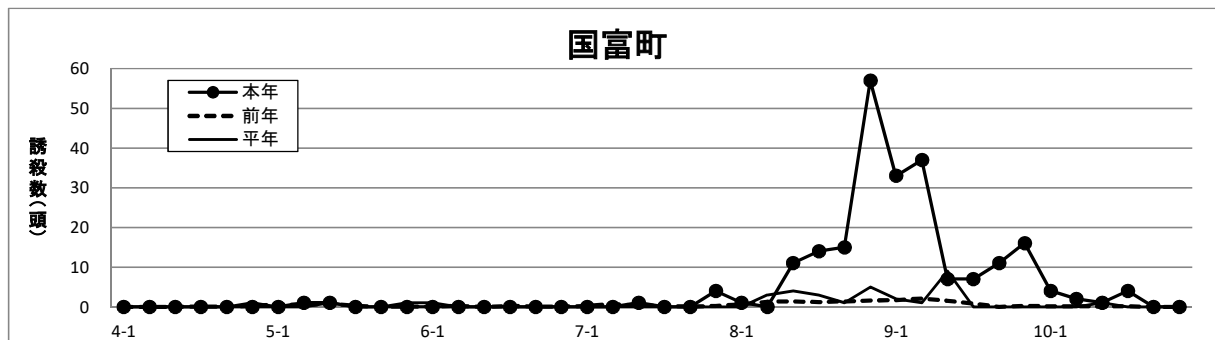
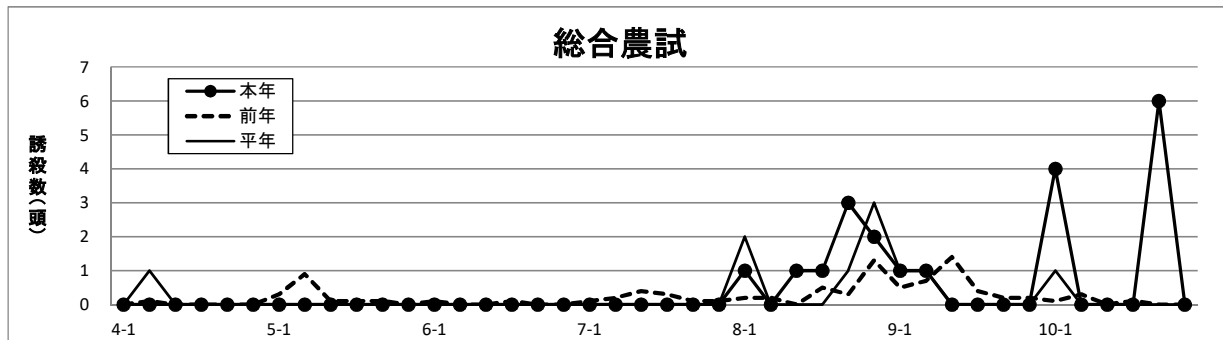
(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	2	0	1	0	1	0	0	0	3	0	0	1	0	0	1	0
	3	0	0	0	1	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	1	2	1	3	0	0	0	0	0	1
6	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	4
	5	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	2	3	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	3	5	0
7	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	4	0
	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	5	0
	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	6	1
	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14	6	2
	5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	14	6	2
	6	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	11	6	3
8	1	1	0	2	1	1	0	1	1	1	0	1	0	11	7	6
	2	0	0	0	0	1	3	0	3	11	0	1	0	11	10	33
	3	1	0	0	11	1	4	10	6	18	0	2	0	44	24	21
	4	1	1	0	14	1	3	21	6	6	3	3	10	54	20	10
	5	3	0	1	15	1	1	44	11	22	1	4	3	36	9	5
	6	2	1	3	57	2	5	52	19	61	5	2	2	36	10	13
9	1	1	1	1	33	2	2	31	7	18	6	2	1	24	7	3
	2	1	1	1	37	2	1	16	11	39	11	1	0	14	8	6
	3	0	1	0	7	2	9	11	9	34	2	1	0	5	14	6
	4	0	0	0	7	1	0	1	4	7	1	1	2	4	6	4
	5	0	0	0	11	0	0	30	3	10	6	1	0	11	5	6
	6	0	0	0	16	0	0	7	1	1	18	0	0	10	4	2
10	1	4	0	1	4	0	0	16	1	1	7	0	0	15	2	1
	2	0	0	0	2	0	0	1	1	6	0	0	0	11	7	33
	3	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0	0	6	1	5
	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0
	5	6	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3	1	1
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		20	9	10	227	19	33	257	105	245	65	22	25	342	180	168

※「-」は欠測

平成26年予察灯における誘殺数(チャバネアオカメムシ)

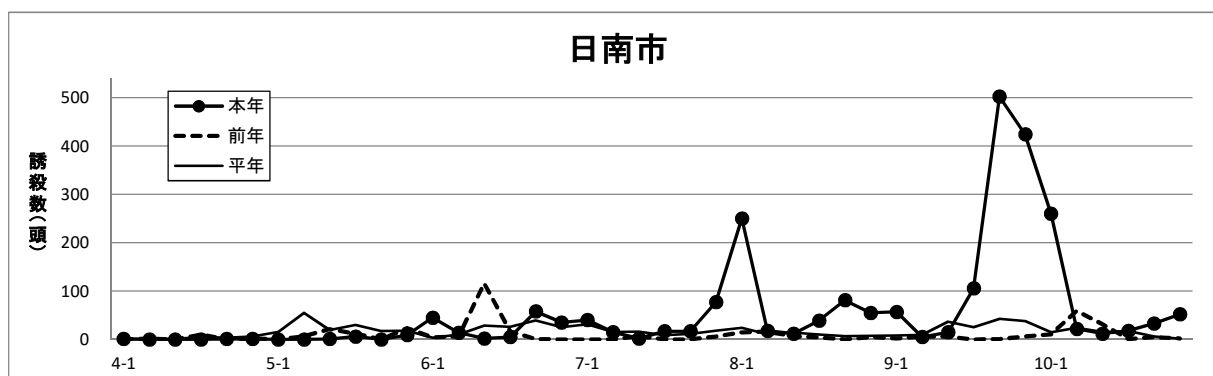
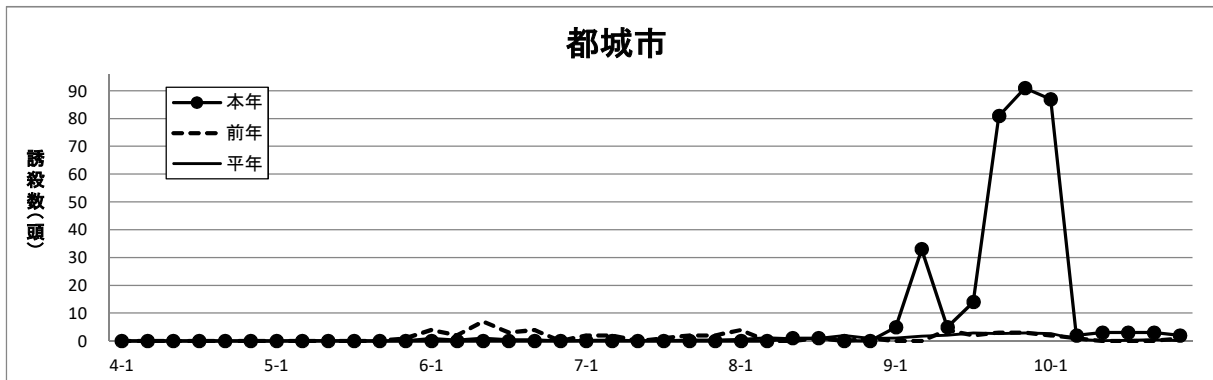
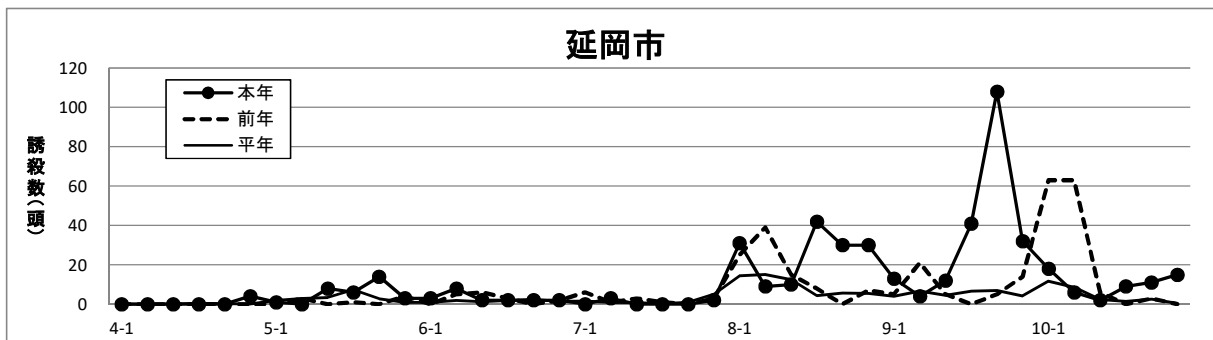
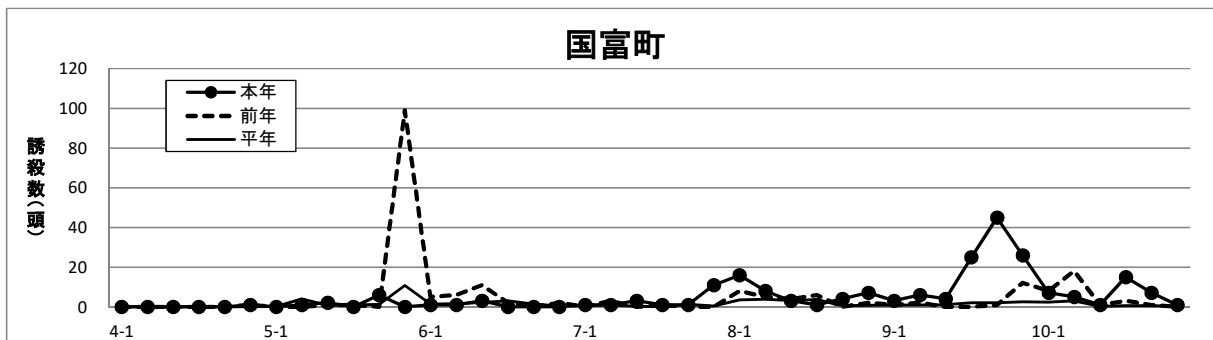
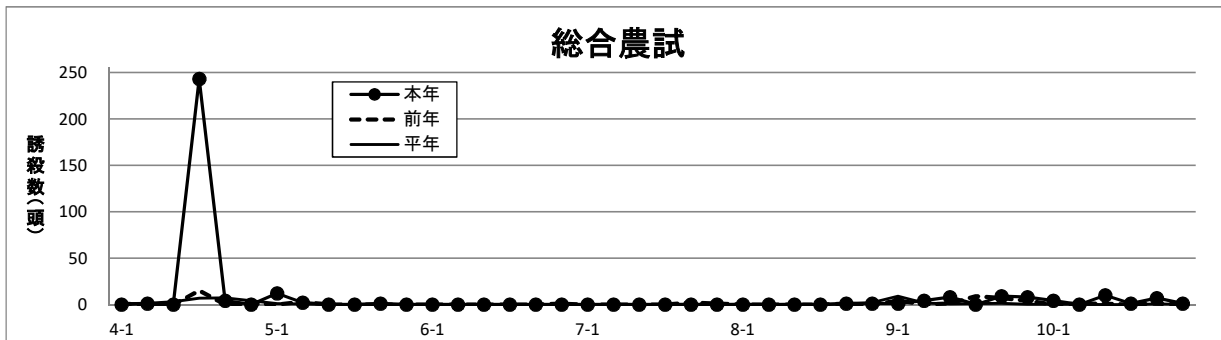


②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	4	243	15	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	10	5
	5	4	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	6	0	1	4	1	1	0	4	0	0	0	0	0	1	2	6
5	1	12	0	1	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	16
	2	2	3	1	1	0	4	0	3	3	0	0	0	0	7	55
	3	0	0	0	2	1	1	8	0	3	0	0	0	1	21	19
	4	0	0	0	0	1	1	6	1	7	0	0	0	6	12	30
	5	1	0	0	6	0	1	14	0	3	0	0	0	0	0	17
	6	0	0	0	0	99	11	3	4	1	0	1	0	9	23	18
6	1	0	0	0	1	5	2	3	0	1	0	4	1	45	4	3
	2	0	0	0	1	6	2	8	5	2	0	2	0	14	6	10
	3	0	0	0	3	11	2	2	6	1	0	7	1	2	116	29
	4	0	0	0	0	2	3	2	3	2	0	3	1	5	17	26
	5	0	0	0	0	0	2	2	0	3	0	4	1	58	1	39
	6	0	1	0	0	2	1	2	2	2	0	0	0	35	0	26
7	1	0	0	0	1	0	1	0	6	2	0	2	0	40	0	31
	2	0	0	0	1	3	1	3	1	1	0	2	0	15	0	16
	3	0	0	0	3	0	0	0	3	1	0	0	0	2	7	16
	4	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	17	0	9
	5	0	2	0	1	0	1	0	0	1	0	2	0	17	0	11
	6	0	1	0	11	0	1	2	3	5	0	2	0	77	6	18
8	1	0	0	0	16	8	4	31	25	14	0	4	1	250	15	24
	2	0	0	0	8	5	4	9	39	15	0	0	1	18	16	10
	3	0	0	0	3	4	3	10	15	13	1	0	1	12	7	14
	4	0	0	0	1	6	4	42	8	4	1	1	1	39	4	10
	5	1	1	1	4	0	1	30	0	6	0	0	2	81	0	7
	6	1	0	2	7	2	1	30	7	6	0	1	1	55	5	7
9	1	1	4	9	3	1	1	13	5	4	5	0	1	57	2	8
	2	4	0	2	6	2	1	4	21	7	33	0	2	5	6	10
	3	8	1	1	4	0	1	12	5	5	5	4	2	15	6	36
	4	0	9	1	25	0	2	41	0	7	14	2	3	106	0	25
	5	9	7	1	45	1	2	108	5	7	81	3	3	502	1	43
	6	8	4	1	26	12	3	32	14	4	91	3	3	424	6	38
10	1	4	0	0	7	8	2	18	63	12	87	2	3	260	11	15
	2	0	1	0	5	18	3	6	63	9	2	1	1	22	59	24
	3	10	1	0	1	1	0	2	6	3	3	0	0	12	31	15
	4	1	0	0	15	3	1	9	0	1	3	0	0	18	1	18
	5	7	1	1	7	1	1	11	3	3	3	0	0	33	5	6
	6	1	0	0	1	0	0	15	0	0	2	1	0	52	2	2
合計		318	53	46	217	204	65	483	317	158	331	52	30	2307	411	720

※「-」は欠測

平成26年予察灯における誘殺数(ツヤアオカメムシ)



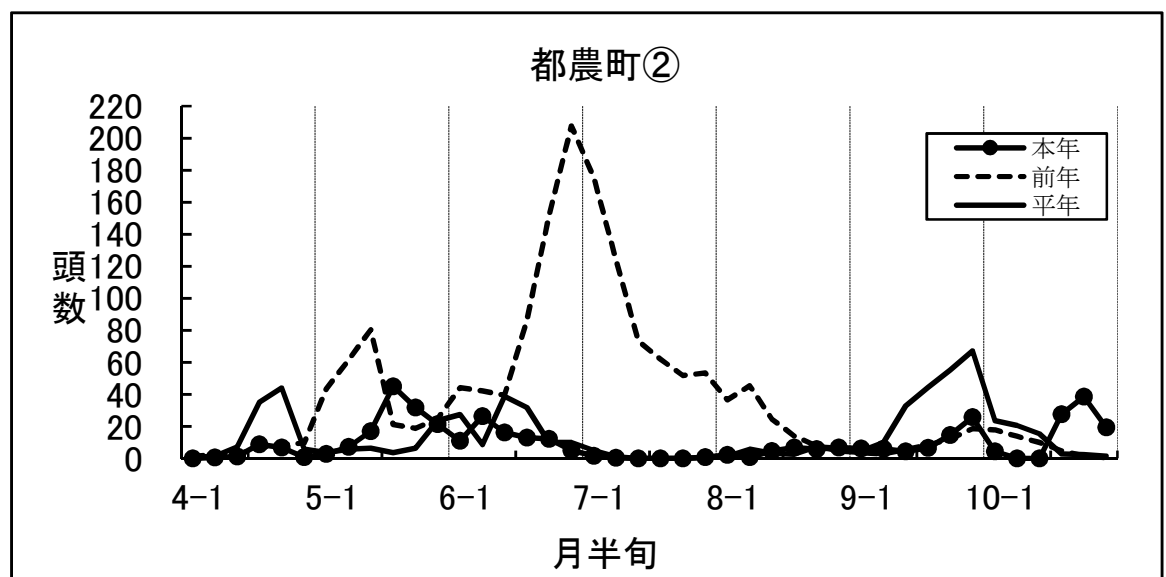
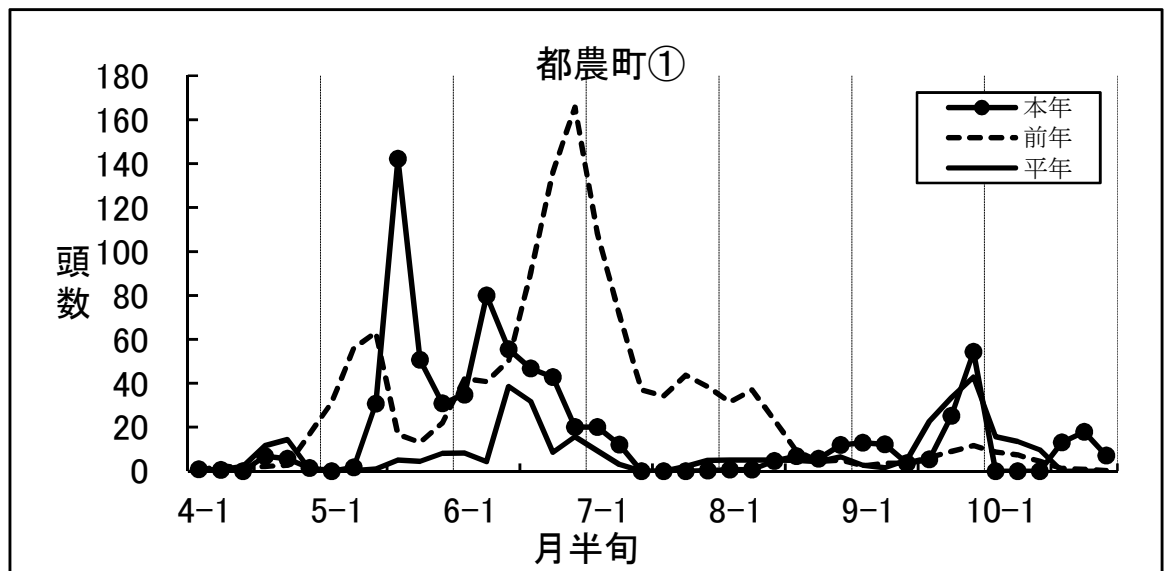
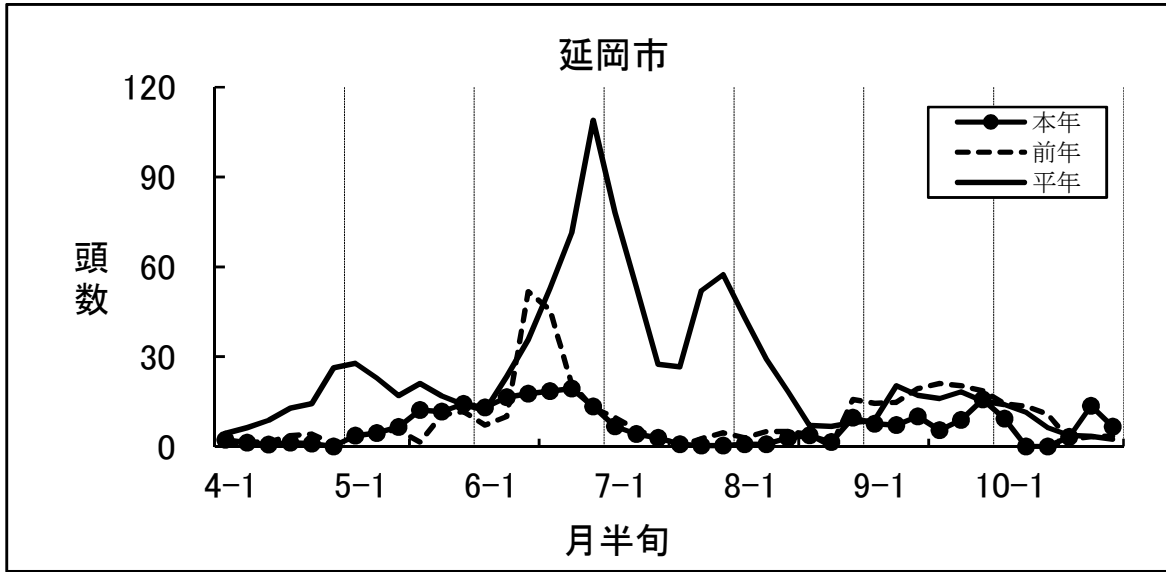
## (2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

## ① チャバネアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	2	4	1	1	0	0	0	1	1
	2	1	6	1	1	1	3	1	1	2
	3	1	9	1	0	2	1	1	7	3
	4	1	13	4	7	12	2	9	35	7
	5	1	14	4	6	14	3	7	44	9
	6	0	26	1	1	1	17	1	6	10
5	1	4	28	3	0	1	31	3	4	43
	2	4	23	5	2	0	56	7	6	61
	3	6	17	5	31	1	63	17	6	80
	4	12	21	1	142	5	17	45	4	21
	5	12	17	11	51	4	13	32	6	19
	6	14	14	12	31	8	22	21	24	25
6	1	13	12	7	35	8	42	11	27	44
	2	16	23	10	80	4	41	26	9	42
	3	18	36	52	55	39	50	16	39	39
	4	18	53	46	47	32	90	13	32	86
	5	19	71	21	43	9	136	12	10	152
	6	13	109	13	20	16	166	5	10	208
7	1	7	78	10	20	9	108	2	5	175
	2	4	53	6	12	3	71	0	1	124
	3	3	27	3	0	0	37	0	0	73
	4	1	27	0	0	0	34	0	0	62
	5	0	52	3	0	2	44	0	0	52
	6	0	57	5	0	5	38	1	1	53
8	1	1	43	3	1	5	31	2	1	37
	2	1	29	5	1	5	37	1	6	45
	3	3	18	5	5	5	23	5	3	24
	4	4	7	4	7	5	9	7	3	14
	5	1	7	0	6	4	4	6	7	8
	6	10	8	16	12	7	5	7	6	5
9	1	8	9	14	13	3	2	6	5	4
	2	7	20	15	12	2	4	6	10	3
	3	10	17	19	4	5	4	4	33	6
	4	5	16	21	5	23	6	7	44	8
	5	9	18	20	25	33	9	15	55	12
	6	16	15	19	54	43	12	26	67	19
10	1	9	14	14	-	16	9	4	24	18
	2	-	11	13	-	14	7	-	21	14
	3	-	6	11	-	10	4	-	15	10
	4	3	4	2	13	0	1	28	3	5
	5	14	3	3	18	0	1	39	2	2
	6	7	2	3	7	0	0	19	1	0
計		278	1,040	410	765	354	1,256	410	583	1,624

- : 欠測

平成26年フェロモントラップ誘殺数(チャバネアオカメムシ)

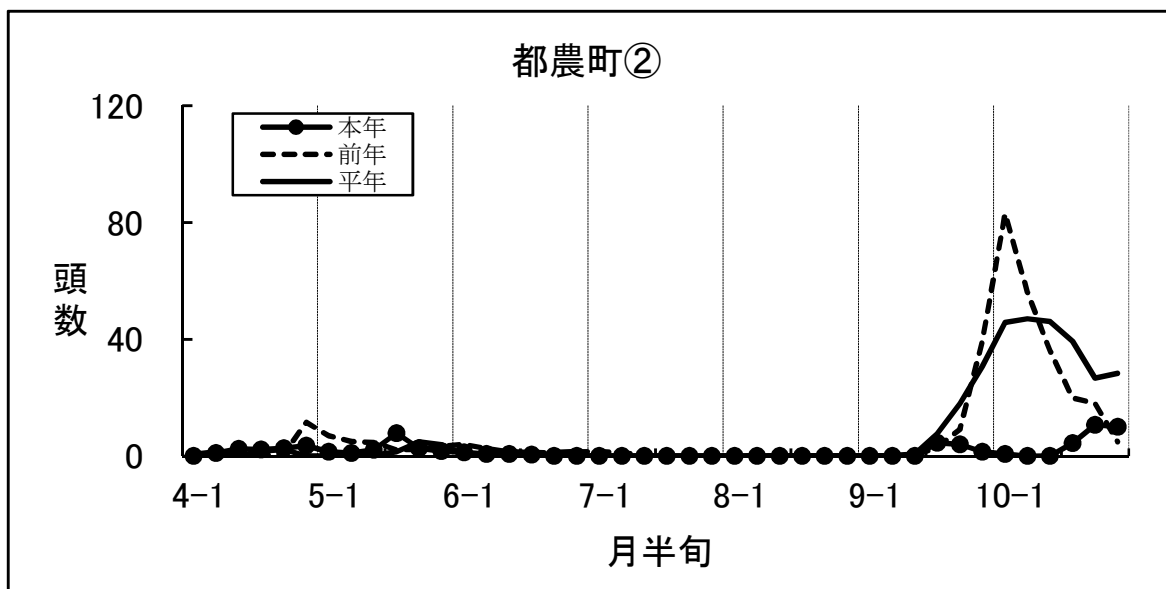
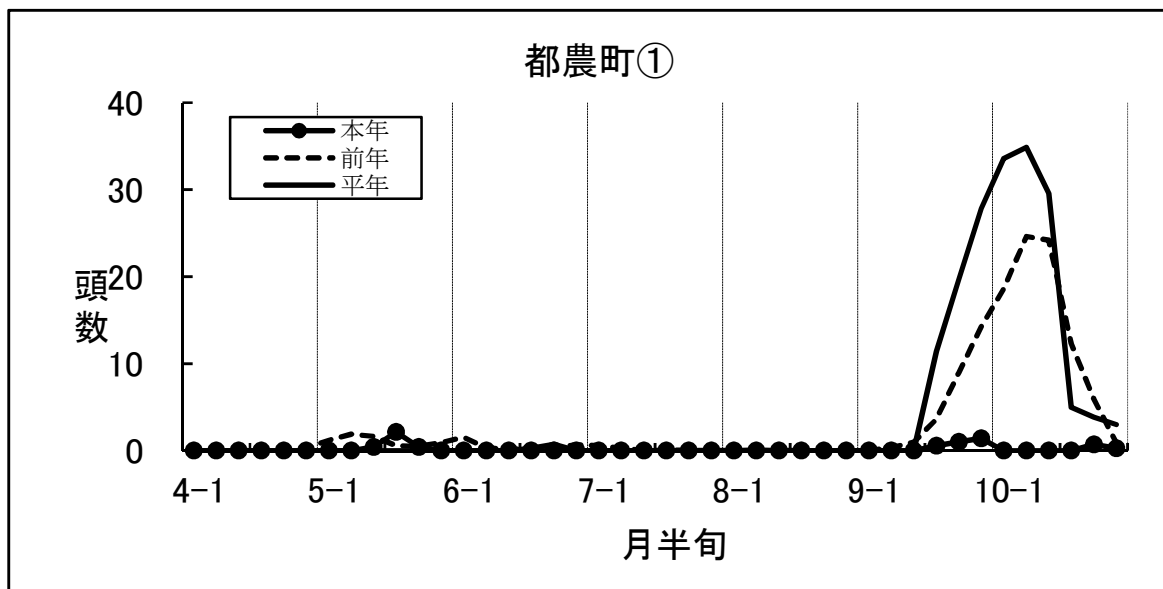
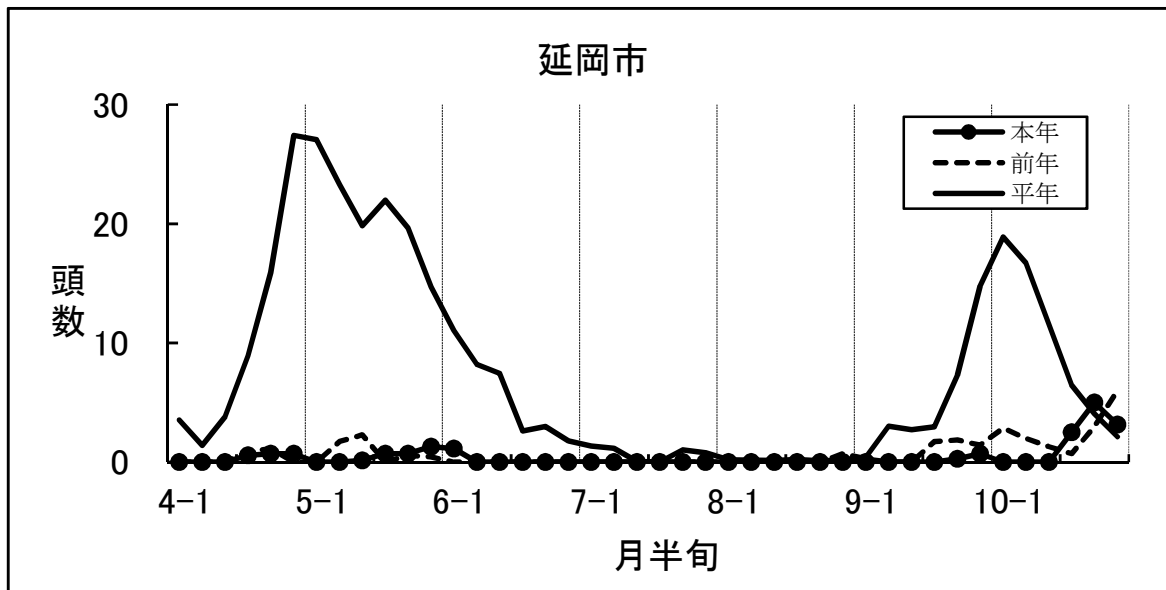


② ツヤアオカメムシ

月	半旬	延 岡			都農①			都農②		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0
	2	0	1	0	0	0	0	1	1	0
	3	0	4	0	0	0	0	3	0	0
	4	1	9	1	0	0	0	2	2	0
	5	1	16	1	0	0	0	3	2	1
	6	1	27	0	0	0	0	4	0	12
5	1	0	27	0	0	0	1	1	0	7
	2	0	23	2	0	0	2	1	0	5
	3	0	20	2	0	0	2	2	0	5
	4	1	22	0	2	0	1	8	1	2
	5	1	20	1	0	0	0	3	5	2
	6	1	15	0	0	0	1	2	4	3
6	1	1	11	0	0	0	2	1	1	4
	2	0	8	0	0	0	1	0	3	
	3	0	7	0	0	0	1	0	1	
	4	0	3	0	0	0	0	0	1	
	5	0	3	0	0	1	0	0	1	
	6	0	2	0	0	0	1	0	1	
7	1	0	1	0	0	0	1	0	0	2
	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0
8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0
9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	3	0	0	0	1	0	1	0
	4	0	3	2	1	11	4	5	8	3
	5	0	7	2	1	20	9	4	18	9
	6	1	15	1	1	28	14	1	31	39
10	1	0	19	3	-	34	19	1	46	83
	2	-	17	2	-	35	25	-	47	56
	3	-	12	1	-	30	24	-	46	36
	4	3	6	1	0	5	12	4	39	20
	5	5	4	3	1	4	6	11	27	18
	6	3	2	6	0	3	1	10	28	5
計		18	318	29	7	170	126	68	307	323

- : 欠測

平成26年フェロモントラップ誘殺数(ツヤアオカメムシ)



8) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや少 前年:やや少	493	初確認は5月30日(平年:5月20日)。6月下旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年に比べやや少の発生であった。	4~5月にかけては天候に恵まれたものの、6月は曇りや雨の日が多かったことから、発生に好適な条件となった。出穂期前後も曇りや雨の日が多かったが、晴れの日もあり、適期防除が行われた。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年:遅い 前年:遅い	平年:少 前年:少	0	7月中旬の巡回調査では、発生を認めず、発生面積率と発生程度(発病穂率)はいずれも平年並の発生であった。		穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	978	6月下旬の巡回調査から発生が確認され、7月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年に比べ少、発生程度(発病株率)は平年に比べやや少の発生であった。	6月後半~7月前半にかけては比較的気温が低く、感染に好適な条件ではなかった。	穂ばらみ期に防除。一部地区で航空防除。
	イネミズゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	5,623	4月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(被害度)はいずれも平年に比べやや少の発生であった。5月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	2,205	4月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)はいずれも平年並の発生であった。5月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。		粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	4,161	6月中旬の本田巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年に比べやや少の発生であった。その後、7月中旬の本田巡回調査では、発生面積率はやや多と増加したが、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年に比べ少発生であった。		防除情報第2号(H26.6.13)発表。穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。一部地区で航空防除。
普通期水稲	葉いもち	平年:並 前年:早い	平年:並 前年:やや少	4,590	本田での発生は6月中旬の巡回調査から確認された。7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。	6月~7月前半までは曇りや雨の日が多く、感染に好適な条件であったが、7月下旬以降は比較的気候に恵まれた。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:やや少	5,130	9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(発病穂率)はいずれも平年並の発生であった。	葉いもちの発生はあったが、8月中旬以降は天候に恵まれた。	防除情報第7号(H26.8.6)発表。穂ばらみ期と穂揃い期に防除。一部地区で航空防除。
	紋枯病	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや少 前年:やや少	3,780	7月下旬の巡回調査から確認され、8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年に比べ少発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。	期間をとおして、気温は平年並~やや低めで推移したことから、発生に好適な条件とはならなかった。	穂ばらみ期の防除。一部地区で航空防除。
	もみ枯細菌病	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:少	2,430	9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(病穂率)はいずれも平年並の発生であった。		粒剤による防除。
	内穎褐変病	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:やや少	8,100	9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(病穂率)はいずれも平年並の発生であった。		

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	セジロウンカ	平年:遅い 前年:遅い	平年:並 前年:やや少	10,260	予察灯初飛来は6月6日(平年5月30日)で平年より遅かった。本田では7月中旬の巡回調査から確認され、8月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)はやや少の発生であった。	6月第6半旬と7月第3半旬に県内の広い範囲で主要な飛来があったことから、その後の発生面積は平年よりも高かった。しかしながら、断続的な飛来があったのは8月に入ってからであったため、発生量は比較的多くならなかった。	防除情報第4号(H26.7.25)発表。育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	トビイロウンカ	平年:遅い 前年:遅い	平年:やや多 前年:やや少	9,450	予察灯初飛来は、7月3日(平年6月25日)で平年より遅かった。本田では、7月中旬から発生が確認され、8月中旬と9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ多、発生程度(株当たり虫数)は平年に比べやや多の発生であった。9月中旬時点では、短翅型雌成虫の株当たり虫数が平年に比べ多となっており、第3世代幼虫が発生する9月下旬以降に坪枯れ等の被害が増加するおそれがある。	7月第3半旬に県内の広い範囲で主要な飛来があり、飛来量も多かった。このため、世代交代を重ねる毎に発生量が増加したが、田植えの早かったほ場では箱施薬の効果が低下していたこともあり、一層発生量は多くなった。	防除情報第4号(H26.7.25)注意報第1号(H26.8.15)発表。注意報第2号(H26.9.17)発表。育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ヒメトビウンカ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	10,530	7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度は平年に比べやや多の発生であった。	越冬量は平年に比べやや少であったが、好天により増加した。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。一部地区で航空防除。
	ツマグロヨコバイ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	7,020	8月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べ少、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並の発生であった。9月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度は平年に比べやや少の発生であった。	越冬量は平年に比べ、やや少であった。	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年:早い 前年:早い	平年:少 前年:少	2,160	予察灯初飛来は、6月23日(平年6月30日)で平年より早かった。7月中旬の巡回調査では、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(被害率)は平年並の発生であった。8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べ少発生であった。	7月中旬まで散発的な飛来しかなく、主要な飛来があったのは7月下旬以降で平年よりも遅かった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	983	6月中旬巡回調査においては、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(被害度)は平年に比べ少発生であった。		育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	2,290	6月中旬巡回調査では、発生面積率は平年並、発生程度(m <sup>2</sup> 当貝数)は平年に比べ多発生であった。	水管理及び防除の不徹底。	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	3,780	8月中旬と9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(20回振すくいとり虫数)はいずれも平年に比べやや少の発生であった。	出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。
	大豆	べと病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	266	9月中旬の巡回調査における発生面積率はやや少、発生程度(発病度)は平年並の発生であった。	8月中旬以降は雨の日が少なかったが、曇りの日が比較的多かったため、感染に好適な条件であった。
葉焼病		平年:一 前年:一	平年:やや多 前年:やや多	0	9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(発病度)はいずれも平年に比べやや多の発生であった。		
ハスモンヨトウ		平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	266	8月中旬の巡回調査における発生面積率は平年に比べやや少、発生程度(食害度)は平年並の発生であり、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度(食害度)はいずれも平年に比べやや多の発生であった。		若齢期の防除。
カメムシ類		平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	190	8月中旬と9月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(25株虫数)はいずれも平年並の発生であった。		さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしょ	イモキバガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	1,196	8月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(被害葉率)はいずれも平年に比べ少発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率は平年に比べやや少、発生程度は平年に比べやや多の発生で推移した。		被害初期の防除。
	ナカンロンバ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	3,078	8月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(被害葉率)はいずれも平年に比べ少発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。		一部地区で無人ヘリ防除。つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	513	8月中旬の巡回調査における発生面積率と発生程度(被害葉率)はいずれも平年に比べ少発生であった。その後、9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。		他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:少	0	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(発病度)はいずれも平年に比べやや少の発生であった。		種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	412	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(寄生度)はいずれも平年に比べやや多の発生であった。	初期防除の不徹底。	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:早い	平年:並 前年:やや多	310	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(株虫数)はいずれも平年に比べやや多の発生であった。		幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	52	5月中旬巡回調査において、発生面積、発生程度(被害株率)はいずれも平年に比べやや少の発生であった。		若齢期の防除。
かんきつ	そうか病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:やや少 前年:-	0	葉、果実ともにやや少ない発生であった。初発は、葉が4月25日(平年比-12日)、果実が5月26日(平年比-21日)であった。	春葉伸長期である3月下旬~4月上旬の降雨量は少なかったが、落弁期以降曇雨天が続いた。	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農薬防除。越冬病斑量を減らすため、剪定時に病葉をできるだけ除去する。
	黒点病	平年:やや早い 前年:早い	平年:多 前年:-	1,149	6月の葉での発生は平年よりやや多であった。7月以降果実での発生はやや多~多で推移した。防除適期に薬剤散布できなかった園では多発した。	適期防除の不徹底。枯れ枝等の放置。	落花期以降の定期的な防除。枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:遅い 前年:やや早い	平年:やや少 前年:-	83	平年よりやや少ない発生であった。初発は葉で6月2日(平年比+22日)、果実で5月26日(平年比-34日)であった。	夏芽伸長期である6月下旬の降雨量が多かった。ハモグリガの発生量は平年並みであった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	822	春ダニの発生は平年並みであった。4月~7月の発生量は平年並~やや少で推移したが、8月から一部の園地で増加が見られた。年間を通しては平年並の発生となった。	8月上旬の降雨日数は多かったが、中旬調査では一部地域で多発していた。夏期マシン油を散布していない園では多発した。	発生初期での防除の実施。同一系統薬剤の連用を避ける。冬期、夏期にマシン油乳剤を利用する。
	チャノキイロアザミウマ	平年:遅い 前年:早い	平年:並 前年:-	83	8月にわずかに発生が確認されたが、その他は確認されなかった。	適期防除が行われた。	落花期から9月までの防除。多発する園では、5~6月、8月~9月の発生にも注意する。
	ハモグリガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	902	平年並~やや少の発生で推移した。新梢発生が長引いた園地ではやや多かった。	新梢発生が7月まで続いた。適期防除の不徹底。	防除の徹底。新梢をだらだらと発生させないような肥培管理。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:-	167	やや少ない発生で推移した。	梅雨時期の降雨により発生が抑制された。適期防除が行われた。	防除の徹底。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年: やや早い 前年: 並	平年: 多 前年: -	1,222	予察灯では4月中旬から誘殺されはじめ、越冬世代成虫の誘殺数は平年並みで推移した。多くの地域で8月以降の誘殺数がチャパネ、ツヤアオいずれも平年より多かった。フェロモントラップでの誘殺数は平年並であった。果樹園への飛来は、8月中旬に確認されはじめ、一部のほ場で被害が発生した。	7月下旬に実施したヒノキ毬果口針鞘数調査では、8月下旬～9月中旬頃に離脱すると予測された。カメムシ類の餌になるヒノキ毬果の量が平年より多い印象(聞き取り調査による)であり、増殖に好適な環境だったことが予想される。	飛来を確認したら直ちに防除を行う。
茶	炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	1,086	前年からの越冬病斑は平年並みであった。10月の発生は増加傾向ではあったが、平年並みで推移した。	前年からの越冬病斑は平年並みであった。10月の発生は増加傾向ではあったが、平年並みで推移した。	二番茶生育期、秋芽生育期の防除
	もち病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 多 前年: -	182	6月以降は発生面積、程度ともに増加傾向にあり、9月からは平年より多発生となった。主に山間部での発生であった。	6月以降は発生面積、程度ともに増加傾向にあり、9月からは平年より多発生となった。主に山間部での発生であった。	二番茶と秋芽の萌芽期から2、3葉期に炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	271	6月に発生を確認以降、8月までは増加傾向で推移したが、多発することなく、年間を通して平年並の発生となった。	6月に発生を確認以降、8月までは増加傾向で推移したが、多発することなく、年間を通して平年並の発生となった。	二番茶、三番茶摘採直後の防除
	チャノコカクモンハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	0	ほ場調査での発生は平年並みであった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期がほとんどの地域で平年並であったが、その後の世代で一部地域では多発生を繰り返した。	ほ場調査での発生は平年並みであった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期がほとんどの地域で平年並であったが、その後の世代で一部地域では多発生を繰り返した。	薬剤防除 チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	0	ほ場調査での発生は平年並みであった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期がほとんどの地域で平年並であったが、その後の世代で一部地域では多発生を繰り返した。	ほ場調査での発生は平年並みであった。フェロモントラップ調査では、第1世代の発蛾最盛期がほとんどの地域で平年並であったが、その後の世代で一部地域では多発生を繰り返した。	薬剤防除 チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: 多 前年: -	551	ほ場調査での発生は平年より多であった。フェロモントラップ調査は、ほとんどの地域で多発した。	ほ場調査での発生は平年より多であった。フェロモントラップ調査は、ほとんどの地域で多発した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	906	越冬ダニの発生は平年よりやや少であった。夏期の発生面積は平年よりやや多であったが、それ以外は平年並み～やや少の発生となった。寄生葉率は余り増減がなく平年並みの発生であった。	越冬ダニの発生は平年よりやや少であった。夏期の発生面積は平年よりやや多であったが、それ以外は平年並み～やや少の発生となった。寄生葉率は余り増減がなく平年並みの発生であった。	薬剤防除
	チャノミドリヒメコバイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	1,177	夏期にやや多い時期もあったが、おおむね平年並の発生となった。	夏期にやや多い時期もあったが、おおむね平年並の発生となった。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 並 前年: -	1,178	夏期にやや多い時期もあったが、おおむね平年並の発生となった。	夏期にやや多い時期もあったが、おおむね平年並の発生となった。	二番茶、三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノミドリヒメコバイとの同時防除。
	クワシロカイガラムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: -	364	増減を繰り返しながらも年間を通して少ない発生となった。	増減を繰り返しながらも年間を通して少ない発生となった。	各世代の孵化最盛期の防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成26年産 冬春キュウリ H25.9.~26.6. (栽培期間)	べと病	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 多 前年: 並	145	栽培当初の発生はなかったものの、12月以降発生面積・発生程度ともに徐々に拡大し作終了まで上昇傾向は継続した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 曇雨天等による発生の助長	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	3	春先にかけて散発的に確認されたが、栽培期間を通しては少ない発生であった。	早期防除の不徹底 罹病果の放置	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	うどんこ病	平年: 並 前年: 遅い	平年: 並 前年: やや多	113	栽培当初から発生がみられ、月を追うごとに発生量は増えていったが、全体的には平年並みの発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	褐斑病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 少 前年: 並	26	栽培期間を通して少ない発生で推移した。	湿度管理の不徹底 窒素質肥料の多用	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: やや早い 前年: 早い	平年: やや多 前年: やや多	173	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用が浸透してきたが徹底されていないほ場では定植直後から発生がみられ、その後の発生も平年よりも高く推移した。春先には施設開放により外部からの侵入等も起こり、発生量が多くなった。また、黄化えそ病の発生は、県中部を中心に発生が確認され、発生時期としては、外部からの侵入が起こりやすい定植期	早期水稲準備等、労力不足による防除の不徹底	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: やや多	14	栽培開始時にわずかに確認されたが、その後発生は確認されなくなった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
平成26年産 冬春ピーマン H25.9.~26.6. (栽培期間)	モザイク病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや少	35	栽培当初の発生はなかったものの、11月に発生面積が増加し、発生程度は徐々に拡大し作終了まで上昇傾向は継続した。	施設内湿度管理の不徹底 燃油高騰対策のための内張多層被覆下での栽培法への対応不足	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	98	栽培期間中発生が続いたが、年明け以降、一部ほ場で多発するなどほ場間差が大きかった。全体としては平年並みの発生であった。	初期防除の不徹底 窒素質肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	115	11月以降発生が確認されたが、発生面積及び発生量とも12月をピークに減少した。天敵等の導入が進んでおり、冬季の発生は低かったが、春先になり上昇してきた。	天敵導入面積の拡大 天敵導入前防除の取り組み	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成26年産 冬春トマト H25.9.~26.6. (栽培期間)	灰色かび病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: 並 前年: やや多	17	年内(平成25年12月)までは発生は少なかったが、年明け以降、全県下で葉および果実に発生が確認された。2月の曇雨天の影響で、発生面積・程度ともに平年より多となった。	施設内が感染好適条件になる機会が多かった 初期防除の不徹底や、作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除
	葉かび病	平年: やや遅 前年: 早	平年: 並 前年: やや多	24	平成25年11月に児湯地域で発生が確認され、年明け以降はやや多で推移した。	発生初期の対応の遅れや、作業遅れによる栽培環境の悪化	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	黄化葉巻病	平年:一 前年:並	平年:一 前年:並	2	定植後に発生株が散見されていたが、早期抜根処理を行っているためその後の発生は緩慢であり、年明け以降はほとんど確認されていない。	育苗～定植初期におけるタバココナジラムの防除が不徹底	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分
	コナジラム類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	56	定植直後から県内全域で発生が確認されている。その後は、平年並で推移した。	育苗～定植初期における防除が不徹底。目の細かい防虫ネットの設置が行われていないほ場については、野外からの侵入があった	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:少 前年:やや多	10	平成25年11月に散発的な発生が確認されたものの、その後、栽培期間を通して発生が少なかった。	苗床での防除の不徹底 侵入防止対策の不備	初期防除の徹底 薬剤による防除
平成26年産 いちご H25.9～26.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	12	定植直後から葉で発生が確認されているが、栽培期間を通して葉の発生は平年並～少発生であった。果実については平成25年12月以降やや多の発生となった。	親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年:やや遅 前年:並	平年:並 前年:並	4	平成26年1月までは発生を確認していなかったが、2月の曇雨天の影響で、発生が確認され始め、2月～3月は発生面積・程度ともに平年よりやや多となった。	ハウス内の環境条件の不備	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:並	7	平成25年5月に実施した親株床の潜在感染株調査では、県下全域において潜在感染株率が高かった。定植後は、発生面積・程度ともに並で推移したものの、3月には発生面積・発病株率ともに平年比やや多となった。	親株の計画的な更新ができていない 育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	46	定植直後は平年並みの発生であったが、その後、栽培終了まで発生面積・程度ともに平年比やや多～多で推移した。	初期防除の不徹底	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	8	栽培当初は県内各地でハスモンヨトウの寄生および被害が確認されていたが平成25年12月以降は、やや少～並の発生となった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
	平成26年産 秋冬ダイコン H25.9～ 25.12. (栽培期間)	萎黄病	平年:遅い 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去
軟腐病		平年:やや遅 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	410	平成24年11月に発生が確認された。	初期防除の不徹底 罹病果の放置	排水を良くする
コナガ		平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや多	273	平成25年11月に発生が確認された。	初期防除の不徹底	薬剤による防除
ダイコンサルハムシ		平年:並 前年:やや早い	平年:やや多 前年:並	957	平成25年10月に発生が確認され、11月には多くの地域で発生がみられた。	登録農薬がないため、薬剤防除ができない。	

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考			
			甚	多	中	少		実	延						
早期水稻	7,820	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	7,038	(同)	7,038	0	0		
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	7,038	(同)	7,038	0	0		
		葉いもち	0	0	0	493	493	(同)	7,038	(同)	7,742	0	2,151		
		穂いもち	0	0	0	0	0	(同)	6,256	(同)	7,194	0	1,267		
		紋枯病	0	0	0	978	978	(同)	3,519	(同)	3,519	0	2,807		
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	0	(同)	7,038	(同)	7,038	0	0	
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	0	(同)	7,038	(同)	7,038	0		
		ごま葉枯病	0	0	0	493	493	0	0	0	0	0	117		
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		もみ枯細菌病	0	0	0	242	242	0	0	0	0	0	0		
		〃 (種)	0	0	0	0	0	0	(同)	7,038	(同)	7,038	0		
		内穎褐変病	0	0	0	2,690	2,690	-	-	0	4,317				
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	1,251	1,251	0	0	0	0	0	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
セジロウンカ	0	0	0	3,425	3,425	(同)	626	(同)	626	0	4,614				
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同)	626	(同)	626	0	125				
ヒメトビウンカ	493	1,955	2,933	2,197	7,578	(同)	626	(同)	626	5,381	6,389				



農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		もみ枯細菌病	0	0	0	2,430	2,430	(同)	0	(同)	0	2,754	
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同)	9,720	(同)	9,720	0	
		内穎褐変病	0	0	0	8,100	8,100	0	0	0	0	6,080	
		稲こうじ病	270	270	270	1,080	1,890	(同)	0	(同)	0	810	842
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同)	5,184	(同)	5,184	0	
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同)	0	(同)	0	0	
		セジロウンカ	0	0	0	10,260	10,260	(同)	10,692	(同)	27,000	0	9,083
		トビイロウンカ	0	0	810	8,640	9,450	(同)	10,692	(同)	27,000	810	5,975
		ヒメトビウンカ	1350	2,700	4,590	1,890	10,530	(同)	10,692	(同)	27,000	8,640	9,504
		ツマグロヨコバイ	0	0	810	6,210	7,020	(同)	10,692	(同)	27,000	810	7,063
		イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネヒメハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,836	(同)	1,836	0	
		イネゾウムシ	0	0	0	270	270	(同)	1,836	(同)	1,836	0	572
		斑点米カメムシ類	0	270	1,350	2,160	3,780	(同)	5,508	(同)	6,480	1,620	4,655
		イネツトムシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	400
		フタオビコヤガ	0	0	0	555	555	0	0	0	0	0	605
		イネヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アワヨトウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		コブノメイガ	0	0	0	2,160	2,160	(同)	8,640	(同)	8,748	0	5,908
		イネミズゾウムシ	0	0	0	983	983	(同)	1,836	(同)	1,836	0	1,825
		スクミリンゴガイ	0	324	983	983	2,290	(同)	2,052	(同)	2,052	1,307	2,333

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
大豆	266	紫斑病	0	0	0	106	106	0	0	0	54		
		さび病	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
		立枯性病害	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		べと病	0	0	0	266	266	0	0	0	177		
		葉焼病	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	14		
		アブラムシ病	0	0	0	114	114	(同)	186	(同)	279	0	12
		コガネムシ類	0	190	76	0	266	(同)	186	(同)	279	266	68
		ハスモンヨトウ	0	0	266	0	266	(同)	186	(同)	279	266	232
		ハダニ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ダイス <sup>*</sup> サヤタマハ <sup>*</sup> エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメヒメサヤムシカ <sup>*</sup>	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		マメシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	
		シロイチモジ <sup>*</sup> マダ <sup>*</sup> ラメイカ <sup>*</sup>	0	0	0	53	53	0	0	0	0	22	
		カメムシ類	0	0	0	266	266	(同)	186	(同)	186	0	211
ウコンノメイガ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15			
さつまいも	3,590	ナカジロシタバ	2395	898	298	0	3,590	(同)	2,872	(同)	5,959	3,590	3,590
		ハスモンヨトウ	400	150	50	0	600	(同)	2,872	(同)	5,959	600	1,651
		イモコガ	0	898	298	0	1,196	(同)	2,872	(同)	5,959	1,196	1,863
じゃがいも	515	疫病	0	0	0	0	0	(同)	309	(同)	618	0	168
		アブラムシ類	0	0	0	412	412	(同)	309	(同)	618	0	135
		ニシユウヤホシテントウ	0	0	52	258	310	(同)	309	(同)	618	52	141
かんきつ	1,477	そうか病(春葉)	0	0	0	0	0	1,034	3,102	0	127		
		温州	0	0	0	247	247	1,034	3,102	0	251		
	802	黒点病(果実)	0	0	164	985	1,149	1,034	3,102	164	928		
		晩柑	0	0	0	83	83	1,034	1,034	0	470		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
	675	かよいよ病(果実)	0	0	0	0	0	1,034	1,034	0	360	
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0	0	0	0	240	
		ミカンハダニ	0	83	83	656	822	(同) 1,477	5,170	166	835	
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同) 1,477	(同) 5,170	0	17	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	83	83	1,329	3,988	0	138	
		ミカンハモグリガ	0	0	0	902	902	902	1,353	0	906	
		アブラムシ類	0	0	0	167	167	167	167	0	467	
		カメムシ類	0	0	122	1,100	1,222	1,222	2,444	122	410	
茶	1,540	炭疽病	0	0	271	815	1,086	1,540	5,390	271	1,030	
		もち病	0	0	0	182	182	(同) 1,540	(同) 1,540	0	224	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,540	(同) 5,390	0	0	
		輪斑病	0	0	0	271	271	1,540	3,080	0	342	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	0	0	(同) 1,540	(同) 5,390	0	94	
		チャハマキ	0	0	0	0	0	(同) 1,540	(同) 5,390	0	146	
		チャノホソガ	0	0	453	996	1,449	(同) 1,540	(同) 5,390	453	828	
		カンザワハダニ	0	0	91	815	906	1,540	3,850	91	968	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	0	271	906	1,177	(同) 1,540	(同) 5,390	271	1,089	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	182	996	1,178	(同) 1,540	(同) 5,390	368	1,148	
		クロシロカイカラムシ	91	91	182	0	364	364	546	364	866	
		カスミカメ類	0	0	0	829	829	829	829	0	555	
冬春キュウリ (H25.9 ~H26.6)	346	べと病	3	22	35	86	146	329	1,644	60	151	
		炭そ病	0	0	0	0	0	145	291	0	1	
		疫病	0	0	0	0	0	138	138	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	3	3	138	138	0	10	
		うどんこ病	0	3	8	102	113	346	1,384	11	118	
		褐斑病	0	0	0	26	26	332	997	0	84	
		斑点細菌病	0	0	0	3	3	87	173	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
		ミナミキイロアザミウマ	7	3	13	150	173	329	1,972	22	153	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	138	138	0	3	
冬春ピーマン (H25.9 ~H26.6)	198	疫病	0	0	0	0	0	83	83	0	0	
		斑点病	0	3	5	33	41	158	634	7	55	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	40	40	0	0	
		うどんこ病	0	7	13	78	98	174	523	20	104	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	50	99	0	3	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
		アブラムシ類	0	0	4	0	4	99	198	4	8	
		タバコガ	0	0	0	0	0	109	218	0	0	
		ミナミキイロアザミウマ	0	2	22	91	115	192	1,344	24	104	
ヒラズハナアザミウマ	9	17	20	46	92	192	1,344	46	60			
冬春トマト (H25.9 ~H26.6)	132	疫病	0	0	0	0	0	98	390	0	2	
		灰色かび病	0	2	7	9	18	117	234	9	21	
		葉かび病	0	0	0	24	24	91	273	0	20	
		コナジラミ類	2	4	11	38	55	130	910	17	58	
		ハモグリバエ類	0	0	0	10	10	107	213	0	2	
		モザイク病	0	0	0	0	0	117	117	0	0	
		アブラムシ類	0	3	6	20	29	67	201	9	1	
	(含ミニ)ハスモンヨトウ	0	1	3	5	9	67	134	4	10		
冬春イチゴ (H25.9 ~H26.5)	71	灰色かび病	0	0	1	3	4	59	118	1	5	
		うどんこ病	0	4	4	5	13	67	134	8	26	
		炭そ病	0	0	0	7	7	12	34	0	7	
		アブラムシ類	0	3	6	20	29	67	201	9	24	
		ハダニ類	2	4	15	25	46	67	268	21	40	
		ハスモンヨトウ	0	1	3	5	9	67	134	4	14	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
秋冬ダイコン (H25.10 ~12)	1,367	モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	421	
		アブラムシ類	0	0	0	684	684	848	848	0	618	
		キスジノミハムシ	0	0	0	0	0	273	273	0	68	

9) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	1号	8月15日	普通期水稲	トビイロウンカ	次ページ以降を参照
	2号	9月17日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	3号	12月24日	いちご	うどんこ病	
	4号	12月24日	いちご	ハダニ類	
防除情報	1号	5月30日	施設野菜	アザミウマ類他	
	2号	6月13日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	3号	7月1日	冬春いちご (育苗床)	炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類	
	4号	7月25日	普通期水稲・飼料 イネ	トビイロウンカ、セジロウンカ	
	5号	7月25日	かんきつ	黒点病	
	6号	7月25日	茶	チャノミドリヒメヨコバイ他	
	7号	8月6日	普通期水稲	いもち病(穂いもち)	
	8号	9月18日	果樹全般	果樹カメムシ類	
	9号	12月3日	かんきつ	黒点病	
	10号	12月3日	冬春いちご	うどんこ病、ハダニ類	
	11号	12月17日	かんきつ	ミカンハダニ	
	12号	2月27日	冬春いちご	ハダニ類	

(2) 情報の内容

◎ 注意報第1号（発令月日：平成26年8月15日）

病害虫名 トビイロウンカ

作物名 普通期水稻

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多～多

3 発生状況と注意報の根拠

(1) 8月中旬の巡回調査（40地点）における発生面積率 75.0%（平年 38.1%）は平年より多、株当たり虫数 0.20頭（平年 0.24頭）は、平年よりやや多である（図1、図2）。特に産卵数の多い短翅型雌成虫の発生が多く、株当たり虫数 0.08頭（平年 0.02頭）は平年より多である（図3）。

(2) 短翅型雌成虫の発生量が要防除水準に達している地点が県内の広い範囲で確認されており、今後8月下旬～9月上旬に予測されている第2世代の発生に伴い、短期間に増殖するおそれがある（表1）。

（※要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.20頭）

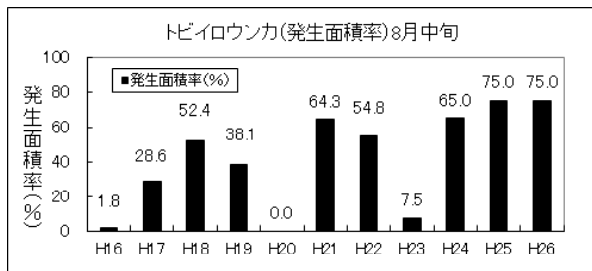


図1.発生面積率の推移

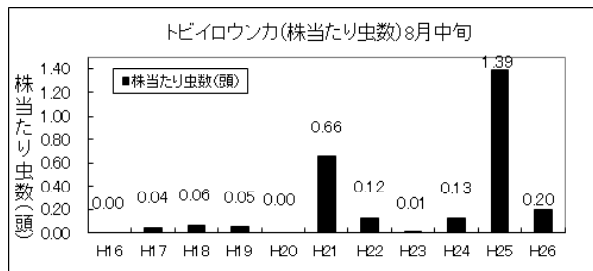


図2.株当たり虫数の推移

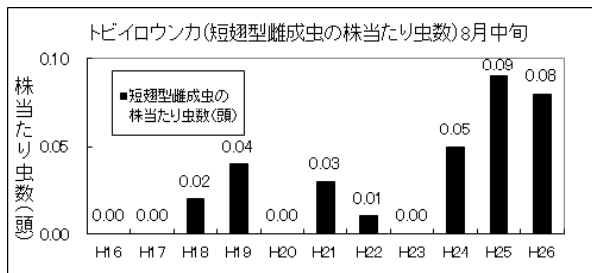


図3.短翅型雌成虫の株当たり虫数の推移

表1. 8月中旬の巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況

区分	調査地点数	発生面積率(%)	株当たり虫数(頭)	短翅型雌成虫の株当たり虫数(頭)
全県	40	75.0	0.20 (0-1.24)	0.08 (0-0.56)
東諸県	4	50.0	0.08 (0-0.20)	0.06 (0-0.12)
北諸県	10	90.0	0.24 (0.04-1.16)	0.10 (0-0.52)
西諸県	8	75.0	0.21 (0-1.24)	0.10 (0-0.56)
東白杵北部	4	100	0.16 (0.04-0.32)	0.10 (0-0.20)
東白杵南部	6	33.3	0.09 (0-0.28)	0.05 (0-0.20)

西臼杵	8	87.5	0.31 (0-0.68)	0.07 (0-0.16)
-----	---	------	---------------	---------------

※ ( ) は最小値と最大値の幅

#### 4 防除上の注意

- (1) トビイロウンカの防除適期は8月第5～9月第1半旬（7月14日飛来・第2世代幼虫期）と予想される。防除を行う際は地域毎の防除適期内に必ず防除を行う（別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）。
- (2) 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。
- (3) 気象的な要因等で8月上旬の第1世代幼虫期に防除ができなかった場合は、生息密度が高まっているおそれがあるので、防除適期内に必ず防除を行う。また、防除を実施した場合でも、株元を確認し、生息密度が高い場合は防除適期内に追加防除を行う。
- (4) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成24年3月）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成25年10月30日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準の制定について」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成26年1月20日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

#### 5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

#### ◎ 注意報第2号（発令月日：平成26年9月17日）

病害虫名 トビイロウンカ（第3世代）

作物名 普通期水稻

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多～多

#### 3. 発生状況と注意報の根拠

- (1) 9月中旬の巡回調査（40地点）における発生面積率87.5%（平年55.3%、前年87.5%）は平年より多、株当たり虫数1.57頭は過去10年間で3番目に多い（図1、図2）。
- (2) 地域間やほ場間の差はあるものの、産卵数の多い短翅型雌成虫（写真1）の発生が多い傾向にある。株当たり虫数0.47頭（平年0.13頭、前年0.31頭）は平年より多で、大発生した前年同期よりも多い（図3）。今後9月下旬頃に予測されている第3世代幼虫の出現に伴い、密度が急激に増加し、短期間に坪枯れするおそれがある（表1）。
- (3) 鹿児島地方气象台が9月11日に発表した向こう1か月の気温（9月13日～）は、高い確率が40%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしば

らく続くと考えられる。

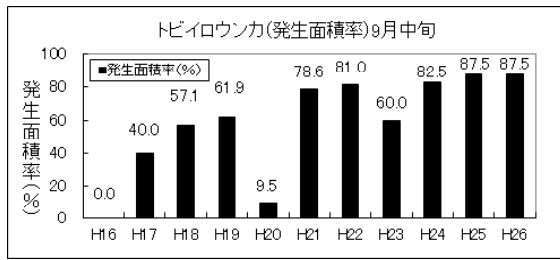


図 1.発生面積率の推移

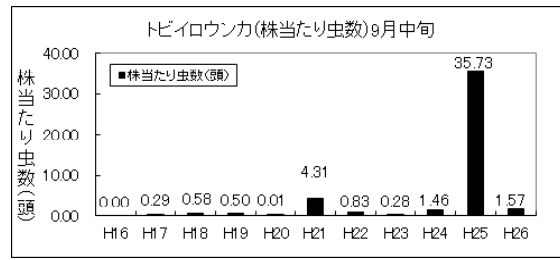


図 2.株当たり虫数の推移

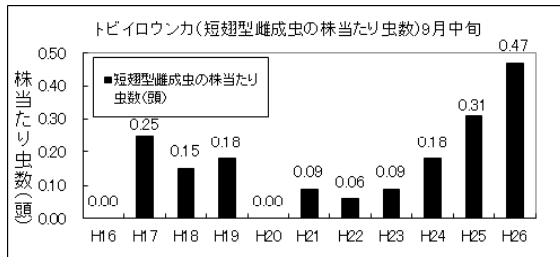


図 3. 短翅型雌成虫の株当たり虫数の推移



写真 1.短翅型雌成虫（腹部が大きく、産卵数は長翅型よりも多い）

表 1. 9月中旬の巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況

区分	調査地点数	発生面積率(%)	株当たり虫数(頭)	短翅型雌成虫の株当たり虫数(頭)
全県	40	87.5	1.57 (0-11.9)	0.47 (0-2.6)
東諸県	4	100	2.46 (0.08-9.1)	0.75 (0-2.6)
北諸県	10	100	3.32 (0.08-11.9)	0.86 (0-2.1)
西諸県	8	75.0	0.38 (0-0.96)	0.11 (0-0.24)
東白杵北部	4	100	1.34 (0.28-2.6)	0.50 (0-1.2)
東白杵南部	6	83.3	0.30 (0-1.04)	0.02 (0-0.08)
西白杵	8	75.0	1.20 (0-3.7)	0.08 (0-0.36)

※ ( ) は最小値と最大値の幅

#### 4. 防除上の注意

(1) トビイロウンカの防除適期は幼虫期前半であり、9月第6半旬～10月第2半旬

頃（都城市で7月14日飛来の場合は9月28日～10月9日、別紙：県内トビイロウンカの発生世代予測を参照）と予想される。防除を行う際は地域毎の防除適期内に行うことが望ましい。ただし、ほ場によって発生状況にばらつきがあることから、ほ場内をよく観察し、幼虫を多数確認した場合は速やかに防除を行う。

(2) トビイロウンカは株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）には十分に注意すること。

(3) 飼料用稲においては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成24年3月）及び「飼料として使用する粃米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成25年10月30日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準の制定について」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成26年1月20日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

#### 【その他】

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

#### ◎ 注意報第3号（発令月日：平成26年12月24日）

病害虫名 うどんこ病

作物名 いちご

1. 発生地域 県下全域

2. 発生時期 収穫期

3. 発生程度 やや多

#### 4. 注意報の根拠

1) 12月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

うどんこ病（葉）

発生面積率：38.5%（前年25.0%、平年39.7%） 平年並

発病葉率：3.2%（前年6.3%、平年4.9%） 平年並

うどんこ病（果実）

発生面積率：23.1%（前年16.7%、平年7.8%） 平年より多

発病果率：1.1%（前年2.0%、平年0.6%） 平年よりやや多

葉での発生程度については、全体的に低下しているものの、一部地域では依然として発生が多く、引き続き注意が必要である。果実での発生面積は過去10年の同時期で最も高い数値（平成23年、24年と同数値）となった。

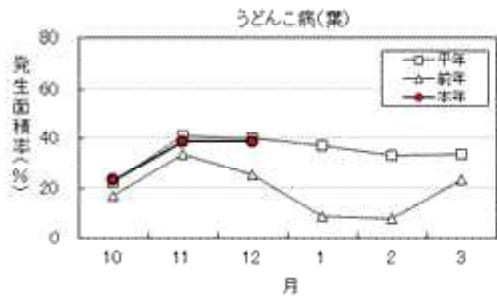


図1 うどんこ病(葉)の発生面積率

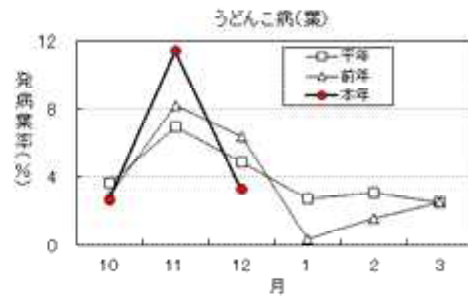


図2 うどんこ病(葉)の発病葉率

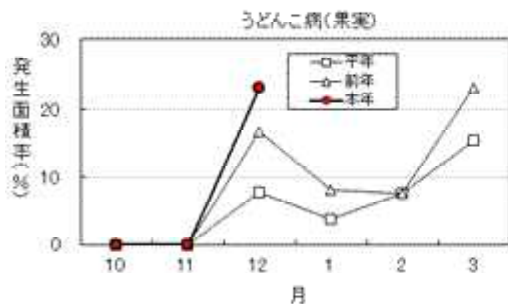


図3 うどんこ病(果実)の発生面積率

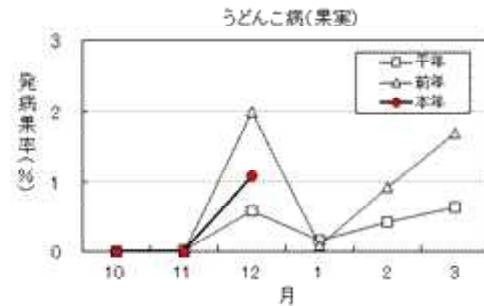


図4 うどんこ病(果実)の発病果率

## 5 防除上の注意

- 1) 一般的に、各作物のうどんこ病は比較的乾燥した条件で発生するが、いちごうどんこ病は多湿・乾燥いずれの状態でも発生がみられる。高湿度条件にならないようにハウス内の通風、換気に努める。
- 2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。蔓延すると防除が困難になるので、発病前から定期的に予防散布を実施する。
- 3) 草勢が衰えたとき(結実、収穫期)に多発生する傾向があるので、草勢低下を防止するために適切な栽培管理を行う。
- 4) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、すみやかにほ場外に持ち出し適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- 5) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。
- 6) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

## 6 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) ただし、農薬の安全性評価について、今年から短期暴露評価が導入されることになり、既登録農薬の中には、今後使用方法の変更や適用作物の削除などの見直しが行われる場合があります。ラベルにある使用基準を守って使用しても、農薬残留基準値を超過してしまう可能性があるため、農薬使用の際には、各農薬メーカーのパンフレットやホームページ等で最新の登録内容を確認し、使用してください。

3) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第4号（発令月日：平成26年12月24日）

病害虫名 ハダニ類

作物名 いちご

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 収穫期

3 発生量 多

4 注意報の根拠

1) 12月中旬におけるハダニ類の巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率：92.3%（前年66.6%、平年48.3%） 平年より多

寄生株率：35.4%（前年28.3%、平年12.9%） 平年より多

葉当たり虫数：12.4頭（前年8.8頭、平年3.2頭） 平年より多

発生面積率、寄生株率、葉当たり虫数のいずれも過去10年の同時期で一番高い数値となっている。

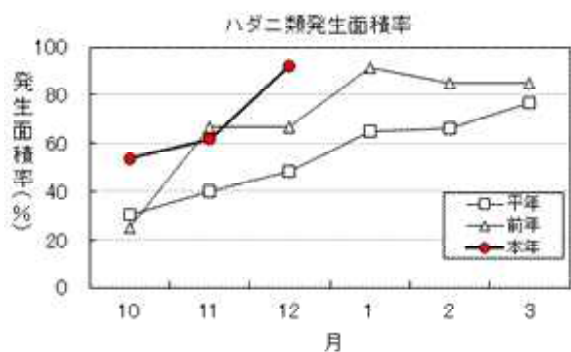


図1 発生面積率の推移

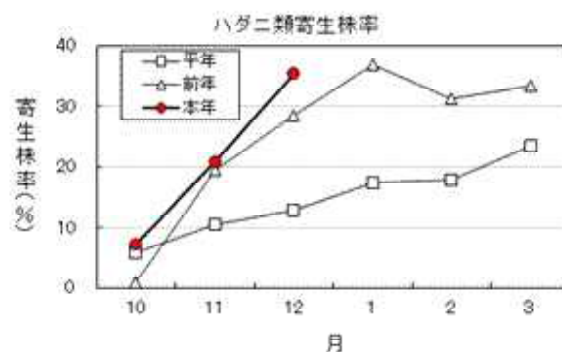


図2 寄生株率の推移

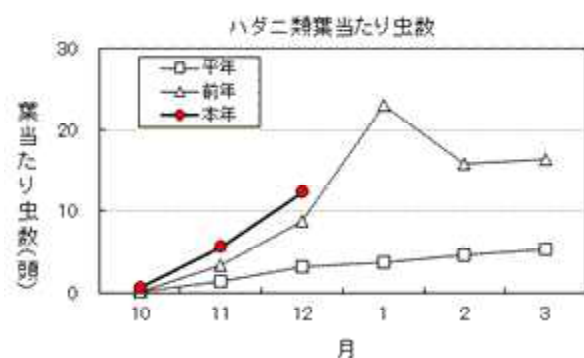


図3 葉当たり虫数の推移

5 防除上の注意

1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。

2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。

- 3) ハダニ類の密度が高くなると、葉が糸で覆われ薬液がはじかれることから、ハダニ類に対する薬液の付着が悪くなるので、展着剤もしくは粘着性の高い気門封鎖型薬剤を活用し糸の除去を図る。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉はできるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

## 6 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) ただし、農薬の安全性評価について、今年から短期暴露評価が導入されることになり、既登録農薬の中には、今後使用方法の変更や適用作物の削除などの見直しが行われる場合があります。ラベルにある使用基準を守って使用しても、農薬残留基準値を超過してしまう可能性があるため、農薬使用の際には、各農薬メーカーのパンフレットやホームページ等で最新の登録内容を確認し、使用してください。
- 3) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

## ◎ 防除情報第1号（発令月日：平成26年5月30日）

**次期作付のための病害虫対策として、栽培終了時の蒸し込みと残さ処理を徹底しましょう。**

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、いちご）
- 2 病害虫名 アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類、黄化えそ病、つる枯病、土壌病害虫
- 3 発生状況（経過）  
アザミウマ類
  - 1) 4月の巡回調査における冬春きゅうりでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が79.9%（平成25年61.8%）で平成25年より多、100葉当たり虫数が224.7頭（平成25年185.1頭）で平成25年並である。ミナミキイロアザミウマは、キュウリ黄化えそ病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培きゅうりやその後続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。
  - 2) 冬春ピーマンでのミナミキイロアザミウマの発生状況は、発生面積率が61.5%（平成25年59.5%）で平成25年並、10花当たり虫数が3.8頭（平成25年2.0頭）で平成25年より多である。
  - 3) 冬春ピーマンでのヒラズハナアザミウマの発生状況は、発生面積率が69.3%（平成25年35.0%）で平成25年より多、10花当たり虫数が22.4頭（平成25年10.9頭）で平成25年よりやや多である。
- コナジラミ類
  - 1) 4月の巡回調査における冬春きゅうりでのタバココナジラミ類の発生状況は、発生面積率

が 53.3 % ( 平年 25.4 % ) で平年より多、100 葉虫数が 1.5 頭 ( 平年 12.1 頭 ) で平年並である。

- 2) 冬春トマトでのタバココナジラミ類の発生状況は、発生面積率が 40.0 % ( 平年 34.0 % )、100 葉虫数が 2.8 頭 ( 平年 4.8 頭 ) でいずれも平年並である。タバココナジラミ類 ( バイオタイプ Q ) は、トマト黄化葉巻病の原因ウイルスの媒介虫であり、保毒虫が施設外に拡散すると露地栽培トマトやその後に続く施設栽培で病気の蔓延を引き起こすことが懸念される。

アブラムシ類

- 1) 4 月の巡回調査における冬春ピーマンでのアブラムシ類の発生状況は、発生面積率が 0.0 % ( 平年 7.1 % )、50 芯当たり虫数が 0.0 頭 ( 平年 1.9 頭 ) でいずれも平年並である。
- 2) 3 月の巡回調査における冬春いちごでのアブラムシ類の発生状況は、発生面積率が 15.4 % ( 平年 29.1 % ) で平年よりやや少、寄生株率が 2.3 % ( 平年 2.6 % ) で平年並である。

ハダニ類

- 1) 3 月の巡回調査における冬春いちごでのハダニ類の発生状況は、発生面積率が 84.7 % ( 平年 76.0 % ) で平年よりやや多、寄生株率が 33.2 % ( 平年 21.8 % ) で平年より多である。

黄化えそ病 ( M Y S V )

- 1) 今作の巡回調査における冬春きゅうりでの黄化えそ病の発生状況は、4 月調査で発生面積率が 46.7 % ( 前年 0.0 %、前々年 7.7% )、発病株率が 0.3 % ( 前年 0.0 %、前々年 0.0% ) でいずれも過去 4 年で一番多くなっている。

つる枯病

- 1) 今作の巡回調査における冬春きゅうりでのつる枯病の発生状況は、4 月調査で発生面積率が 20.0 % ( 平年 5.2 %、前年 15.4% )、発病株率が 1.3 % ( 平年 0.1 %、前年 0.2% ) でいずれも平年より多である。

青枯病

- 1) 今作の巡回調査における冬春トマトでの青枯病の発生状況は、4 月調査で発生面積率が 10.0 % ( 平年 2.7 %、前年 0.0% )、発病株率が 1.0 % ( 平年 0.1 %、前々年 0.0% ) でいずれも平年より多である。

#### 4 防除上の注意

- 1) アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類、ハダニ類

- ① 害虫の中にはウイルス病を媒介するものがある。いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となってきていることから、次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を抑制することが重要である。
- ② 栽培終了時には、施設を密閉し蒸し込みによる害虫の死滅を図り、病虫害の拡散防止を徹底する。具体的には、栽培終了後、植物及び雑草は株を抜根し、すぐに施設を密閉して蒸し込みを行う。蒸し込み期間は蛹が羽化する期間も考慮して、少なくとも 10 日間以上を確保する。
- ③ ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺の除草を徹底する。(ハウス内の雑草や枯れていない残さは害虫の生き残り場所になるので徹底した除草が必要である。)
- ④ 次期の作付に当たっては、育苗期から防除 ( 粒剤施用など含む ) を徹底し、本ほハウスには防虫ネットや抑草シート、光反射資材を設置し、害虫の苗からの持ち込みや外からの飛び込みを防止する。

- 2) 黄化えそ病 ( M Y S V )

- ① 次期作に向け、周辺にウイルスが拡散しないために、栽培終了時には必ず防除と蒸し込み

を行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを餓死させる。

- ② 具体的には、まずミナミキイロアザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。

### 3) つる枯病

- ① 施設内で使用した資材・農機具などは消毒するとともに、支柱などはなるべく新しいものを使用し、古い支柱を使う場合は被害茎葉、巻きひげなどをよく取り除く。

### 4) 土壌病害虫

- ① 土壌病害虫の対策としては、作物残さを施設外に持ち出し、埋却処理など、適切に処分する必要がある。ピーマン立枯病（ネクトリア）やトマト立枯病などは、病気が感染した葉や果実などでも病原菌が増殖し、土壌中で生き残るため、葉や果実などの地上部残さも施設外に持ち出し、適切に処分する。

- ② 近年、トマトの線虫抵抗性台木を使用したほ場でもネコブセンチュウの被害が確認されていることから、線虫が寄生している根などはほ場内に残さないようにする。

- ③ 残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。次期作付けに当たっては、健全種子及び苗を確保するとともに土作りを十分に行い、適正な栽培管理に努める。また、秋口の高温により発病が助長される土壌病害もあることから、極端な早植えは避ける。

- ④ 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。

- ⑤ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。

## 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

- 2) 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

## ◎ 防除情報第2号（発令月日：平成26年6月13日）

- 1 作物名 早期水稻
- 2 病害虫名 斑点米カメムシ類
- 3 発生状況（経過）

### **斑点米カメムシ類の適切な防除を行いましょう。**

1. 作物名 早期水稻
2. 病害虫名 斑点米カメムシ類
3. 発生状況

- (1) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度（20回振りすくい取り）は、成・幼虫合計で46.8頭（平年40.8頭、前年28.5頭）であり、平年並となっている。（表-1、図-1、2参照）

(2) 種別では、ほ場間差がやや目立つものの、ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシを除く3種の生息密度が平年よりも高く、特にシラホシカメムシ類の生息密度は過去10年間と比較して最も高くなっている。

表-1 飼料作物における斑点米カメムシ類の種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

	ミナミアオカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ類	アカスジカメムシ	全種合計
H26※	1.1	4.0	3.4	3.0	35.3	46.8
平年値	1.3	7.3	2.5	0.8	28.9	40.8

※調査地点数：136地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）

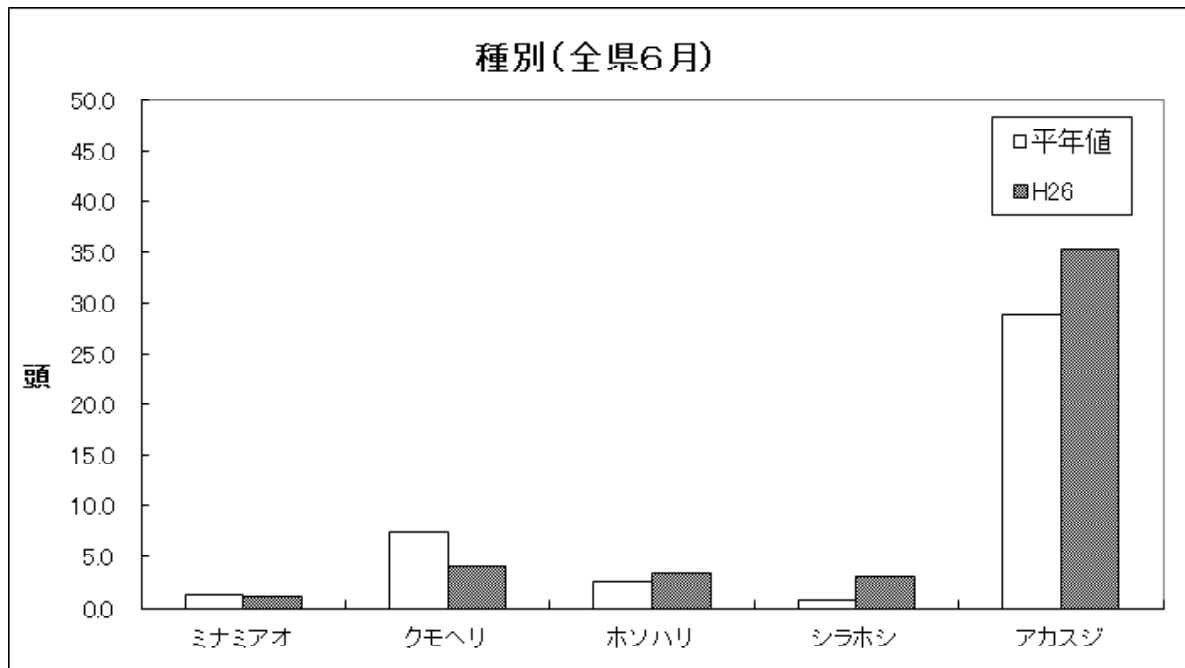


図-1 種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

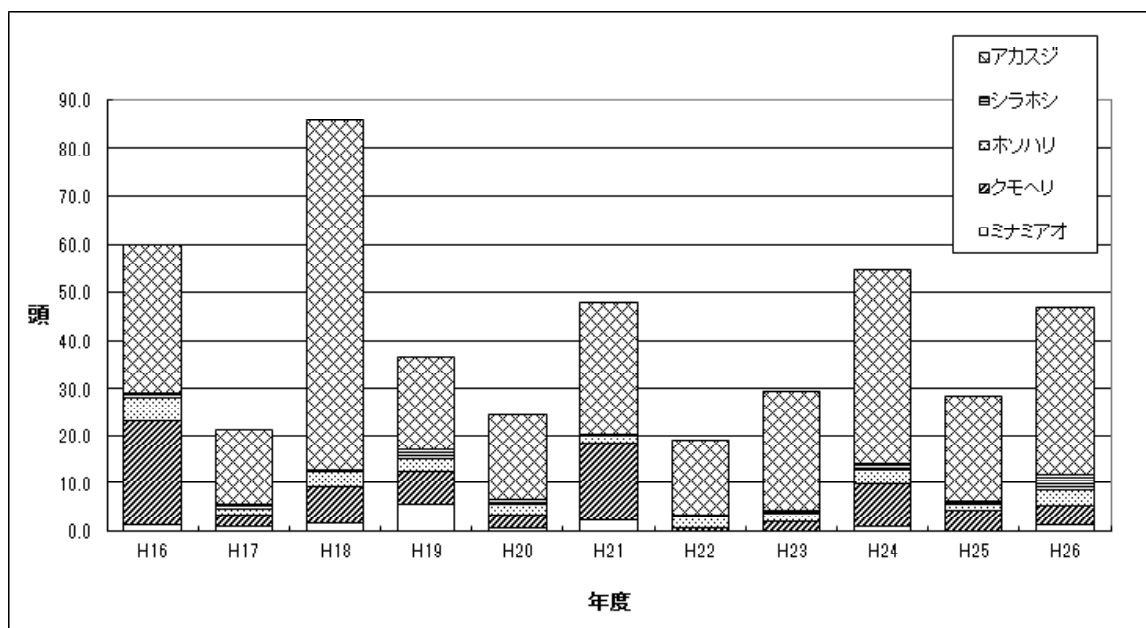


図-2 年度別種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

#### 4. 防除上の注意

- (1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分する。
- (4) 周辺雑草から本田への本虫の侵入を防止するため、周辺雑草の草刈りはイネが出穂する2週間以上前までに数回行う。

#### 5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

#### ◎ 防除情報第3号（発令月日：平成26年7月1日）

1. 作物名 冬春いちご（育苗床）
2. 病害虫名 炭疽病、ハダニ類、アブラムシ類
3. 発生状況

5月下旬から6月上旬にかけての巡回調査の結果は、次の通りであった。

##### 1) 炭疽病（簡易検定による潜在感染状況調査）

感染ほ場率 : 25.0%（前年 63.7%、前々年 58.3%）過去9年間で5番目に高い。

潜在感染株率 : 6.8%（前年 11.8%、前々年 17.5%）過去9年間で6番目に高い。

##### 2) ハダニ類

発生面積率 : 75.0%（前年 81.8%、前々年 54.5%）過去9年間で5番目に高い。

寄生株率 : 14.2%（前年 14.0%、前々年 2.7%）過去9年間で4番目に高い。

##### 3) アブラムシ類

発生面積率 : 75.0%（前年 72.8%、前々年 45.5%）で過去9年間で1番高い。

寄生株率 : 20.3%（前年 19.6%、前々年 5.3%）で過去9年間で3番目に高い。

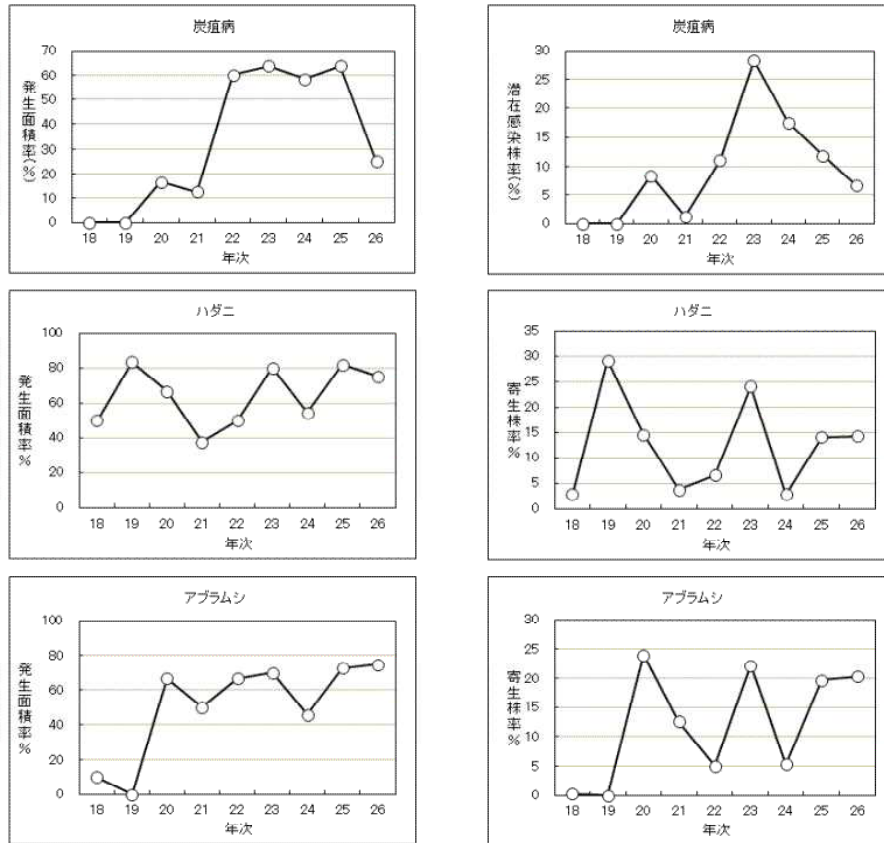


図1 親株床での病害虫の年次別発生状況

#### 4 防除上の注意

##### 1) 炭疽病

(1) 親株における本病の検定に努める。感染が確認された株は、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場から持ち出し、できるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。

※本病の簡易検定方法については、宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ

(<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/noyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>)を参照。

(2) 検定結果が陰性であった株でも、その後に感染することが十分に考えられるため、育苗ほ場をこまめに見回り、早期発見に努める。

(3) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(4) 窒素過多などで軟弱な株は発病しやすくなるため適正な施肥に努める。

(5) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。

(6) 定期的に、健全な親株への更新を行う。

##### 2) アブラムシ類、ハダニ類

(1) アブラムシ類、ハダニ類は、いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。また、ハダニ類は発生初期はスポット的に寄生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察する。

(2) アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているので、

不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した葉は、育苗ほ周辺に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。

- (3) アブラムシ類、ハダニ類はいちご以外の植物にも寄生するので、育苗ほ周辺の除草を行う。
- (4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、アブラムシ類では微生物農薬や気門封鎖型薬剤等を、ハダニ類では気門封鎖型薬剤を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。

いずれの病害虫も本ほに持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

## 5 その他

- 1) 炭疽病の簡易検定方法については、最寄りの西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）にお問い合わせください。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 3) 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

## ◎ 防除情報第4号（発令月日：平成26年7月25日）

1. 作物名 普通期水稻、飼料イネ
2. 病害虫名 トビイロウンカ、セジロウンカ
3. 発生状況

県内4か所（国富町、都城市、延岡市、総合農試（佐土原町））に設置してある予察灯のうち、総合農試を除く3か所の予察灯で7月第3半旬にトビイロウンカの断続的な誘殺が確認された。延岡市における7月13～15日の誘殺数は11頭であり、特に7月14日は7頭の誘殺が確認された（表1を参照 ※平年の飛来状況については、別紙：海外飛来性害虫飛来状況を参照）。

セジロウンカについては6月27日に県内4か所の予察灯で誘殺が確認された他、都城市の予察灯では7月14～15日に8頭の誘殺が確認された。

## 4. 防除上の注意

### (1) トビイロウンカ

ア 防除適期は、幼虫ふ化揃い期であり、7月14日に飛来したトビイロウンカの第1世代（飛来次世代）幼虫の防除適期は7月6半旬～8月第1半旬、第2世代幼虫の防除適期は8月5～6半旬と予想されるので、実際の発生状況を確認して防除を行う（別紙：トビイロウンカの発生世代予測を参照）。

イ 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。

ウ 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

### (2) セジロウンカ

ア 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意するとともに、トビイロウンカと併せて防除を行う。

イ 株当たり虫数が4頭以上になると稲の生育が抑制される。6月末に飛来した個体群についてはすでに第1世代（飛来次世代）が生まれており、一部の巡回ほ場では株当たり7～8頭の幼虫が確認されたので注意が必要である。

ウ 飼料イネ（インディカ種）においては、本虫に対する抵抗性が弱く、坪枯れ等が発生する恐れがあるので、発生状況に十分注意する。防除に当たっては、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」（平成24年3月）及び「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（平成21年4月20日付け21消安第658号、21生畜第223号関係課長通知、平成25年10月30日一部改正）、「飼料の有害物質の指導基準の制定について」（昭和63年10月14日付け63畜B第2050号畜産局長通知、平成26年1月20日一部改正）に沿って、適期防除に努める。

## 5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

表1. トビイロウンカ及びセジロウンカの飛来状況(平成26年)

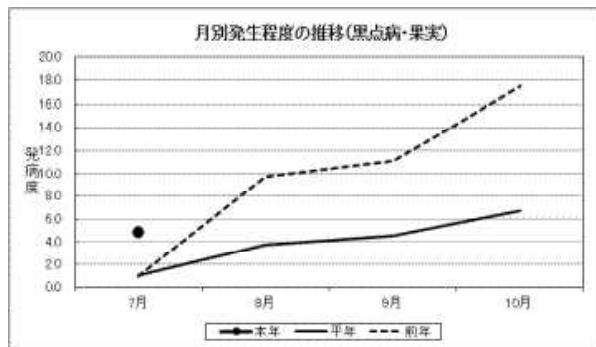
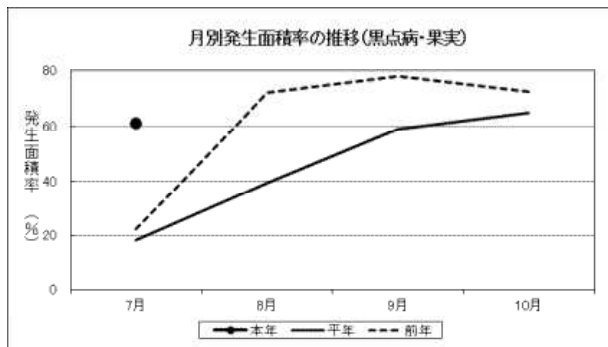
月.日	セジロウンカ				トビイロウンカ			
	国富町	都城市	延岡市	佐土原町	国富町	都城市	延岡市	佐土原町
6.1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	1	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0
13	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0
21	1	0	0	0	0	0	0	0
22	0	1	1	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	0	0	0
24	1	0	0	0	0	0	0	0
25	0	0	0	0	0	0	0	0
26	0	0	0	0	0	0	0	0
27	4	1	2	1	0	0	0	0
28	0	0	2	0	0	0	0	0
29	0	2	0	0	0	0	0	0
30	0	0	0	0	0	0	0	0
7.1	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0
3	2	0	0	2	2	0	0	0
4	0	0	0	1	0	0	0	0
5	0	1	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	0	0	2	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	2	0	0	0
13	0	0	0	1	1	0	3	0
14	1	5	0	0	2	5	7	0
15	0	3	0	0	5	1	1	0
16	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	0	0
22	0	0	0	0	0	0	0	0

◎ 防除情報第5号(発令月日:平成26年7月25日)

- 1 作物名           かんきつ
- 2 病害虫名       黒点病
- 3 発生状況(経過)

1) 7月中旬の巡回調査の結果、黒点病の発生面積率は61.2%(平年18.3%)、発病度4.84(平年1.04)で、いずれも平年に比べて多である。

2) 7月の発生面積率、発病度の数値は、既に9月の平年値の数値とほぼ同等であり、発生の多かった前年を上回っていることから、今後の被害拡大が懸念される。



#### 4 防除上の注意

- 1) 本病は糸状菌 (*Diaporthe citri*) により葉、果実、枝に発生する病気であり、果実への感染時期は6～10月である。
- 2) 伝染源は保菌した枯れ枝であるので、枯れ枝の剪定・除去(園外へ持ち出し)を行い、伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。
- 3) 降雨によって発生が助長されるので、降雨前の薬剤散布を徹底する。降雨がなく、晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。
- 4) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が 250mm を超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の 30 日後には次の防除が必要である。

#### 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

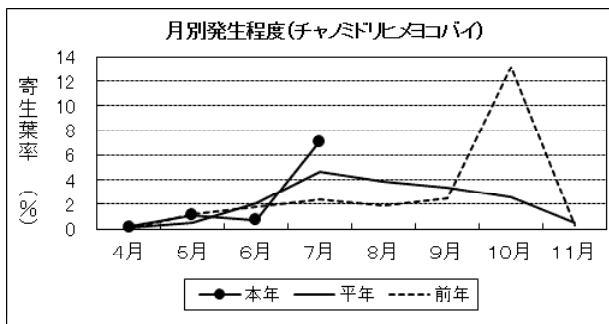
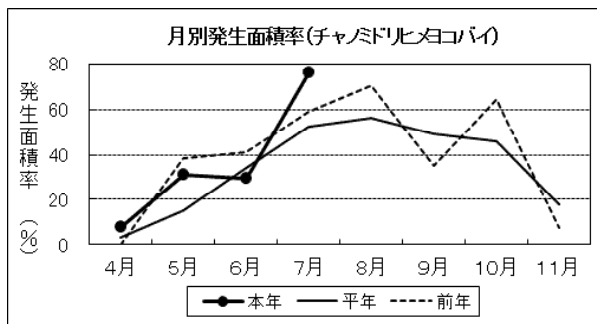
#### ◎ 防除情報第6号(発令月日:平成26年7月25日)

1 作物名 茶

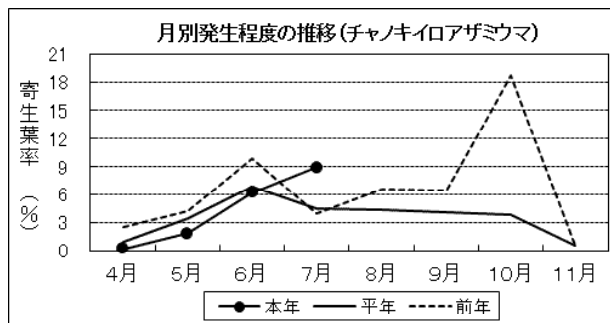
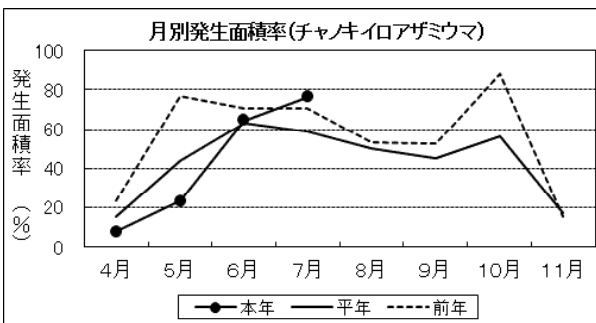
2 病虫害名 チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ

3 発生状況(経過)

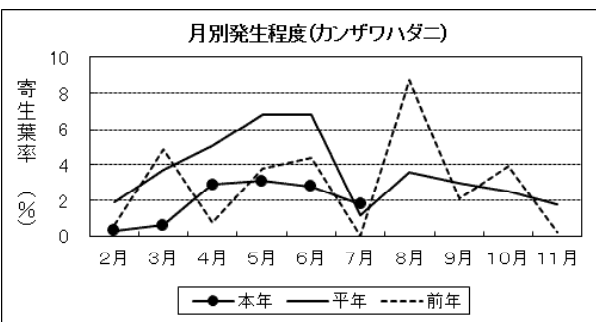
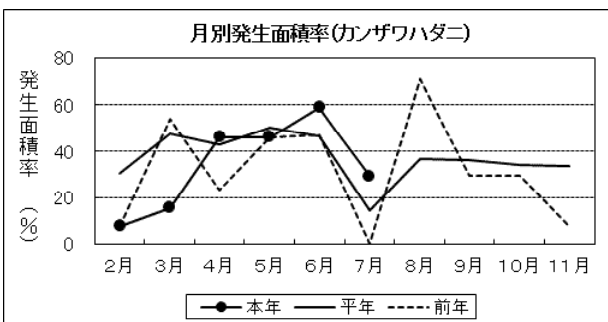
- 1) 7月中旬の巡回調査の結果、チャノミドリヒメヨコバイの発生面積率は76.4%(平年52.8%)で平年に比べ多、寄生葉率は7.1%(平年4.7%)で平年に比べてやや多である。



2) 7月中旬の巡回調査の結果、チャノキイロアザミウマの発生面積率は76.5% (平年59.1%)で平年に比べやや多、寄生葉率は8.9% (平年4.3%)で平年に比べて多である。



3) 7月中旬の巡回調査の結果、カンザワハダニの発生面積率は29.4% (平年14.5%)、寄生葉率は1.8% (平年1.2%)でいずれも平年に比べてやや多である。



#### 4 防除上の注意

##### 1) チャノミドリヒメヨコバイ

- これからの時期では、秋芽に発生が多く、加害されると減収、品質低下が著しいため、萌芽期から開葉初期に薬剤散布を行う。
- 同時期にチャノキイロアザミウマが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。

##### 2) チャノキイロアザミウマ

- これからの時期では、秋芽の1～2葉期の被害防止に重点を置き、多発時には5～7日間隔で2回の薬剤散布を行う。
- 主に葉裏に生息しているため、萌芽期から開葉初期に、若葉の裏によくかかるように薬剤散布を行う。
- 同時期にチャノミドリヒメヨコバイが発生した場合は、どちらにも効果のある薬剤を選定し、同時防除を行う。
- 幼木園や中切り更新を行った園では常時新芽が存在し、長期にわたり被害を受けやすいの

で注意する。

### 3) カンザワハダニ

- ・乾燥が続くと発生が多く、窒素やリン酸の多用で発生が助長される。
- ・防除適期は産卵開始期(2月下旬～3月上旬) および越冬前(10月中～下旬)であり、この時期の防除が充分でないとい、二番茶期に多発生することが多いので注意する。また、発生が多く見られるような茶園では、秋芽生育期にも防除を行う。
- ・主に葉裏に生息しているため、薬剤散布は葉の裏によくかかるよう丁寧に行う。

### 5 その他

- 1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、総合農業試験場茶業支場、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 2) 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

## ◎ 防除情報第7号(発令月日:平成26年8月6日)

- 1 作物名 普通期水稻
- 2 病虫害名 いもち病(穂いもち)
- 3 発生状況

- (1) 7月中旬の巡回調査において、葉いもちの発生は平年並であったが、その後の7月下旬の巡回調査では、発生面積率が42.5%(平年34.7%)、発病株率が14.3%(平年9.9%)でいずれも平年に比べて多の発生となっている。特に県北部を中心に短期間に病勢が進展しており、発病株率100%のほ場もみられる(表1、図1、2)。
- (2) アメダスデータを利用したいもち病発生予察システム(BLASTAM)によると、7月上～中旬に県北部を中心に感染好適日が複数回出現している(表2 <http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki/800/300/suitou/h26/blastam201407.htm>を参照)。
- (3) 向こう1か月の天候は、気温が平年よりも高い確率が40%と予想されているが、平年よりも晴れの日が少なく、降水量は平年よりも多い確率が50%と予想されている。病勢の進展に好適であることから、注意が必要である(鹿児島地方気象台7月31日発表1か月予報)。

表1 7月下旬の巡回調査における葉いもちの発生状況(普通期水稻)

区分	調査地点数	程度別発生面積率(%)				発生面積率(%)	発病度	発病株率(%)
		甚	多	中	少			
全県	40	0	0	5.0	37.5	42.5 (34.7)	3.9 (5.3)	14.3 (9.9) < 0-100 >
東諸県	4	0	0	0	50.0	50.0 (15.0)	1.8 (0.6)	7.0 (2.4) < 0-16 >
北諸県	10	0	0	0	30.0	30.0 (20.0)	1.0 (0.8)	4.0 (3.2) < 0-20 >
西諸県	8	0	0	0	14.3	14.3 (33.8)	0.1 (1.0)	0.5 (3.8) < 0-4 >
東臼杵	10	0	0	20.0	50.0	70.0 (62.3)	10.5 (10.9)	37.6 (31.3) < 0-100 >
西臼杵	8	0	0	0	50.0	50.0 (62.5)	4.0 (5.6)	15.5 (20.5) < 0-44 >

※ ( ) 内は平年値 (H16-25)、ただし、西臼杵は過去 2 年間 (H24-H25) の平均値  
 ※ < > 内は最小値と最大値の幅

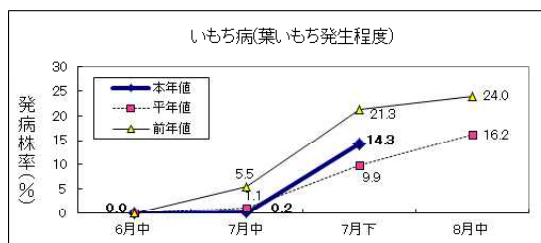
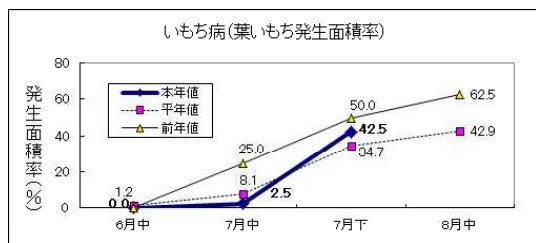


図 1 巡回調査における発生面積の推移

図 2 巡回調査における発生程度の推移

表 2 7 月上～中旬の BLASTAM 判定結果

発生指標	?: 判定不能		-: 好適条件なし		1: 準好適条件1		2: 準好適条件2		3: 準好適条件3		4: 準好適条件4		●: 好適条件							
	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20
高千穂	?	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
鞍岡	-	-	-	-	1	-	-	●	-	-	-	?	●	●	-	-	-	-	-	-
古江	-	-	●	-	-	-	-	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
延岡	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神門	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-
西米良	-	4	-	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	●	-	-	-	-	-	2
高鍋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
西部	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
加久藤	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
小林2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
赤江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
都城	-	-	-	-	-	-	●	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
油津2	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
串間	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

#### 4 防除上の注意

- (1) 上位葉に葉いもちの病斑が多く見られる場合は、穂いもちの発生が懸念されることから、穂ばらみ期と穂揃い期の基幹防除を徹底する。
- (2) 葉いもちの発生は一時的に高温抑制されるため、葉いもちの被害が軽くても穂いもちが多発する場合がありますので注意する。
- (3) 同一系統の薬剤の連用は薬剤耐性菌の発生を助長することから、作用機構の異なる薬剤をローテーションで使用する。
- (4) 県内の一部地域ではストロビルリン系殺菌剤（以下、QoI 剤）に対する感受性の低下したいもち病菌の発生が確認されているため、QoI 剤の使用は年 1 回にとどめ、感受性の低下を助長しないように注意する。

#### 【その他】

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会して

ください。

6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第8号（発令月日：平成26年9月18日）

1. 作物名 果樹全般
2. 病虫害名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
3. 発生状況

(1) チャバネアオカメムシ

県内3か所に設置しているフェロモントラップの誘殺数はおおむね平年並で推移しているが、県内5か所に設置している予察灯への誘殺数が8月上旬頃から増加している。

7月第1半旬から9月第2半旬までの総誘殺数は、日南市で256頭（平年125.2頭）、国富町で173頭（平年13頭）と一部地域では平年に比べ多となっている（図1）。

(2) ツヤアオカメムシ

フェロモントラップでの誘殺数は平年並であるが、予察灯では一部地域で誘殺数が多く、7月第1半旬から9月第2半旬までの総誘殺数は、日南市で685頭（平年191.2頭）、都城市で40頭（平年11.2頭）である（図2）。

(3) 一部の園地では、既に8月下旬頃からカメムシ類の飛来が確認されている。

(4) 全国的に果樹カメムシ類の発生が多く、九州では、長崎県、大分県及び鹿児島県が注意報を発表している（9月16日時点）。

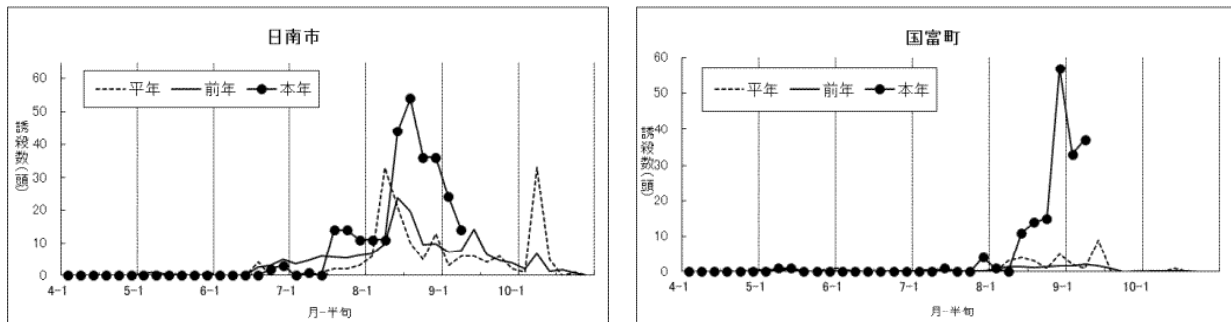


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺状況

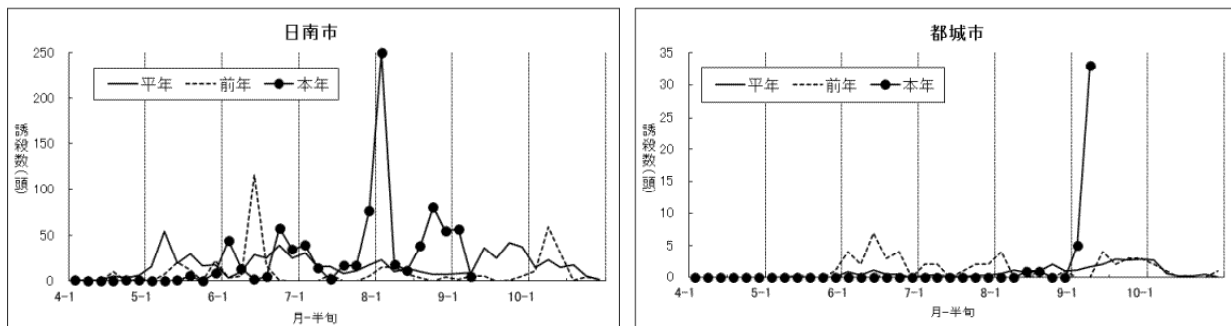


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺状況

#### 4. 防除上の注意

- (1) 飛来時期や飛来量は園地によって異なるため、園内外の見回りを徹底し、飛来が見られたら直ちに防除を実施する。
- (2) 果樹園に侵入したカメムシは集合フェロモンで同種を大量に誘引し被害を拡大させるおそれがあるので十分注意する。
- (3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、これらの薬剤は多用すると天敵等への影響が大きく、ハダニ類等の発生を助長しやすい。このため連用を避け、系統の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。
- (5) 台風通過後は果樹園への飛来が急増することがあるので特に注意する。

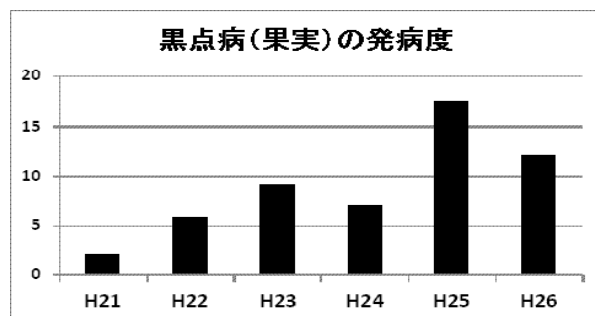
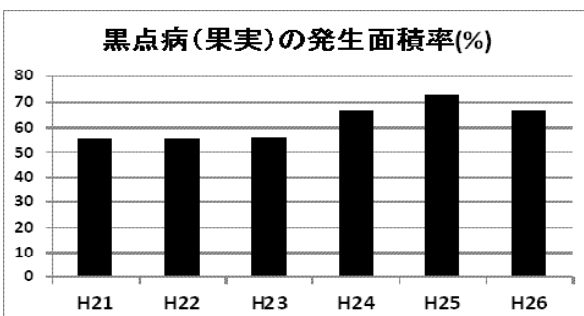
#### 5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 農薬の使用については、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守する等厳重な注意を払うとともに危害防止に努めましょう。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努めましょう。

#### ◎ 防除情報第9号（発令月日：平成26年12月3日）

- 1 作物名           かんきつ
- 2 病害虫名       黒点病
- 3 発生状況（経過）

- 1) 平成21年から平成26年までの巡回調査（10月）の結果、平成25年は発生面積率、発病度ともに多発しており、引き続き平成26年も多い傾向であった。
- 2) 越冬病菌が残っている園地では、次年度の発芽期に伝染が始まるため、更なる被害拡大が懸念される。



#### 4 本病菌の生態

- 1) 本病菌 (*Diaporthe citri*) は枯れ枝上で越冬し、翌年春好適な温湿度条件（適温 20 度前後）になると降雨によって拡散し、若葉、新梢、果実に感染する。
- 2) 伝染源は保菌した枯れ枝であり、地上に落ちている枝も伝染源となる。一度菌糸が蔓延すると3年ほど生存し、降雨のたびに伝染源となる。

3) 風通しが悪く、降った雨が乾きにくい場所で発生が多い。

## 5 防除上の注意

1) 枯れ枝処理が重要なので、枯れ枝の剪定・除去（園外へ持ち出し）を行い、伝染源を少なくするとともに、肥培管理に注意し、樹勢の強化、枯れ枝の発生抑制に努める。

2) 剪定作業の際は、薬剤が樹幹内部に十分かかるように考慮する。また、降雨の際の水滴が早く乾きやすいように、樹幹内部に光線が入ること及び風通しを良くすることを心掛け、本病が感染しにくい条件を作る。

3) 剪定した枝を粉砕機等で粉砕し、有機物として園地内に還元する場合は、枝の長さが30mm以下だと子のう殻の形成が見られないので、細かく粉砕し速やかに腐熟するようにする。

4) 降雨によって発生が助長されるので、6月～8月に行う薬剤防除の際は、降雨前の薬剤散布を徹底する。降雨がなく、晴天が続く場合でも、本病の更なる被害拡大を防ぐために定期的に薬剤防除を行う。

5) 防除の目安は、薬剤散布後の積算降水量が250mmを超えた時点であるが、降水量が少ない場合でも、薬剤散布の30日後には次の防除が必要である。

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

## ◎ 防除情報第10号（発令月日：平成26年12月3日）

1 作物名 冬春いちご

2 病虫害名 うどんこ病・ハダニ類

### 3 発生状況（経過）

1 1月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

#### 1) うどんこ病

発生面積率：38.5%（前年33.3%、平年40.7%） 平年並

発病葉率：11.4%（前年8.2%、平年6.9%） 平年よりやや多

#### 2) ハダニ類

発生面積率：61.6%（前年66.6%、平年39.7%） 平年よりやや多

寄生株率：20.8%（前年19.3%、平年10.5%） 平年よりやや多

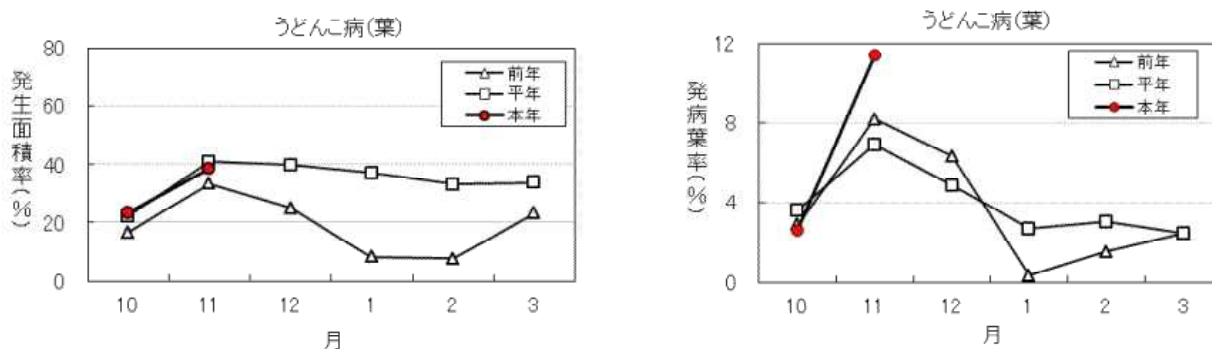


図1 うどんこ病の発生状況（いちご）

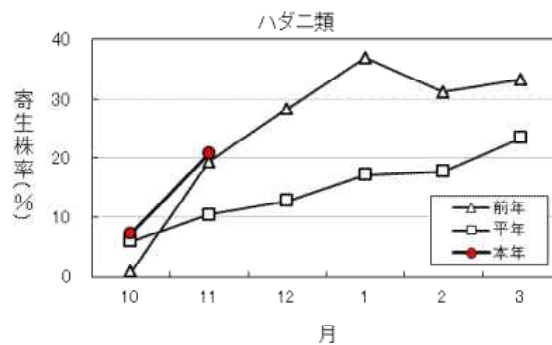
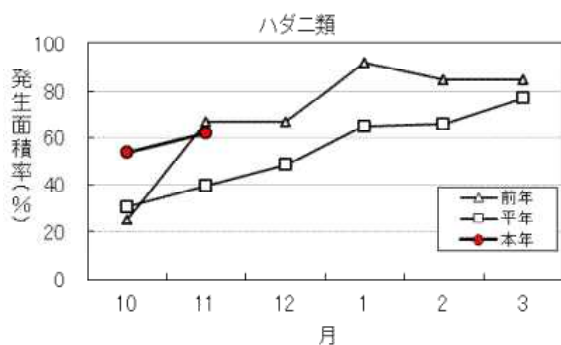


図2 ハダニ類の発生状況 (いちご)

#### 4 防除上の注意

##### 1) うどんこ病

- (1) 一般的に、各作物のうどんこ病は比較的乾燥した条件で発生するが、いちごうどんこ病は多湿・乾燥いずれの状態でも発生がみられる。ハウス内の換気を行い、高湿度条件にならないように努める。
- (2) 葉・果実・葉柄・果梗・蕾に発生する。蔓延すると防除が困難になるので、初期防除を徹底する。
- (3) 発症した葉・果実は可能な限り除去し、適切に処分する。併せて、できるだけ早く防除を行うが、葉裏・果実にしっかり薬液がかかるように丁寧に散布する。
- (4) 予防散布を中心に防除を実施するが、発生が多い場合は一週間程度の間隔で連続して防除を行う。その際、同一系統薬剤の連用を避け、異なる系統のローテーション散布に努める。

##### 2) ハダニ類

- (1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- (2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。
- (3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。
- (4) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- (5) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。

#### 5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第11号（発令月日：平成26年12月17日）

- 1 作物名 カンキツ
- 2 病虫害名 ミカンハダニ
- 3 発生状況（経過）

- 1) 11月中旬の巡回調査におけるミカンハダニの発生面積率は72.3%（平年43.6%）で平年比べ多、寄生葉率は14.7%（平年9.3%）で平年に比べやや多の発生であった。
- 2) 発生面積、寄生葉率ともに8月から増加し、11月の調査でも依然として多い傾向が見られることから、越冬世代による翌年の被害が懸念される。

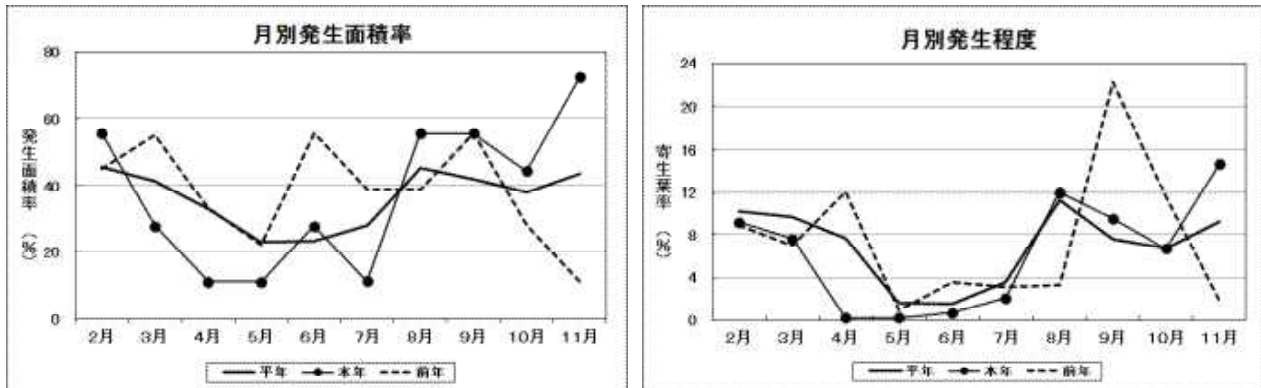


図1 ミカンハダニの発生状況

4 防除上の注意

- 1) 春先の寄生密度は、越冬密度に左右されるので、冬季にマシン油乳剤で防除を行い、越冬密度の低下をはかる。
- 2) 春先は、越冬虫を発生源としてスポット的に多発する可能性があるので、出来るだけ見落とさないよう観察する。
- 3) 一樹あたり寄生葉率が30%（葉当たり0.5～1頭）以上になると被害が発生するので、防除が遅れないようにする。
- 4) 葉の両面に寄生するので、薬剤がまんべんなくかかるよう丁寧に散布する。
- 5) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤でローテーション散布に努める。

5 その他

- 1) 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第12号（発令月日：平成27年2月27日）

本害虫については、昨年より防除の徹底を呼びかけてきましたが（平成26年12月3日付け病虫害防除情報第12号、平成26年12月24日付け病虫害発生予察注意報第4号）、引き続き高い発生程度で推移しています。今後、気温が高くなるにつれ、さらに発生増加が予想されますので、引き続き防除を徹底しましょう。

- 1 作物名 冬春いちご
- 2 病虫害名 ハダニ類

### 3 発生状況（経過）

2月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率：84.7%（前年84.7%、平年65.8%） 平年よりやや多

寄生株率：44.0%（前年31.2%、平年17.8%） 平年より多

葉当たり虫数：13.8頭（前年15.8頭、平年4.7頭） 平年より多

寄生株率は過去10年の同時期で一番高い数値、発生面積率および葉当たり虫数は2番目に高い数値となっている（図4）

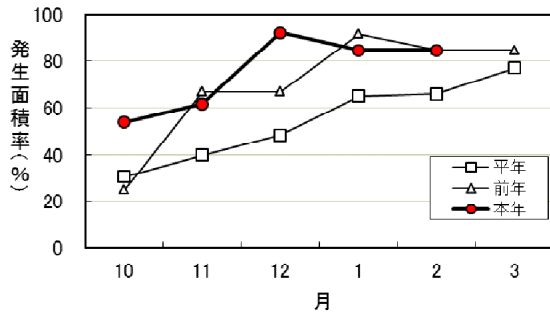


図1 ハダニ類発生面積の推移

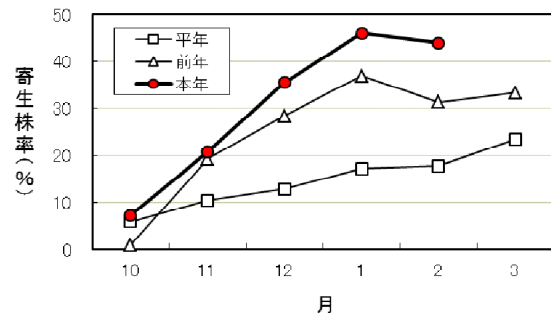


図2 ハダニ類寄生株率の推移

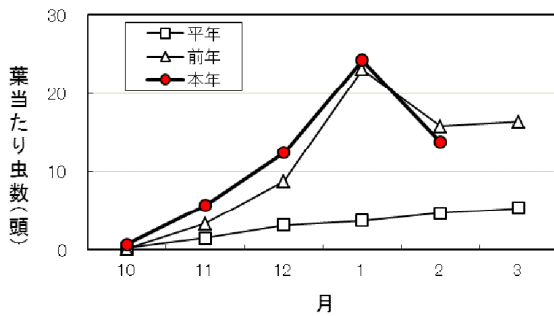


図3 ハダニ類葉当たり虫数の推移

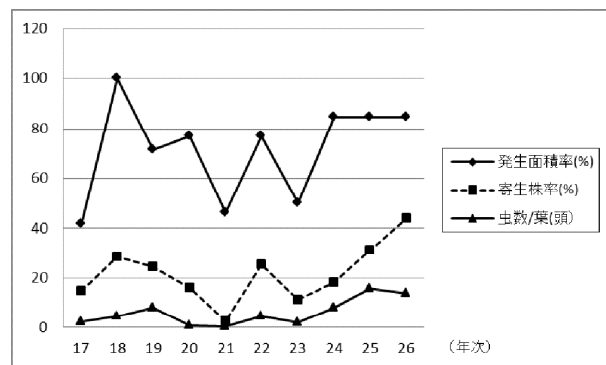


図4 2月調査における年次別発生推移

### 4 防除上の注意

- 1) 発生初期は部分的に発生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れが無いように防除を行う。
- 2) 今後、気温が高くなるにつれて、個体数の増加が早くなるため、発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) ハダニ類の密度が高くなると、葉がハダニの吐く糸で覆われ薬液がはじかれ、ハダニ類に対する薬液の付着が悪くなるので、展着剤もしくは粘着性の高い気門封鎖型薬剤を使用する。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉に寄生していたハダニ類は、短時間で離脱し生育中の作物に移動するので、できるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 5) ハダニ類をはじめとする害虫の寄主植物となる雑草を除去する。その際は、通路やサイ

ド際の除草もしっかり行い、除草した雑草はハウス内に放置せずすみやかに処分する。

- 6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 8) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

## 2. 病虫害発生予察情報高度化事業

### ニカメイガの発生活長の変化に伴う防除時期の検討

#### 1 背景・ねらい

本県中部におけるニカメイガの発生は、1960年代までは多数確認されていたが、1970年代後半からほとんど見られなくなっていた。しかし近年、早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯でニカメイガが散見されるようになっており、増加傾向にあると推定される。そこで、乾式予察灯とフェロモントラップを用いて発生活長を調査し、防除時期についても検討した。

#### 2 試験方法

##### (1) 発生活長の調査

###### 1) 調査地点

①乾式予察灯：宮崎市、国富町、都城市、延岡市の4地点

（宮崎市と国富町は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯、都城市と延岡市は普通期水稲と飼料用稲の混耕地帯）

②フェロモン（SE）トラップ：宮崎市（総合農業試験場内4地点）、西都市、国富町、高岡町、木城町の8地点

（西都市と木城町は早期水稲と飼料用稲の混耕地帯、それ以外は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯）

###### 2) 調査期間

①3月第4半旬（宮崎市は4月第1半旬）～10月第6半旬

②3月第2半旬（高岡町は5月第6半旬、西都市は6月第4半旬）～10月第6半旬

#### 3 結果の要約

##### (1) 発生活長の調査

①宮崎市と国富町、木城町に設置してある予察灯とフェロモントラップでは、年3回以上の発生が推測された。

②新たに設置した西都市と高岡町のフェロモントラップについては、5月以降に設置したため、越冬世代の発生状況が不明であるが、①と同様に年3回以上の発生が推測された。

③都城市と延岡市に設置してある予察灯では、年間をとおして発生はほとんど確認されなかった。

#### 4 今後の課題

これまでの調査結果から、県央における越冬世代の羽化のピークは40年前よりも1ヶ月程度早く迎えていると推測されるが、今年度フェロモントラップを新たに設置した西都市と高岡町については、年度途中からの設置であることから、越冬世代の発生状況は不明である。来年度も引き続き県内各地点の調査を行うことで、地域毎の発生活長を調査し、防除適期を明らかにする。

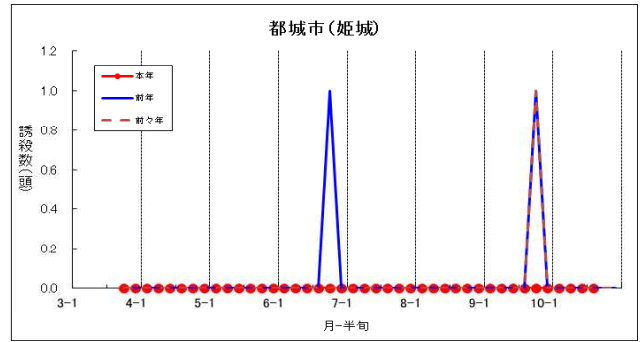
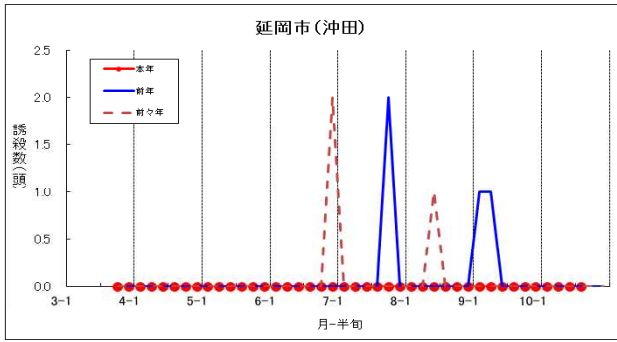
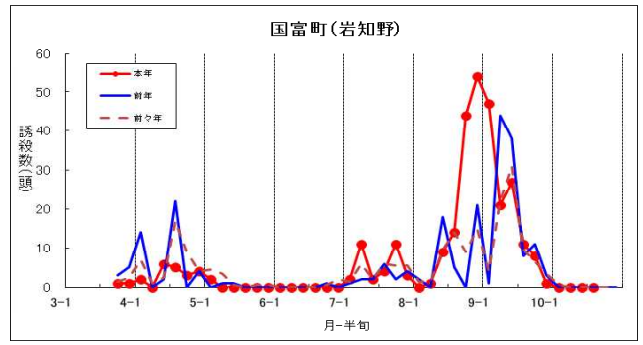
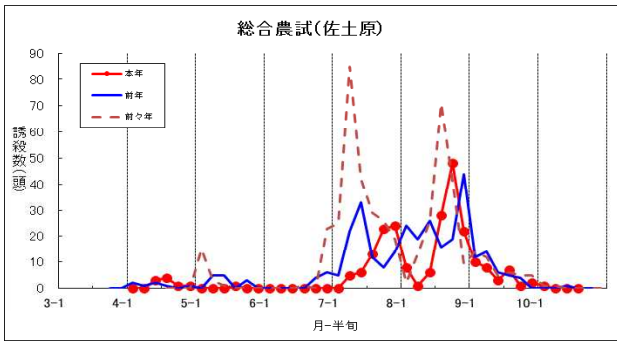


図1 予察灯によるニカメイガの誘殺状況

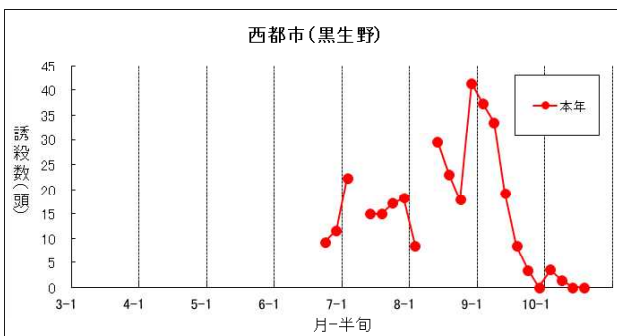
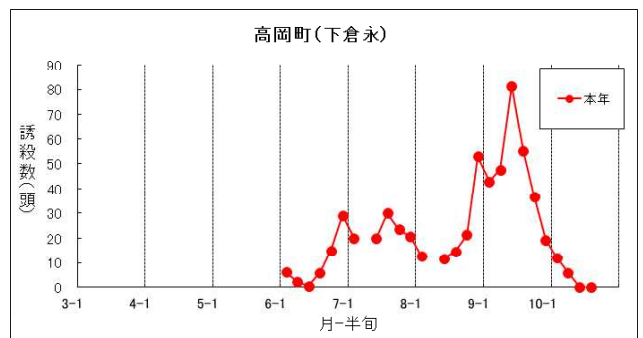
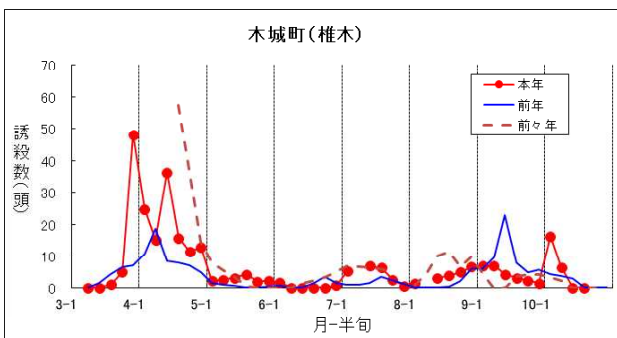
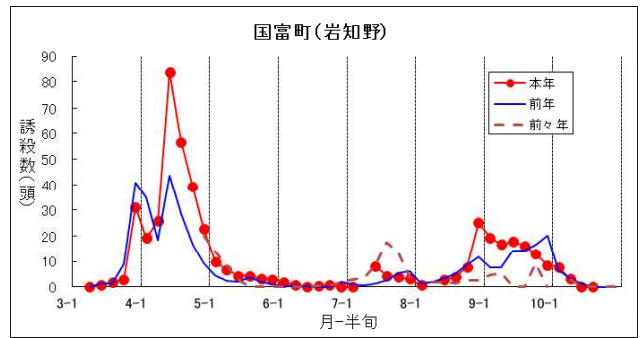
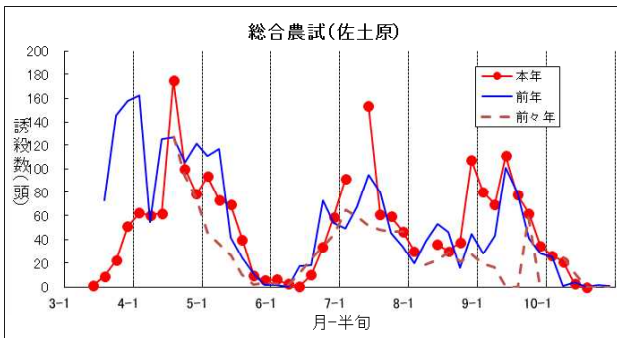


図2 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺状況

## 茶園におけるチャトゲコナジラミの発生消長調査

### 1 背景・ねらい

チャトゲコナジラミはこれまで本県未確認の害虫であったが、平成25年3月にヒサカキで発生が確認され、さらに平成26年4月にチャでの発生が確認された。そこで、黄色粘着板を用いて発生消長を調査した。

### 2 調査方法

#### (1) 調査地点

都城市内13ほ場

#### (2) 調査期間

平成26年4月11日～3月31日

### 3 調査結果の要約

都城市内では、年に4世代の発生があると考えられる（図3）。ただし、今回は発生初年ということもあり、明確な発生ピークが掴めなかった。また誘殺数・発生ピークに調査地点間でのばらつきがあり、発生消長が不確定な部分が多くあった。

### 4 今後の課題

正確な発生消長を把握するため、関係機関と協力して調査を継続していきたいと考えている。

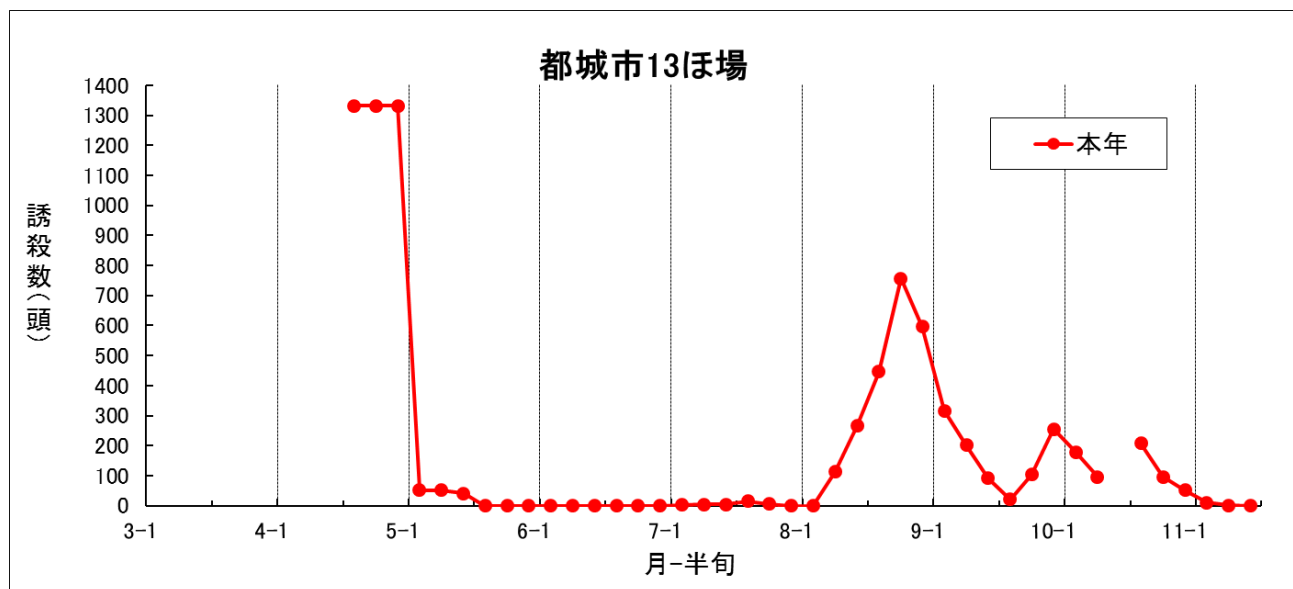


図3 黄色粘着板によるチャトゲコナジラミ成虫の誘殺状況

### 3 特殊病害虫侵入警戒調査事業

#### 1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

#### (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4～12, 3月	0	—	—	防除・肥料センター
〃 赤江宮崎空港付近	〃	0	—	—	〃
〃 芳土のミカン園	〃	0	—	—	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	—	—	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	—	—	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	—	—	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	—	—	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸（幸島入口）	〃	—	0	0	〃
〃 宮之浦（漁港公園）	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田（道路沿い雑木）	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜（川南魚港周辺）	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
門川町 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	東白杵農林振興局
〃 庵川西 庵川漁協(唐船バエ)	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ70回(10ヶ月×7か所) ウリミバエ・ミカンコミバエ600回(10ヶ月×月2回×30か所)				

## (2) 調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

## 2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域(30地点)にトラップ(アリモドキコール)を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計47地点で警戒調査を実施した。

## (1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	ヒルガオ自生地	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 上長飯町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 五十町	ローソン五十町店付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査機関
都城市 山之口町五反田	甘藷畑	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 山田町菓子野	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（堂園）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大束原）	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須（大束原）	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 有田	有田橋付近	7～9月 6回	0	中部農林振興局
〃 住吉	塩路交差点付近	〃	0	〃
〃 新別府町	人工ビーチ入り口付近	〃	0	〃
〃 本郷北方	宮崎空港付近	〃	0	〃
宮崎市 青島	青島港付近	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	市営プール付近潮害林	〃	0	〃
〃 田野町合又	南原霊園前	〃	0	〃
〃 田野町七野	ゴルフ場付近	〃	0	〃
〃 高岡町花見	花見橋付近	〃	0	〃
綾町 麓	小田常橋付近	〃	0	〃
日南市 大堂津	大堂津港付近	〃	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港付近	〃	0	〃
〃 平山	風田浜付近	〃	0	〃
〃 目井津	目井津港付近公園内	〃	0	〃
串間市 奈留	J A 大束集荷場	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数	調査期間
串間市 奈留	J A大東育苗センター付近	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 東今町	福島港付近雑木林内	〃	0	〃
〃 金谷	福島港付近港公園内	〃	0	〃
〃 西浜	酒造会社付近公園内	〃	0	〃
〃 中千野	雑木林内	〃	0	〃
〃 毛久保	毛久保港付近	〃	0	〃
〃 奈留仲別府	地区公園内	〃	0	〃
〃 西方穂佐ヶ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 西方	JA はまゆう串間集荷場内	〃	0	〃
都城市 高城町	J A都城甘藷貯蔵庫入口	〃	0	北諸県農林振興局
〃 乙房町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	J A都城甘藷育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	畑作園芸支場ほ場	〃	0	〃
〃 庄内町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 高木町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 梅北町	甘藷畑	〃	0	〃
三股町	甘藷畑	〃	0	〃
えびの市西郷	甘藷畑	〃	0	西諸県農林振興局
小林市東方	甘藷畑	〃	0	〃
小林市堤	甘藷畑	〃	0	〃
〃 野尻町三ヶ野山	甘藷畑	〃	0	〃
高原町後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	〃	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病虫害の調査総回数	582回（5ヶ月×月2回×30か所+3ヶ月×月2回×47か所）			

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月において、アリモドキゾウムシ侵入警戒調査地点付近の甘藷ほ場等27か所で、目視により食害痕等を調査した(調査総回数270回(5ヶ月×月2回×27か所))  
9月22日に串間市(20ほ場)、9月25日に都城市(20ほ場)、小林市(1ほ場)、えびの市(1ほ場)、高原町(1ほ場)、10月29日に小林市(1ほ場)、えびの市(1ほ場)、野尻町(1ほ場)、10月30日に串間市(20ほ場)、都城市(20ほ場)について収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した(調査総回数86回(2ヶ月×43か所))。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場及び4か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった(調査総回数220回(10ヶ月×22か所))。

5) ウメ輪紋ウイルス発生調査

平成21年4月東京都青梅市において、ウメ輪紋ウイルスが国内で初めて確認された。このため、本県においても平成21年度から調査を実施している。

平成26年度については、門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・JA、農林振興局の協力を得て、4月22日～5月2日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。

(1) 調査場所、対象作物、ほ場数等

調査市町村	調査ほ場数			サンプル 採取樹数	検定結果
	うめ	もも	すもも		
宮崎市	1			5	全て陰性
日南市	2		1	15	全て陰性
都城市	2			10	全て陰性
えびの市	1			5	全て陰性
西都市	1			5	全て陰性
都農町	2			10	全て陰性
美郷町	3			15	全て陰性
延岡市		2		10	全て陰性
高千穂町			1	5	全て陰性
日之影町			1	5	全て陰性
合計	12	2	3	85	

(2) 調査結果

現地調査における目視による当該ウイルスの症状は、すべてのほ場で確認されなかった。また、採取したサンプルの門司植物防疫所における検定の結果は、すべて陰性であった。

6) キウイフルーツかいよう病 Psa3系統の緊急全国調査

平成26年5月愛媛県において、キウイフルーツかいよう病 Psa3系統が国内で初めて確認された。このため、本県においても門司植物防疫所細島出張所、関係市町村・J A、農林振興局の協力を得て、10月22日～10月27日に現地ほ場調査及びサンプルの採取を行った。サンプル採取は疑似症状のある葉（斑点症状）で、検定は葉から菌泥が漏出するかどうか、漏出した場合、分離・形成されたコロニーがキウイフルーツかいよう病 Psa3系統と類似するかどうか、更にコロニーが類似した場合は PCR 検定を行い、陰性か陽性かを3段階で判断した。

(2) 調査結果

市町村	調査 ほ場数	調査面積 (ha)	サンプル 採取樹数	採取葉数	検定結果	備考
綾町	7	0.9	8	12	全て陰性	コロニー陰性：10葉 PCR 陰性：2葉
都城市	1	0.3	5	16	全て陰性	コロニー陰性：15葉 PCR 陰性：1葉
都農町	2	1.0	13	61	全て陰性	コロニー陰性：54葉 PCR 陰性：7葉
合計	10	2.2	26	89		コロニー陰性：79葉 PCR 陰性：10葉

## トマト葉かび病およびすすかび病における調査基準（案）の実証

倉富文代・森下勝・久野公子・斎藤伸弘・若杉潤也  
(byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)  
宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課  
[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

### 1. 調査背景と目的

新たに発生し、調査実施基準が未策定の病害虫について、発生動向を的確に把握する調査やその調査結果に基づく発生予察手法をとりまとめ、新たな調査基準を策定するための検討を行う。

なお、本調査では、トマトの葉かび病およびすすかび病基準（案）の妥当性、効率性等を検証する。

### 2. 調査方法

#### 1) 巡回による調査

##### (1) 発生調査基準（案）による調査

###### ① 調査地点および耕種概要 県内4地点の施設トマトほ場

- ・宮崎市郡司分 ミニトマト 品種：小鈴804 定植日 8月24日
- ・都農町川北① 大玉トマト 品種：ソプラノ 定植日 8月16日
- ・都農町川北② 大玉トマト 品種：マイロック 定植日 9月19日
- ・新富町紅梅瀬 大玉トマト 品種：りんか 定植日 9月23日

###### ② 調査方法及び調査項目

初発確認前は1ほ場あたり100株を任意に選び、調査株の片側複葉（調査株の通路側片面の複葉全体）について調査し、初発日を確認する。初発確認後については、ほ場あたり50株を任意に選び調査する。

発病度 =  $((4A + 3B + 2C + D) / (4 \times \text{調査株数})) \times 100$

- A：調査株の2/3以上に病斑が認められる
- B：調査株の1/3以上2/3未満に病斑が認められる
- C：調査株の1/3未満に病斑が認められる
- D：調査株のごく一部に病斑が認められる
- E：発病が認められない

程度	無	少	中	多	甚
発病度	0	1~20	21~40	41~60	61以上

###### ③ 調査時期及び調査間隔

平成26年10月～平成27年1月 月1回

##### (2) 宮崎県発生予察調査基準による調査

###### ① 調査地点および耕種概要 県内4地点の施設トマトほ場（予察案調査ほ場と同ほ場）

② 調査方法及び調査項目

1 ほ場あたり100株を任意に選び、株あたり1複葉の葉かび病発生を調査し、発病葉率を算出する。

程度	無	少	中	多	甚
100葉当たり発病葉率(%)	0	1~25	26~50	51~75	76以上

③ 調査時期及び調査間隔

平成26年10月～平成27年1月 月1回（ただし、初発生までは随時調査）

3. 調査結果

1) 巡回による調査

(1) 平成26年10月の調査を開始したところ、調査基準（案）を用いた調査では、4ほ場のうち定植が早かった2ほ場について下葉を中心に発病を確認した。宮崎基準による調査では、発病葉を確認できなかった。

(2) 発病葉については、その都度摘葉し、調査終了後に小型顕微鏡で観察したところ、いずれのほ場もすすかび病菌であることを確認した。

(3) 11月以降も各ほ場とも少発生で推移した。12月調査時には、宮崎基準（慣行）による調査でも発病葉を確認した。

(4) 10月～1月の調査で、葉かび病の発生は確認できなかった。

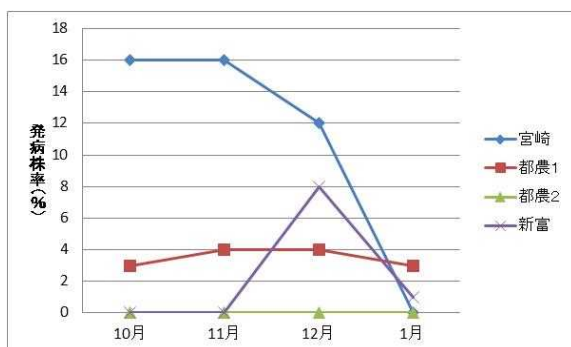


図1 ほ場別すすかび病発病株の推移  
（発生調査基準（案））

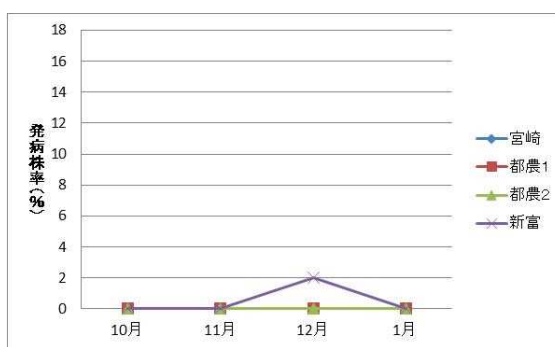


図2 ほ場別すすかび病発病株の推移  
（宮崎基準（慣行））

表1 発生調査基準（案）によるすすかび病調査結果

調査ほ場	10月			11月			12月			1月		
	発病株率 (%)	発病程度	発病確認 ほ場数	発病株率 (%)	発病程度	発病確認 ほ場数	発病株率 (%)	発病程度	発病確認 ほ場数	発病株率 (%)	発病程度	発病確認 ほ場数
宮崎市(1) <sup>※1</sup>												
都農町(2)	4.5	1.2	2/4	5	1.3	2/4	6	1.5	3/4	1	0.25	1/4
新富町(1)		(少) <sup>※2</sup>			(少)			(少)			(少)	

数値は、4調査地点の平均値

※1 ( ) は調査箇所数

※2 ( ) 発生調査基準（案）による評価

表2 宮崎基準（慣行）によるすすかび病調査結果

調査ほ場	10月			11月			12月			1月		
	発病葉率	発病程度	発病確認	発病葉率	発病程度	発病確認	発病葉率	発病程度	発病確認	発病葉率	発病程度	発病確認
	(%)		ほ場数	(%)		ほ場数	(%)		ほ場数	(%)		ほ場数
宮崎市(1) <sup>※1</sup>												
都農町(2)	0	0	0/4	0	0	0/4	0.5	0.5	1/4	0	0	0/4
新富町(1)		(無) <sup>※2</sup>			(無)			(少)			(無)	

数値は、4 調査地点の平均値

※1 ( ) は調査箇所数

※2 ( ) 宮崎基準（慣行）による評価

#### 4. 考察

発生調査基準（案）による調査では、慣行調査と比較して、少発生条件下においても初発生が確認しやすく正確に発生時期を把握できた。

調査株については、宮崎基準の調査より少ないものの、調査葉は調査株の通路側片面の複葉全体を調査することから大幅に枚数が増えるので、煩雑になるかと思われたが、1月末時点（定植4ヶ月後）では、1ほ場当たり約10分以内の増加で、実施可能な程度であった。

簡易診断マニュアルに従い、初発確認時に各ほ場10葉程度を小型顕微鏡で確認したところ、分生子の形状の違いで葉かび病菌もしくはすすかび病菌を判別することは可能であった。しかしながら、初発確認以降については、調査時間の都合もあり確認を行わなかった。

小型顕微鏡の使用については、不慣れな職員もいるので、調査前に目あわせを行っておく必要があるが、ほ場において目視のみでの判断は非常に難しいので、今後も現地での形態確認は必要と思われた。

#### 5. 今後の課題

今回の巡回調査では、発生が少発生であったため、中発生以上の条件についても慣行基準との比較が必要である。

生育初期～中期の調査であったが、年明け以降の栽培ステージでは、調査葉数が増加することから、調査にかかる時間の確認が必要である。

分生子の形態確認については、初発生時のみの実施だったので、栽培期間中1～2回は顕微鏡による確認が必要と思われる。

#### 6. 要約

発生調査基準（案）と宮崎基準（慣行）の比較を行った結果、すすかび病少発生条件下において、発生調査基準（案）のほうが、より正確に初発生時期を把握できた。また、小型顕微鏡を活用することにより、ほ場において葉かび病およびすすかび病の同定が可能になった。

#### 7. 成果の公表及び特許

## キュウリのアザミウマ類における調査基準（案）の実証

倉富文代・森下勝・久野公子・斎藤伸弘・若杉潤也

(byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課

[〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805]

### 1. 調査背景と目的

新たに発生し、調査実施基準が未策定の病害虫について、発生動向を的確に把握する調査やその調査結果に基づく発生予察手法をとりまとめ、新たな調査基準を策定するための検討を行う。

なお、本調査では、キュウリのアザミウマ類における基準（案）の妥当性、効率性等を検証する。

### 2. 調査方法

#### 1) 巡回による調査

##### (1) 発生調査基準（案）による調査

##### ① 調査地点および耕種概要 県内4地点の施設キュウリほ場

- ・宮崎市清武町① 品種：輝世紀 定植日 10月10日
- ・宮崎市清武町② 品種：輝世紀 定植日 10月12日
- ・宮崎市高岡町 品種：エクセレント1号 定植日 9月27日
- ・都城市 品種：千秀2号 定植日 10月6日

##### ② 調査方法及び調査項目

1ほ場あたり50株を任意に選び、主づるの上～中位2葉におけるアザミウマ類の成・幼虫数を調査する。

程度	無	少	中	多	甚
1葉当たり寄生虫数(頭)	0	1～25	26～50	51～75	76以上

##### ③ 調査時期及び調査間隔

平成26年10月～平成27年1月 月1回

##### (2) 宮崎県発生予察調査基準による調査

##### ①調査地点 県内4地点の施設キュウリほ場

##### ②調査方法及び調査項目

1ほ場あたり100株を任意に選び、100葉あたりのアザミウマ類の成・幼虫数を調査する。

程度	無	少	中	多	甚
100葉当たり寄生虫数(頭)	0	1～100	101～250	251～500	501以上

③調査時期及び調査間隔

平成26年10月～平成27年1月 月1回

3. 調査結果

1) 巡回における調査

調査期間中、アザミウマ類の発生が極少発生条件下で、発生調査基準（案）と慣行基準に差はみられなかった。また、調査時間についても、慣行調査と差はみられず、実施可能と考えられる。

表1 各調査地点における調査結果(平成26年10月～平成27年1月)					単位:頭/葉		
調査区		10月	11月	12月	1月		
						基準(案)評価	宮崎基準評価
宮崎清武①	50株×2葉調査	0	0	0	0	無	無
	100株×1葉調査	0	0	0	0	無	無
宮崎清武②	50株×2葉調査	0	0	0	0.01	少	少
	100株×1葉調査	0	0	0	0	無	無
宮崎高岡	50株×2葉調査	0	0	0	0	無	無
	100株×1葉調査	0	0	0	0	無	無
都城	50株×2葉調査	0	0	0	0.08	少	少
	100株×1葉調査	0	0	0	0.16	少	少
(参考)宮崎 佐土原	50株×2葉調査	—	—	—	0.31	少	少
	100株×1葉調査	—	—	—	0.19	少	少
(参考)都城	50株×2葉調査	—	—	—	0.03	少	少
	100株×1葉調査	—	—	—	0.03	少	少
調査基準(案)・・・50株×2葉調査							
宮崎基準(慣行)・・・100株×1葉調査							

4. 考察

アザミウマ類の発生が極少発生条件下では、宮崎基準(慣行)による調査と比較して調査基準(案)の妥当性が確認された。調査時間については、慣行の調査時間と同等程度であった。

5. 今後の課題

昨年の調査においても、極少発生での比較であったので、アザミウマ類の発生が増加した際の基準(案)との再比較が必要。

6. 要約

7. 成果の公表及び特許

5 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

(早期水稻)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月1日	—	—	—	—	—	—
5月12日	—	—	—	—	—	—
5月13日	—	1	—	—	—	—
5月14日	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—
6月3日	●	—	●	●	●	●
6月4日	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	4	—	—
6月6日	—	—	●	●	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—
6月8日	●	—	—	—	—	—
6月9日	—	—	—	—	—	—
6月10日	—	—	—	—	—	●
6月11日	4	—	—	—	—	●
6月12日	—	—	—	—	●	—
6月13日	—	—	—	—	—	●
6月14日	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—
6月19日	●	—	●	●	●	●
6月20日	—	—	—	—	4	—
6月21日	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	4	—	●
6月24日	—	●	—	—	●	—
6月25日	—	—	—	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	—
7月8日	3	—	—	—	—	—
7月9日	—	—	—	—	—	—
7月13日	—	—	—	—	—	—
7月14日	—	—	—	—	3	—
7月15日	—	—	—	—	—	—
7月19日	—	—	—	—	—	—
7月20日	—	2	2	—	—	—
7月21日	—	—	—	—	—	—
7月22日	—	—	—	2	—	—
7月23日	—	—	—	—	—	—
7月24日	—	—	—	—	—	3
7月25日	—	—	—	—	—	—
7月29日	—	—	—	—	—	—
7月30日	—	—	—	—	3	—
7月31日	—	—	—	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			0		0
6月下旬	0			1		0
7月中旬	0			0		0

(普通期水稻)

	高千穂	鞍岡	延岡	神門	加久藤	小林2	宮崎	都城
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	●	●	—	—	●	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	4	4	—	4	—	—	—	—
6月6日	—	1	—	—	—	4	—	—
6月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月8日	—	—	—	—	—	—	●	—
6月9日	—	—	—	—	—	—	—	●
6月10日	—	—	—	4	—	—	—	—
6月11日	●	—	—	●	—	—	4	—
6月12日	—	1	—	—	—	—	—	—
6月13日	—	4	●	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	4	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	●	—	—	—
6月19日	1	4	●	1	—	—	●	—
6月20日	—	1	—	—	—	—	—	—
6月21日	4	4	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	1	1	●	4	●	●	—	—
6月24日	●	—	—	—	—	—	—	●
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	●	1	●	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月1日	?	—	—	—	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月4日	—	—	—	—	●	—	—	—
7月5日	—	1	—	—	—	—	—	—
7月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	—	—	●
7月8日	●	●	●	—	—	3	3	3
7月9日	—	—	—	●	—	—	—	—
7月10日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	?	—	—	—	—	—	—
7月13日	●	●	—	●	3	—	—	—
7月14日	—	●	—	—	—	—	—	—
7月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月20日	—	—	—	—	—	—	—	2
7月21日	—	—	—	—	2	—	—	—
7月24日	—	—	—	—	3	3	—	—
7月28日	—	—	—	2	—	—	—	—
7月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月31日	—	●	—	—	2	—	—	—

調査地点の発病株率の推移(9月中旬は発病穂率)

	高千穂	五ヶ瀬	延岡	東郷	えびの	小林	国富	都城
6月中旬	0	0	0	0	0	0	0	0
7月中旬	2	0	0	0	0	0	0	0
7月下旬	16	30	0	18	0	0	8	4
8月中旬	36	10	6	6	0	1	0	2
9月中旬	5.4	0.5	0	0	0.2	0.3	0	0.1

## 2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

※20回振り/1地点

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	58	0.2	0.4	0.6	2.6	0.0	2.6	1.9	0.2	2.2
南那珂	22	0.1	1.0	1.0	10.0	0.0	10.0	8.2	0.7	8.9
児湯	40	0.1	0.7	0.8	0.9	0.1	1.0	2.3	0.3	2.6
東臼杵	16	0.6	3.5	4.1	7.8	0.0	7.8	2.4	0.1	2.6
全 県	136	0.2	0.9	1.1	3.9	0.0	4.0	3.1	0.3	3.4

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	58	1.2	1.9	3.1	14.8	39.1	53.8	8.5	7.7
南那珂	22	0.5	1.5	2.1	5.7	20.1	25.8	22.1	19.3
児湯	40	1.9	2.1	4.0	3.4	11.5	14.9	8.4	11.3
東臼杵	16	0.4	0.9	1.4	4.7	27.3	31.9	15.8	9.9
全 県	136	1.2	1.8	3.0	8.8	26.5	35.3	11.5	11.9

数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合があります。

平成26年

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

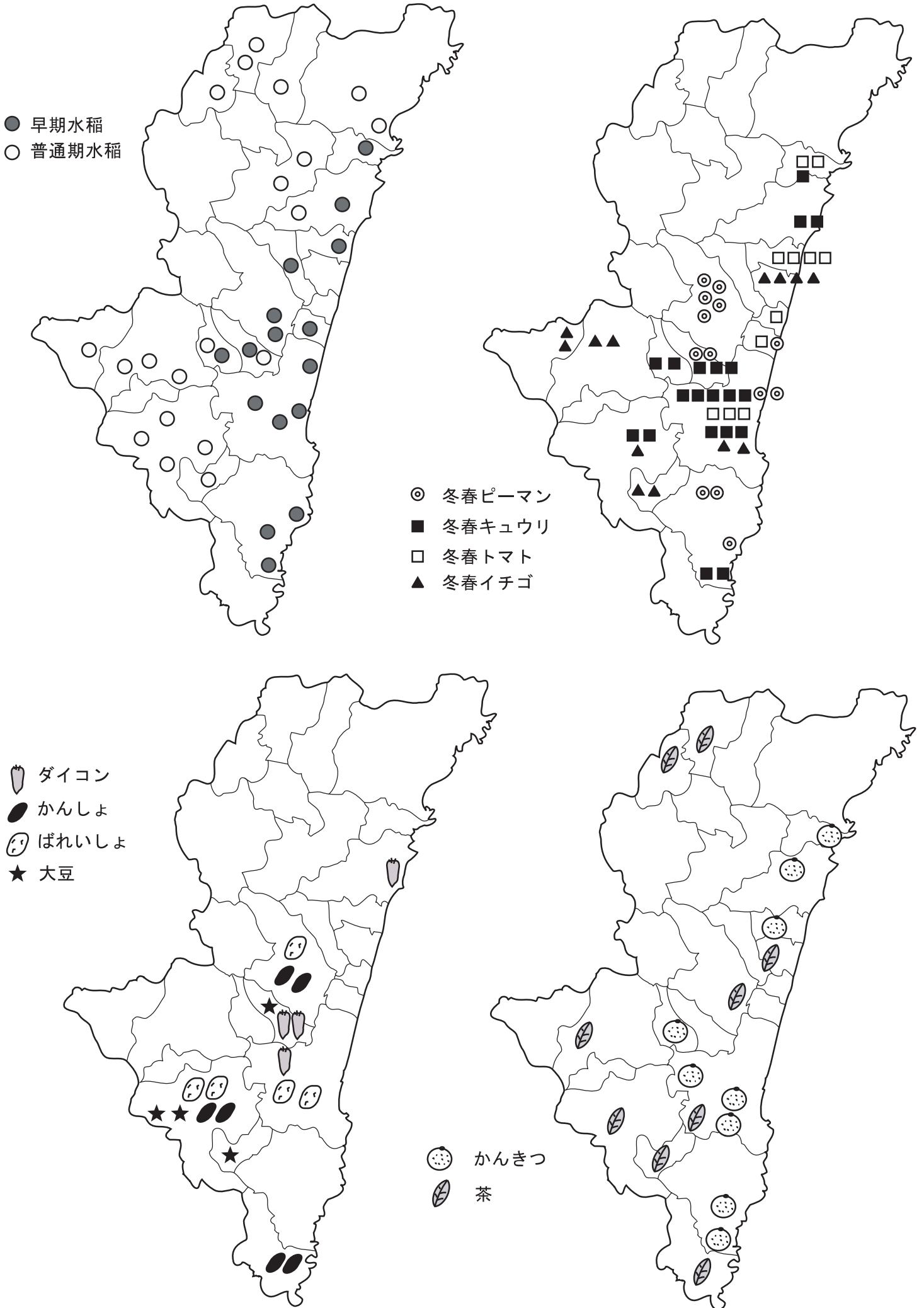
番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	高岡町高浜	7月25日	0.5	9月8日	8月25日	
2	中部	国富町榎木	7月26日	0.1	9月9日	9月2日	
3	南那珂	日南市大窪	7月28日	2.1	9月8日	8月25日	
4	南那珂	日南市南郷町榎原	7月28日	0.4	9月9日	8月25日	
5	南那珂	日南市細田	7月28日	1.2	9月5日	8月25日	
6	南那珂	日南市南郷町湯上	7月28日	3.5	9月9日	8月25日	
7	西諸	小林市東方	8月7日	0.0	9月8日	9月20日	
8	西諸	小林市堤	8月7日	0.1	9月13日	9月20日	
9	児湯	西都市宝財原	7月31日	2.9	9月13日	8月27日	
10	児湯	都農町立野	7月31日	4.3	9月10日	9月3日	
11	南部	日向市高森山	7月23日	0.1	9月14日	8月20日	
12	北部	延岡市川島	7月30日	8.2	9月13日	8月25日	
13	北部	北方町上崎	7月29日	0.2	9月2日	8月25日	
14	防除センター	新富町	8月1日	3.8	9月13日		
15	防除センター	川南町	8月1日	3.2	8月31日		

### Ⅲ その他

#### 1 病虫害防除員の設置状況

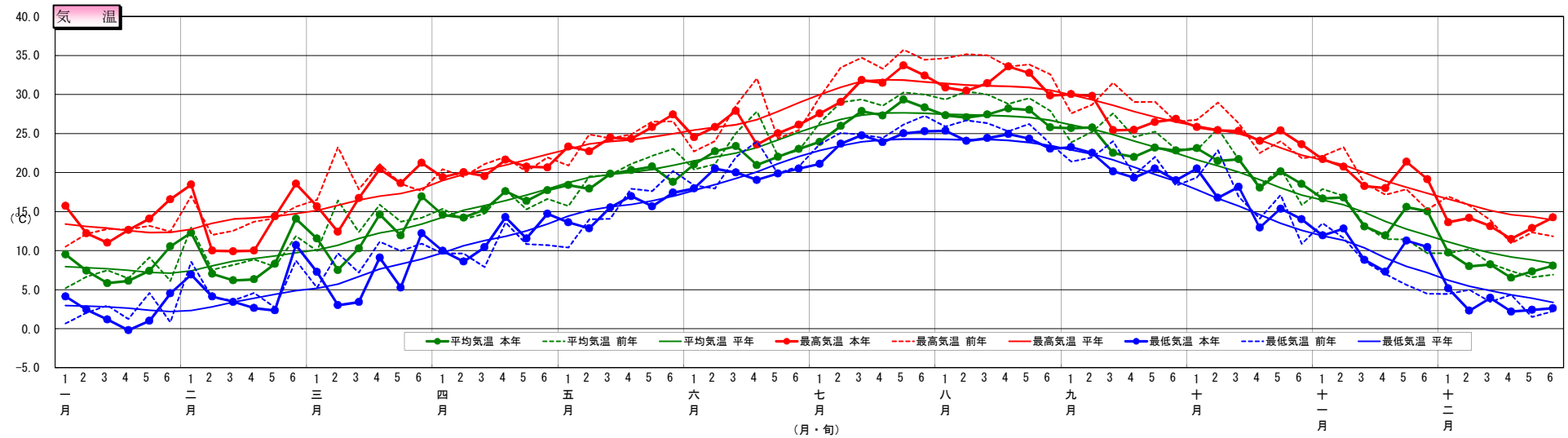
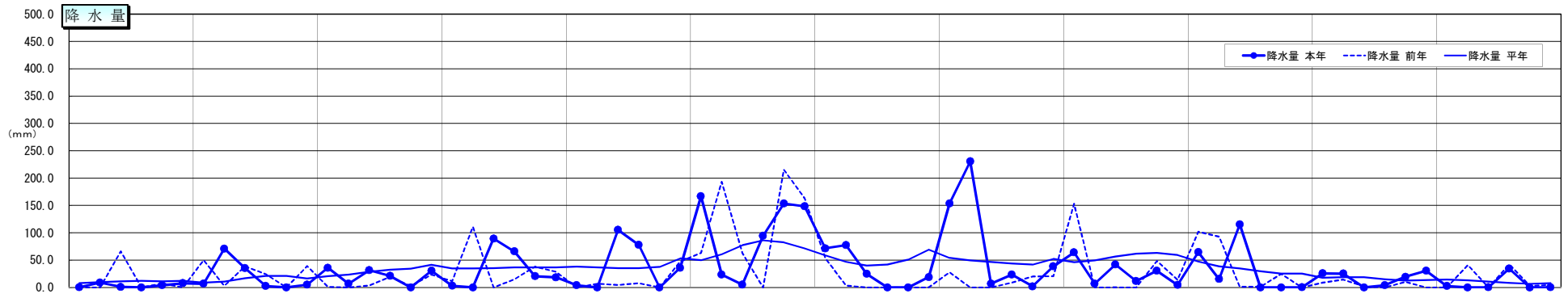
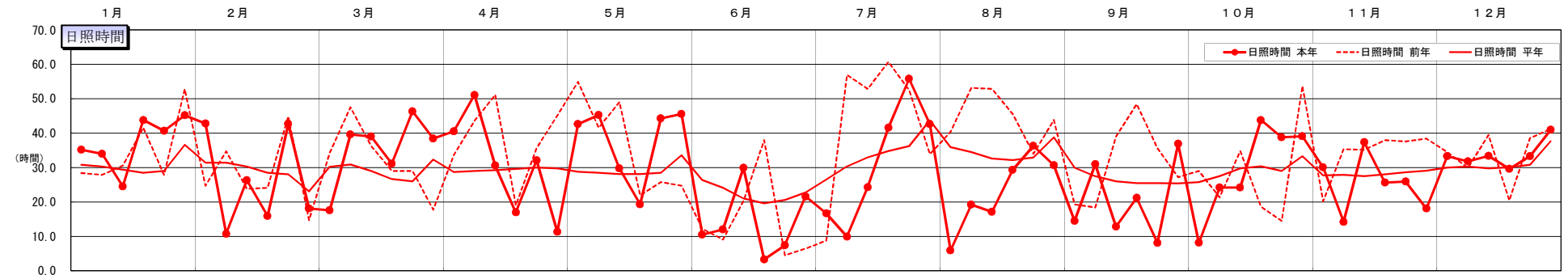
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町	2	1			1	木城町	1				1
綾町	1				1	川南町	1			1	
小計	9	2	1		6	都農町	2		1		1
日南市	4	2	2			小計	11	4	1	1	5
串間市	1				1	延岡市	4	4			
小計	5	2	2		1	日向市	2	2			
都城市	6	5		1		門川町	1		1		
三股町	1	1				美郷町	3	3			
小計	7	6		1		諸塚村	1	1			
小林市	4	3		1		椎葉村	1	1			
えびの市	1				1	小計	12	11	1		
高原町	1	1				高千穂町	2	1		1	
小計	6	4		1	1	日之影町	1	1			
西都市	3	1			2	五ヶ瀬町	1			1	
新富町	3	2			1	小計	4	2		2	
						合計	54	31	5	5	13

## 2 巡回調査ほ場の分布図



### 3. 平成26年気象表 (アメダス日時統計データより)

(平年値1981~2010年)



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課  
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)